

MieMu

みえむ

2017

三重県総合博物館 年報

Mie Prefectural Museum Annual Report

通
巻

4

号

ごあいさつ

三重県総合博物館MieMu(みえむ)は、開館以降三重の自然と歴史・文化に関する大切な資産を保全・継承していくことはもちろんのこと、次代を担う子どもたちをはじめ、県民のみなさんや利用者の方々の学びと交流の場となり、郷土への愛着や誇りを感じることができるように、人づくり、地域づくりに貢献できる博物館を目指して活動しております。また、「ともに考え、活動し、成長する博物館」を活動の理念と位置づけ、県民のみなさんや利用者の方々との協創や、多様な主体との連携による博物館づくりを前進させるべく日々活動しております。

ここに、当館の平成29年度の事業概要を取りまとめた年報を発刊いたします。この年の企画展では、特別天然記念物ニホンカモシカ、三重を走る様々な公共交通機関といった三重県の魅力の源泉となるテーマを追求し幅広い年齢層に楽しんでいただける展示を開催しました。また、全国の最新の発掘成果を取り上げた巡回展「発掘された日本列島2017」、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた皆さんの関心の高まりにこたえる「オリンピック・パラリンピック 栄光の軌跡―秩父宮記念スポーツ博物館 三重巡回展―」を開催いたしました。そして、開館以来3年5ヶ月を経た9月16日に入館者100万人を達成し、一つの節目を迎えることができました。

館の運営をさまざまな面から支えていただいているみなさまに深く感謝を申し上げますとともに、三重県総合博物館への一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和元年12月

三重県総合博物館 MieMu(みえむ)

館長 大野 照文

MieMuとは・・・

「三重」の「ミュージアム」を表現しているとともに、“みえむ”という音は“三重の夢”に通じ、三重への愛着や誇りを持ち、未来への夢を持てるような博物館になりたいという思いを表現しています。



目 次

ごあいさつ	1	5.3.1 講座	36
目次	2	5.3.2 フィールドワーク	39
I 博物館の概要	3	5.3.3 MieMuの日(周年事業)	39
1 使命と理念	3	5.3.4 学習支援冊子・マップ	40
2 ビジョンと戦略目標・戦術	4	5.3.5 人材育成支援活動	40
3 沿革と整備の経緯	5	5.4 他機関・諸団体との交流・連携事業	41
4 施設概要	5	5.4.1 学校	41
		5.4.2 大学	42
		5.4.3 博物館	46
		5.4.4 文化交流ゾーン	48
		5.4.5 国県市町など	48
		5.4.6 その他の諸機関・諸団体	50
II 平成29年度の取組概要	6	5.5 他機関・団体への協力 (職員の諸団体への協力活動)	52
1 運営管理	6	5.5.1 委員、講師等の依頼	52
1.1 事業体系	6	6 企業との連携	58
1.2 組織体制	7	6.1 事業の趣旨・目的	58
1.3 運営状況	7	6.2 パートナー企業数	58
1.4 利用者数	8	6.3 連携事業	58
1.5 歳入歳出決算	8	7 利用者との協創	60
1.6 三重県総合博物館協議会	8	7.1 事業の趣旨	60
1.7 三重県総合博物館協議会評価部会	10	7.2 三重県総合博物館 ミュージアムパートナー	60
2 調査研究事業	10	7.3 ボランティア	63
2.1 研究概要	10	8 広報	64
2.2 研究成果一覧	12	8.1 新聞・テレビ・ラジオ	64
3 資料収集・保存	14	8.2 雑誌	64
3.1 資料一覧概要	15	8.3 ホームページ	64
3.2 資料収集	15	8.4 Facebook・Twitter	64
3.3 歴史的公文書の移管	16	9 博物館の評価	65
3.4 資料保存	16	9.1 評価のしくみ	65
4 展示	16	9.2 平成29年度の戦略目標と戦術の 評価結果	66
4.1 基本展示	16	9.3 みんなでつくる博物館会議	68
4.2 企画展示	16	9.4 アンケート結果概要	68
4.2.1 企画展	16		
4.2.2 交流展	23	III 資料	73
4.2.3 トピック展	27	1 条例・規則	73
4.3 こども体験展示室	28	1.1 三重県総合博物館条例	73
4.4 三重の実物図鑑	28	1.2 三重県総合博物館条例施行規則	77
4.5 オオサンショウウオ生態展示	29	1.3 三重県総合博物館協議会評価部会 運営要領	83
4.6 その他の展示	29	1.4 観覧料免除要綱	84
4.7 野外展示(ミュージアムフィールド)	30	2 事業成果一覧	86
4.8 移動展示	30		
5 交流創造活動事業	32		
5.1 事業の趣旨・目的	32		
5.2 閲覧レファレンス活動事業	32		
5.2.1 レファレンス活動	32		
5.2.2 資料利用(閲覧・特別利用)	32		
5.3 学習支援活動事業	36		

I 博物館の概要

1 使命と理念

1) 使命

1 三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす

三重の自然と歴史・文化に関する資産を、次なる100年、200年に向けて保全・継承するための主要な役割を果たし、三重のありようや履歴を明らかにすることで、地域文化の発展と新たな地域創造につなげます。

2 学びと交流を通じて人づくりに貢献する

MieMuでは、三重の未来を担う子どもたちは、世代を越えた交流の場で、楽しみながら、体験的に学びます。こうしたなかで、子どもたちは、三重への理解と愛着を深め、夢や希望あふれる未来を拓くきっかけを得ます。また、県民・利用者みなさんは、学ぶ充実感を得、知的好奇心を育み、一人ひとりの成長につなげます。

3 地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する

県民・利用者みなさんが、博物館活動の中で、地域に目を向け地域の魅力を再発見し、内外に発信することにより、地域や三重への愛着と誇りを育みます。また、一人ひとりが、各々の関心や生活課題の解決や、新たな地域づくりに取り組むきっかけを提供します。

2) テーマ

三重が持つ多様性の力

MieMuでは、三重の特色である「多様性」と「多様性」に秘められた力について、県民・利用者みなさんとともに探求し、活用、発信するなかで、三重の地域や人に活力をもたらし、「新たな文化を創造する力」、「今をつくり、未来を切り拓く力」を育みます。

・多様性の探求がもたらす力

多様な自然と歴史・文化を探求することで、一人ひとりが三重の魅力を再発見するなかで、三重への愛着と誇りを育み、地域に活力をもたらしめます。

・新たな文化を創造する力

多様（＝異なるもの）であることにより、可能性と選択の幅が広がります。また、異なるものどうしが融合・反発・刺激しあうことにより新しいものを生み出すことにつながることから、「新たな文化を創造する力」をもたらしめます。

・今をつくり未来を切り拓くちから

三重の「多様性」を、みなさんとともに探求・活用・発信することを通じて、地域の相互理解を深め互いの絆を育むとともに、地域や時代の課題解決につなげていけるような、「今をつくり、未来を切り拓く力」をもたらしめます。

《三重の多様性とは》

日本列島のほぼ中央に位置する三重は南北に長く、水深2,000mの深海から標高1,700m近くに及ぶ山岳を含んだ多様な自然環境に囲まれ、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物相を育む日本列島の縮図のような自然を有しています。その豊かで多様性に富んだ自然環境のもとで、人びとの多様なくらしや歴史が育まれてきました。また、三重は古くから交通の要衝の地として栄え、東西文化の結節点、海と山との文化の出会い場所として、活発な人やモノの交流、異なる文化の接触がおこり、新たな文化、多様な文化を生み出してきました。

3) 活動理念

ともに考え、活動し、成長する博物館

博物館活動の展開にあたっては、調査研究活動、収集保存活動、活用発信活動の3つの活動を「協創」と「連携」の2つの視点で進めます。これにより、すべての博物館活動において、県民・利用者みなさんが主体的・能動的に活動できる双方向の活動を通して博物館活動を質量ともに発展させ、一人ひとりの成長と地域づくりを支援していくことをめざします。

2 ビジョンと戦略目標・戦術

1) 活動と運営に係る評価のしくみ

長期にめざす姿(ビジョン)の実現に向けて、開館から当面戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしている。なお、戦略目標とは計画期間中、重点的に目的をもって取り組むことであり、戦術とは戦略目標達成のために、具体的に取り組むこととした。

2) ビジョン

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く、水深2,000mの深海から標高1,700m近くの山岳までも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。

この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点をもったことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。

三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者みなさんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

3) 戦略目標と戦術

戦略目標		戦術	
1	何度も利用していただくために、展示（基本展示・展覧会）を充実させます（展示）	1	何度も利用していただくため、多様なテーマによる展覧会を開催します
		2	基本展示を何度も利用していただくために、展示の更新や解説などを実施します
		3	親子連れで博物館を楽しんでもらえるように、こども体験展示室の利用を促進します
2	博物館の存在を広く知っていただくために、積極的な広報を展開します（集客）	4	メディアに報道してもらうため、メディア向け説明会や内覧会を行います
		5	博物館の活動を知っていただくために、ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどを充実させます
		6	県内の子どもたちに知ってもらうために、教育委員会と連携した広報を行います（チラシ配布の他、連携事業を含む）
3	「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への県民・利用者の参画を促進します（連携）	7	博物館を活用した学びを深めるために、ミュージアムパートナーと協働します
		8	活動への企業の参画促進のために、企業との協働による事業を実施します
		9	市民の参画を促進するために、ボランティア活動の活性化を図ります
4	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できるようにするために、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保全に注力します（資料の保全）	10	収蔵資料を保存・保全するために、収蔵庫および展示室の定期的な清掃・点検を行います
		11	地域の文化財等を保全するために、相談窓口を用意し、指導助言を行います

戦略目標		戦 術	
5	三重に関する資料や、博物館活動の学術的価値づけとその意義を伝えるために、総合博物館の強みを活かした研究に取り組みます（研究）	12	学芸員による研究活動を推進するために、定期的な発表機会を設けます
		13	多様な主体が研究に参画するために、参加型調査を行います
		14	資料の活用を促進するために、収蔵資料データベースの充実を図ります
6	MieMuが利用者にとって知的好奇心を心地よく刺激する場となるように、学習支援機能の向上に努めます（学習支援）	15	利用者の身近な疑問に応えるために、レファレンス業務を行います
		16	学校利用を促進するために、学校や教員を対象とした学習支援プログラムを行います
7	経営資源を効果的に配分するために、評価制度を活用して事業を選択します（経営）	17	事業を日常的に確認し改善するために、定期的に進捗管理を行います

3 沿革

年 月	経 緯
平成25年6月	三重県総合博物館条例公布(平成26年4月19日施行)
平成25年8月	三重県立博物館からの移転に着手(～平成26年1月)
平成26年1月	三重総合文化センターとの連絡通路竣工
平成26年3月	三重県総合博物館条例施行規則公布(平成26年4月19日施行)
平成26年4月	開館(18日：開館記念式典 19日：グランドオープン)
平成26年6月	入館者数10万人達成(6月1日)
平成27年9月	入館者数50万人達成(9月22日)
平成29年3月	三重県総合博物館条例改正(平成30年4月1日施行、一部指定管理制度導入)
平成29年9月	入館者数100万人達成(9月16日)

※MieMuの日(周年事業)は5. 3. 3に掲載。

4 施設概要

名 称	三重県総合博物館	愛 称	MieMu(みえむ)
種 別	登録博物館(総合)	開 館 日	平成26年4月19日
所 在 地	〒514-0061 津市一身田上津部田3060		
電 話	059-228-2283(代)	F A X	059-229-8310
メール	MieMu@pref.mie.jp		
ホームページ	http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/		
ツイッター	https://twitter.com/mie_pref_museum		
フェイスブック	https://www.facebook.com/mie.pref.museum		

【敷 地】

敷地面積	38,884㎡
地域地区	第1種低層住居専用地域、第2種住居地域

【建 物】

建築面積	6,889㎡
延床面積	11,705㎡(各階延床積 1階：4,760㎡、2階：2,125㎡、3階：4,637㎡、屋上階：60㎡)
構 造	SRC造一部RC造、免震構造、3階建て
設計G L	18m

Ⅱ 平成29年度の取組概要

1 運営管理

1.1 事業体系

●総合博物館管理運営費

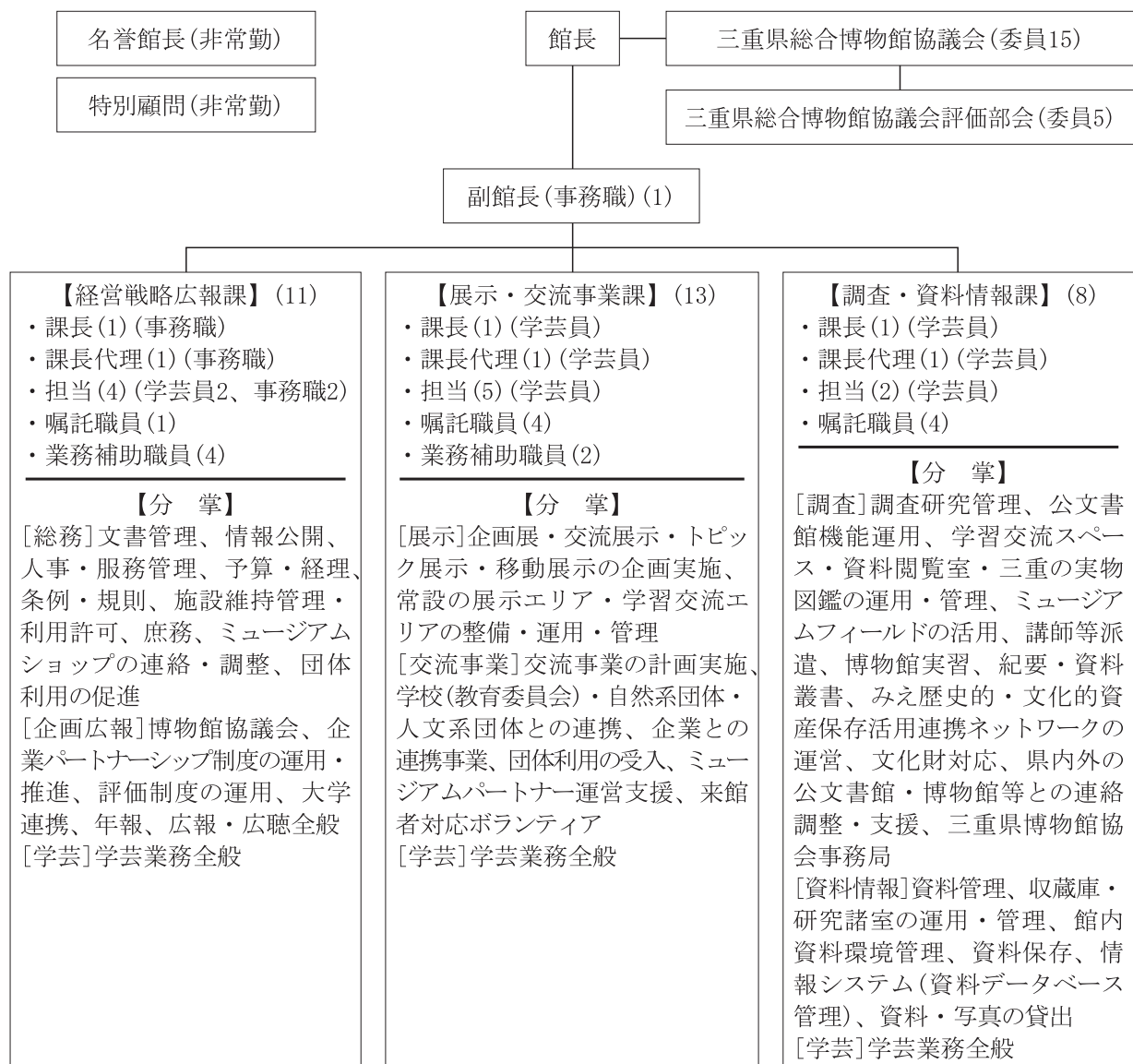
- ・総合博物館管理運営費 施設保守、維持 等

●総合博物館展示等事業費

- ・調査研究費 総合研究、専門研究、共同研究及等の調査研究活動
- ・資料収集管理費 資料収集、資料修復、資料保存環境の管理 等
- ・交流創造活動費 学習交流スペースでのレファレンス活動、ワークショップ 等
- ・展示企画運用費 各種企画展の開催準備 等
- ・アウトリーチ活動費 フィールドワーク等の博物館活動を地域との連携により県内各地で実施
- ・広報宣伝営業推進費 広報宣伝及び企業等への営業活動

1.2 組織体制

1) 組織図・分掌



2) 職員名簿（平成30年3月31日時点）

館長	大野 照文	名誉館長	野呂 昭彦		
副館長	寺本 久彦	特別顧問	布谷 知夫		
経営戦略広報課		展示・交流事業課		調査・資料情報課	
課長	小川 知佐子	課長	瀧川 和也	課長	天野 秀昭
主幹(課長代理)	匹田 賢嗣	主幹(課長代理)	宇河 雅之	主幹(課長代理)	藤谷 彰
主幹	山口 嘉章	主幹	星野 利幸	主査	間瀬 創
主査	村田 光輝	主幹	中野 環	主任	森田 奈菜
主査	太田 光俊	主幹	大西 到	嘱託司書	伊藤 泉子
学芸員	中村 千恵	主査	大島 康宏	嘱託員	植田 佳子
嘱託員	山本 伸一	主任	田村 香里	嘱託員	井上 有希
業務補助職員	加藤 美智子	嘱託学芸員	津村 善博	嘱託員	山本 梨加
業務補助職員	和田 公子	嘱託学芸員	水谷 憲二		
業務補助職員	岸 のりこ	嘱託学芸員	稲垣 玲弥		
業務補助職員	吉川 ひとみ	業務補助職員	堀江 真季子		
		業務補助職員	打田 美紀		
		業務補助職員	古川 浩		
主査	北村 淳一（環境生活総務課と兼務）				
主査	中川 良平（福井県立恐竜博物館へ派遣）				
【職員体制】 常勤職員21（館長1、副館長1、事務4、学芸員13）、嘱託9、業務補助職員6 ほかに学芸員（兼務1、派遣1、育休1）					

1.3 運営状況

開館時間 [エントランスエリア・交流創造エリアなど、来館者の活動エリア] 休館日を除く全日9時～19時

[展示エリア] 火～金曜日 9時～17時 土日祝日 9時～19時

休 館 日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、別途定める日(くん蒸など)

観覧料等 [エントランスエリア・交流創造エリアなど、来館者の活動エリア] 無料

[展示エリア] 下表のとおり

		基本展示	企画展示	セット券	年間パスポート
当 日 券	一般	510円	その都度定める	基本展示＋企画展示 料金の2割引	1,640円
	高校生以下	無料	その都度定める (無料を基本)	設定なし	設定なし
	学生(大学、各種専門学校等)	300円	その都度定める (割引を基本)	基本展示＋企画展示 料金の2割引	1,020円
	障がい者及びその付添者	無料	無料	設定なし	設定なし
	学校、児童福祉施設としての 利用	無料	無料	設定なし	設定なし
	県民の日の記念事業の日	無料	正規価格	設定なし	—
	家庭の日(毎月第3日曜日)	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	—
	団体割引 (20名以上)	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	設定なし
	前 売 券	設定なし	正規価格の2割引	正規価格の2割引	設定なし

1.4 利用者数

平成29年度の当館利用者数は、以下のとおりである。平成29年度の開館日数は308日となっている。

また、詳細な利用者統計に関しては、Ⅲ 資料 2事業成果一覧 に掲載する。

- 1) 入館者数 246,089人 ※博物館への入館者総数(無料スペースのみの利用者を含む)
- 2) 展示観覧者数 155,926人 ※基本展示及び企画展示の観覧者総数(無料観覧者数を含む)
(うち、基本展示 76,515人 企画展示 79,411人) [参考(外数)] 交流展示、トピック展示観覧者数49,873人
- 3) こども体験展示室利用者数 80,620人
- 4) 資料閲覧室利用者数 入室者数 1,325人 資料閲覧者 664人
- 5) 学校による利用者数 214校 10,633人(引率者含む)
- 6) 各種イベント等参加者数 5.3学習支援活動事業に記載

1.5 歳入歳出決算

【歳入】 単位：円

項目	平成29年度決算額
観覧料収入	23,670,320
企業からの協力(企業パートナーシップ 等)	4,880,000
施設活用による収入(ミュージアムショップ等)	3,848,683
その他事業関連収入(資料利用収入等)	938,698
公的団体等からの外部資金の獲得	9,100,000
外部資金を活用した基金からの繰入	9,000,000
県費	383,370,216
合計	434,807,917

【歳出】 単位：円

項目	平成29年度決算額
事業費(総合博物館展示等事業費)	82,920,521
維持管理費・一般管理費(総合博物館管理運営費)	114,633,655
人件費(職員・嘱託員・業務補助員)	237,253,741
合計	434,807,917

1.6 三重県総合博物館協議会

1) 目的

三重県総合博物館協議会は、三重県総合博物館の経営や、調査研究、資料の収集・保存、展示やワークショップなどの博物館活動、並びに、博物館活動を通じた人材育成や地域づくりについて、委員の方々に専門的立場や利用者の観点から意見・提言をいただき、博物館の事業推進に活かすことを目的として設置した。

2) 設置根拠 博物館法第20条、三重県総合博物館条例第14条

3) 設置年月日 平成26年4月19日

4) 委員(敬称略：五十音順) 県内の大学、経済界、報道機関、文化・教育機関、博物館関係者等で構成。

石川保典 中日新聞社三重総局 総局長

大西かおり NPO法人大杉谷自然学校 校長 [副会長]

岡野友彦 皇學館大学文学部 教授

小野礼子 鳥羽市立弘道小学校 校長、三重県小中学校校長会 幹事

北村美香 株式会社ノルテム 取締役、滋賀県立琵琶湖博物館 特別研究員

齋藤彰一 株式会社三重銀行 特別顧問

須田俊明 NHK津放送局 局長
高井健司 大阪市経済戦略局文化部文化課経営形態担当 課長
田部眞樹子 NPO法人三重県子どもNPOサポートセンター 理事長
中尾正己 三重県総合博物館ミュージアムパートナー 代表
中村忠明 公益財団法人伊賀市文化都市協会 理事長
西岡慶子 株式会社光機械製作所 代表取締役社長
福島幸宏 京都府立図書館企画総務部企画調整課
山下治子 株式会社アム・プロモーション 雑誌ミュゼ編集長・常務取締役
山田康彦 三重大学教育学部 教授 [会長]

5) 協議会

①第1回三重県総合博物館協議会

- 1 日時 7月25日(火) 13時30分～16時
- 2 会場 三重県総合博物館レクチャールーム
- 3 出席委員 石川保典、小野礼子、北村美香、須田俊明、高井健司、田部眞樹子、中尾正己、
中村忠明、西岡慶子、福島幸宏、山下治子、山田康彦

4 内容

報告事項

(1) 三重県総合博物館の活動と運営

- 1) 前回の協議会でご指摘いただいた課題への対応状況
- 2) 入館者・展示観覧者の概要およびアンケート結果
- 3) 企画展の開催結果
- 4) 交流創造事業・利用者組織・企業連携
- 5) 公文書館機能
- 6) 平成29年度予算について
- 7) 平成28年度内部評価結果

協議事項

- (1) 三重県総合博物館の事業展開について
- (2) 企画展示等開催のあり方について

- 5 会議の公開 会議は公開で行い、傍聴者はいなかった。

②第2回三重県総合博物館協議会

- 1 日時 12月12日(火) 13時30分～16時
- 2 会場 三重県総合博物館レクチャールーム
- 3 出席委員 石川保典、大西かおり、岡野友彦、小野礼子、北村美香、齋藤彰一、須田俊明、高井健司、
田部眞樹子、中尾正己、中村忠明、福島幸宏、山下治子、山田康彦

4 内容

報告事項

(1) 三重県総合博物館の活動と運営

- 1) 前回の議事でご指摘いただいた課題の対応状況
- 2) 入館者・展示観覧者の概要およびアンケート結果
- 3) 企画展の開催結果
- 4) 交流創造活動事業・利用者組織・企業連携
- 5) 公文書館機能
- 6) 平成28年度決算について

7) 平成28年度外部評価結果

協議事項

(1) 外部評価結果を受けた今後の改善案

(2) 平成30年度の博物館活動の取組について

5 会議の公開 会議は公開で行い、傍聴者は1名

1.7 三重県総合博物館協議会評価部会

1) 目的

三重県総合博物館協議会に、三重県総合博物館の活動と運営に対して評価を実施するために設置。

2) 設置根拠

三重県総合博物館協議会評価部会設置要綱に基づき設置。

3) 設置年月日 平成26年9月5日

4) 委員(敬称略：五十音順)

亀山裕美子 評価士

北村美香 株式会社ノルテム 取締役、滋賀県立琵琶湖博物館 特別研究員

齋藤彰一 株式会社三重銀行 特別顧問

高井健司 大阪市経済戦略局文化部文化課経営形態担当 課長〔部会長〕

中村忠明 公益財団法人伊賀市文化都市協会 理事長

山下治子 株式会社アム・プロモーション 雑誌ミュゼ編集長・常務取締役〔副部会長〕

5) 評価部会

①三重県総合博物館協議会評価部会

1 日時 8月16日(水)13時30分～16時30分

2 会場 三重県総合博物館会議室

3 出席委員 北村美香、齋藤彰一、高井健司、中村忠明、山下治子

外部有識者 亀山裕美子

4 内容 1) 平成28年度内部評価結果の説明

2) 各戦略の評価と今後に向けての改善点

5 会議の公開 会議は非公開で行った。

②外部評価報告会

1 日時 9月4日(月)15時～17時

2 会場 三重県総合博物館会議室

3 出席委員 高井健司

外部有識者 亀山裕美子

4 内容 1) 平成28年度外部評価結果の説明

2) 評価士レポートに基づく評価制度の運用状況と課題

5 会議の公開 会議は非公開で行った。

2 調査研究事業

2.1 研究概要

1) 事業の趣旨・目的

博物館の使命やビジョンを達成するため、調査研究方針に基づき、調査研究を推進し、その調査研究の成果を、展示をはじめとする博物館の活用発信活動で活用することによって、人づくりや地域づくりに貢献する。

2) 事業の概要

他の研究機関との連携のもと、多分野の研究領域による総合研究や共同研究、学芸員がそれぞれの専門領域の調査研究を行う専門研究、および公文書館機能として歴史的文化的資産の調査研究活動を行った。

①総合研究

「三重の自然と歴史・文化」について、三重県総合博物館の使命を体現する活動として、地域づくりに貢献する課題を総合的にとらえて研究し、博物館の全学芸員と外部関係者とともに実施するもので、開館から3年間にわたり、連携協定を結んでいる三重大学と連携し、志摩市域の先志摩半島地域を対象フィールドとして、地域の自然・歴史文化について総合的な調査研究を実施した。その成果を、平成28年度は志摩市内で移動展示「先っちょ志摩に生きる」やシンポジウムで発信し、引き続き平成29年度は会場を当館に移し、交流展「先っちょ志摩に生きる」やトピック展「くらしの道具と小学生と調べるイセエビをめぐる食文化」において成果発信とともに各種関連イベントを行った。

②共同研究

博物館の使命にかかわるテーマなどを、外部の研究者とともに実施した。

大島康宏：伊賀北部地域の昆虫類調査(三重昆虫談話会)

田村香里：ミュージアムフィールドにおけるフクロウの生態調査・研究

森田奈菜：当館収蔵庫へのAPG体系導入について(三重大学 福田知子 講師)

③専門研究

博物館の学芸員が自らの高度な研究能力を維持していくために、専門となる自然や人文、総合分野において実施した。

大島康宏：昆虫類の(特にチョウ目タテハチョウ科)の分類・生物地理学的研究

大島康宏：三重県およびその周辺地域における昆虫相の解明

大島康宏：当館ミュージアムフィールドにおけるチョウ類のモニタリング調査

大島康宏：博物館の昆虫類の調査・普及活動に関わる市民ネットワーク構築の試み

瀧川和也：三重県内の仏像を中心とする文化財に関する基礎的研究

田村香里：ロードキル個体を活用した学習教材の作成と実践に関する研究

藤谷 彰：津藩家臣団の構造と知行制の基礎研究

間瀬 創：リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングに関する研究

間瀬 創：文化財等の保存・展示環境に関する研究

間瀬 創：文化財等の材質・構造に関する科学的手法による調査・研究

森田奈菜：三重県およびその周辺地域における植物相(蘚苔類を中心に)の解明

森田奈菜：当館ミュージアムフィールドにおける植生調査

④歴史的文化的資産の調査研究

公文書館機能にかかる調査研究活動として、歴史的公文書をはじめとする歴史的文化的資産の調査及び関係データの収集・整備を行った。特に県内の所在確認調査が終了している伊勢市の現況確認調査を実施した。今後、博物館・資料館等のない自治体を中心に古文書の所在確認調査研究を進めることを検討している。

3) 研究成果の刊行

- ・三重県総合博物館研究紀要 第04号
- ・三重県総合博物館資料叢書 No. 04(北条義時書状、将軍足利義満御内書、伊勢守護畠山高国感状、徳川家康書状 伊藤又五郎家文書 正木家文書)
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 第15回企画展「きて・みて・さわって カモシカ☆パラダイス」
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 第16回企画展
「みんなののりもの大集合～この夏、三重をのりつくそう～」

- ・展示解説パンフレット「三重を掘る！」
- ・展示解説パンフレット「くらしの道具～いま・むかし～」
- ・展示解説パンフレット「先っちょ志摩に生きる」

2.2 研究成果一覧

1) 発表論文等

- 大島康宏. 2017. 最近のスミナガシ族Pseudergoliniの分類学的研究. 昆虫と自然, 5218-22.
- Hori, M., Nakajima, M., Hata, H., Yasugi, M., Takahashi, S., Nakae, M., Yamaoka, K., Kohda, M., Kitamura, J. Maehata, M., Tanaka, H., Okada, N. and Takeuchi, Y. 2017. Laterality is universal among fishes but increasingly cryptic among derived groups. Zoological Science, 34: 267-274.
- 皆川明子・長友里恵・北村淳一・原田一毅・山本達也. 2018. 三重県の水田水域におけるトウカイコガタスジシマドジョウの繁殖期と水稻作期との関係. 三重県総合博物館研究紀要, 4: 1-7.

2) 著書・編著等

- 太田光俊. 2017. 本願寺「門跡成」と「准門跡」本願寺. 永村 眞 (編). 中世の門跡と公武権力. pp. 319-353. 戎光祥出版, 東京.
- 太田光俊(監), 2018. 志国清平記上, 鳥羽市立図書館, 鳥羽, 50pp.
- 太田光俊・小濱 学・崎川由美子・瀧川和也・竹田憲治・中野 環・東原達也・三好元樹. 2018. 志摩市の文化財. 志摩市教育委員会, 志摩, 52pp.
- 北村淳一. 2017. 小さな湿地の身近な魚. 日本湿地学会 (監). 日本の湿地. pp. 40-41. 朝倉書店, 東京.
- 中川良平. 2018. 青龍窟の化石. 荻田町教育委員会 (編). 青龍窟ハンドブック. pp. 11-12. 荻田町教育委員会, 荻田.

3) 報告・研究ノートなど

- 太田光俊. 2017. 石塔研究から考えたこと—資料論と分析視角の議論について—, 時代の転換と文化 (歴史学フォーラムの記録, 2016). 歴史学フォーラム2016実行委員会(編). pp. 35-39. 歴史学フォーラム2016実行委員会, 大阪.
- 田村香里・中川良平・太田光俊・岸田早苗・稲垣玲弥. 2017. 第15回企画展「きて・みて・さわってカモシカ☆パラダイス」展覧会図録. 三重県総合博物館, 津, 64pp.
- 中野 環・天野秀昭・瀧川和也・宇河雅之・太田光俊・藤谷 彰・星野利幸・水谷憲二. 2017. 三重県総合博物館「みんなののりもの大集合: この夏、三重をのりつくそう」展覧会図録. 三重県総合博物館, 津, 64pp.
- 三好元樹・間瀬 創. 2017. 塚穴古墳出土金属製品の蛍光X線分析. 平成23年～28年度志摩市内遺跡発掘調査報告, 5: 36-40.

4) 普及的著作等

- 天野秀昭. 2017. ファウナ ヤポニカ(日本動物誌). 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 5月14日21面
- 天野秀昭. 2017. 海揚がりの常滑産大甕. 中日新聞くろしお版9月30日16面
- 宇河雅之. 2017. 発掘された日本列島2017. みえんしす18号.
- 宇河雅之. 2017. 使われなくなった単位～トピック展「くらしの道具 いま・むかし」によせて～. みえんしす 19号.
- 宇河雅之. 2017. 焼米俵(やきごめだわら). 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 11月12日23面
- 宇河雅之. 2017. 西国巡礼道中細見増補指南車. 中日新聞くろしお版, 11月18日22面
- 宇河雅之. 2018. 笈摺. 中日新聞くろしお版, 2月24日14面
- 大島康宏. 2017. 海外博物館視察報告 Lee Kong Chian Natural History Museumシンガポール国立自

- 然史博物館. みえんしす 17:4.
- 大島康宏. 2017. 気を付けよう！正しく知ろう！特定外来生物「ヒアリ」. みえんしす 18:4.
- 大島康宏. 2017. 行政機関の特性と専門性を活かした特定外来生物「ヒアリ」への対応と無料の速報展. ミュゼ 119号.
- 大島康宏. 2017. エゾハルゼミ 鳴き声が独特. 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 6月11日11面
- 大島康宏. 2017. ウスバキトンボ. 中日新聞くろしお版, 4月15日14面
- 大島康宏. 2017. アサギマダラ. 中日新聞くろしお版, 10月14日20面
- 大島康宏. 2018. キナンウラナミアカシジミ. 中日新聞くろしお版, 1月27日20面
- 太田光俊. 2017. みんなののりもの大集合. みえんしす 17:1-2.
- 太田光俊. 2017. 三重ののりものと食べ物. みえんしす 18:5-6.
- 太田光俊. 2017. 企画展「みんなののりもの大集合」に4万人～県内を走る公共交通機関の皆さんと来館者の皆さんに支えられて～. みえんしす 19:5-6.
- 太田光俊. 2018. 伊勢まいりにやってきた「おさん」という犬の絵『御蔭参宮文政神異記』. 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 1月14日25面
- 太田光俊. 2017. 紀勢線と特急南紀. 中日新聞くろしお版, 8月19日16面
- 大西 到. 2017. マッコウクジラの骨格標本. 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 4月9日27面
- 門口実代. 2017. 熊野の山菜 ゼンマイ、ワラビ・・・. 中日新聞くろしお版, 4月1日22面
- 瀧川和也. 2017. 伊州上野長田川筋城州笠置迄川絵図. 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 7月9日21面
- 瀧川和也. 2017. 鉄道のレール幅 ゲージ. 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 8月13日19面
- 瀧川和也. 2017. 熊野信仰勧める曼荼羅. 中日新聞くろしお版, 5月20日16面
- 瀧川和也. 2017. 熊野道・八鬼山の町石. 中日新聞くろしお版, 9月16日20面
- 瀧川和也. 2018. 熊野の本地絵巻. 中日新聞くろしお版, 3月23日18面
- 瀧川和也. 2017. 地元企業との新たな連携モデル, コーポレーション・デー. ミュゼ119号.
- 田村香里. 2017. 特集:きて・みて・さわって カモシカ☆パラダイス. みえんしす 16:1-4.
- 田村香里. 2017. 紀伊山地に保護区カモシカ. 中日新聞くろしお版, 6月3日20面
- 田村香里. 2017. 熊野地鶏のルーツ八木戸鶏. 中日新聞くろしお版, 9月2日16面
- 田村香里, 稲垣玲弥. 2017. 企画展「きて・みて・さわって カモシカ☆パラダイス」ワークシート
- 津村善博. 2017. 熊野・木津呂 北山川の穿入蛇行. 中日新聞くろしお版, 7月1日18面
- 津村善博. 2017. 鬼ヶ城の不思議なくぼみ. 中日新聞くろしお版, 12月2日20面
- 中川良平. 2017. 地球探検隊～三重の大地から地球の過去を探る～. みえんしす 16:1-4.
- 中川良平. 2017. 洞窟に埋もれた哺乳類化石の調査. 恐竜博物館ニュース 52号.
- 中野 環. 2017. 博物館は学びの宝庫！～中学生・高校生の職場体験～. みえんしす 19:4.
- 中野 環. 2018. 生息地が減るオカミミガイ. 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 2月11日9面
- 中野 環. 2017. 東紀州にも出現ウミウサギ. 中日新聞くろしお版, 6月17日16面
- 中村千恵. 2017. 特集:オリンピック・パラリンピック栄光の軌跡—秩父宮記念スポーツ博物館三重巡回展—. みえんしす19:1-2.
- 中村千恵. 2018. 学芸員の雑記帳から企画展「オリンピック・パラリンピック 栄光の軌跡」を終えて. みえんしす20:3.
- 中村千恵, 大西 到, 稲垣玲弥. 2017. 交流展「先っちょ志摩に生きる」ワークシート (4～6歳向け／小学生向け). 三重県総合博物館, 津, 4pp
- 藤谷 彰. 2017. 東都大伝馬町街繁栄之図 歌川広重. 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 9月

10日23面

藤谷 彰. 2017. 度会府設置に伴う引渡の達書 明治初期. 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 12月10日25面

藤谷 彰. 2017. 六つの村が合併. 中日新聞くろしお版, 7月15日14面

藤谷 彰. 2018. 鵜殿村(現紀宝町). 中日新聞くろしお版, 1月13日22面

星野利幸. 2018. 御食国・志摩を伝える文献 『延喜式(えんぎしき)』. 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 3月11日11面

星野利幸. 2017. 法勝寺公文所進状. 中日新聞くろしお版, 10月28日20面

間瀬 創. 2017. 将来の災害に備えた“顔の見える”ネットワークづくり. PASSION第39号.

森田奈菜. 2017. 海を旅するタネ ハマオモト. 中日新聞博物館だより. 中日新聞(広域三重), 10月8日21面

森田奈菜. 2017. 熊野灘沿岸にも生育 カビゴケ. 中日新聞くろしお版, 4月29日16面

森田奈菜. 2017. 夏の海辺に生育 ハマボウ. 中日新聞くろしお版, 7月29日16面

森田奈菜. 2017. 東紀州地域のルリミノキ. 中日新聞くろしお版, 12月16日16面

森田奈菜. 2018. ウバメガシ. 中日新聞くろしお版, 2月10日16面

山本梨加. 2017. MieMuでの資料修復. みえんしす 16:5.

山本梨加. 2017. 博物館のおしごと MieMuでの資料の保存処理. みえんしす 17:4.

5) 招待講演・学会発表等

大島康宏. 2017. 9. 4. 三重県総合博物館の企画展実施計画について ～第7回企画展「あんな虫こんな虫 そんな虫 ～身近な小さな生きものたち～」の実施を中心に～. 日本昆虫学会第77回松山大会(昆虫担当学芸員協議会). 愛媛大学.

北村淳一. 2017. 9. 18. 三重県総合博物館(MieMu)の評価制度. 公開シンポジウム2「文化事業に関する評価の再検証」, 日本文化政策学会第11回年次研究大会, 北海道大学. [招待講演]

林 寿樹, 北村淳一, 小北智之. 2018年3月15日. 宿主依存的な卵形の進化: タナゴ類の系統種間比較からの検証. 日本生態学会第65回札幌大会, 札幌コンベンションセンター. [ポスター発表]. 「動物繁殖・生活史」部門ポスター賞優秀賞受賞.

田村香里. 2017. 7. 16. 「生き物に触れるー三重県総合博物館・カモシカ展を事例として」. 平成29年度国立民族学博物館共同研究会(「障害」概念の再検討ー触文化論に基づく「合理的配慮」の提案に向けて), 南山大学人類学博物館. [発表]

津村善博. 2017. 12. 2. 「公開フォーラム: 三重のジオパークの可能性」三重大学三翠会館

間瀬 創, 佐藤嘉則. 2017. 7. 1. 博物館IPMにおけるバイオエアロゾル測定の実用に向けた基礎的な研究. 文化財保存修復学会第39回大会, 金沢歌劇座. [ポスター発表]

日高真吾, 間瀬 創, 中村信也, 米村祥央, 加藤和歳, 田井東浩平, 内田俊秀. 2017. 7. 1. 「中越地震から10年ー公開シンポジウム「災害と文化財レスキュー」に参加してー」. 文化財保存修復学会第39回大会, 金沢歌劇座[ポスター発表]

藤谷 彰. 2017. 11. 13. 「外部との連携による普及活動と人材育成の事例紹介ー国・県・市町・学校との連携活動ー」. 国立公文書館アーカイブズ研修Ⅲ講義, 討論. 国立公文書館.

藤谷 彰. 2017. 12. 6. 「江戸で活躍した伊勢商人」. 東京海上日動本店・本館

藤谷 彰. 2018. 1. 20. 「「みえ歴史ネット」の所在確認調査・現況確認調査の取組」. 第4回全国史料ネット研究交流会. 岡山県ノートルダム清心女子大学.

3 資料収集・保存

当館では、前身の三重県立博物館収蔵資料を引継ぎ、三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承するとともに、基本展示室、企画展示等で、三重の自然と歴史・文化に関するさまざまな資料を展示することを目的に資料を収集・保存している。

3.1 資料一覧概要

〈自然分野〉 413,852点		
地学資料	17,336点	化石(恐竜化石・ほ乳類化石等)、岩石標本、鉱物標本等
動物資料	275,464点	ほ乳類、鳥類、昆虫類、魚類、両生類、は虫類、貝類、クモ類、カニ類、異尾類・棘皮類、海岸動物など形態：はく製、仮はく製、骨格標本、乾燥標本、液浸標本、含浸標本など ※飼育標本：特別天然記念物オオサンショウウオ 1匹
植物資料	121,027点	サク葉標本(原色植物標本、海藻標本、シダ植物標本、裸子・被子植物標本)、植物レプリカ、樹脂標本
理工資料	25点	
〈人文分野〉 151,853点		
考古資料	514点	古墳出土資料等
美術工芸資料	2,751点	絵画書跡、版画(浮世絵ほか)、工芸品(陶磁器)、工芸品(武器・武具など)
歴史資料	69,366点	古文書類、典籍・古記録類、絵図・地図類、貨幣、引札、絵はがきなど
民俗資料	6,141点	衣食住関連、信仰関連生業、生産関連、交通・運輸・通信関連、芸能・娯楽関連、社会生活関連、年中行事関連資料など
歴史的公文書	73,081点	行政文書、絵図地図等、行政刊行物
計 565,705点		平成30年3月現在

3.2 資料収集

1) 資料購入

購入日	資料名・点数
5月31日	・広重初代 東都大伝馬街繁栄之図 3枚

2) 資料寄贈

平成29年度に寄贈を受けた数は14件、寄贈者は個人・団体からであった。

寄贈日	資料名	点数	内 容	寄贈者
4月25日	三重県産鉱物標本	一式	三重県内各所で採集された鉱物標本	個人
5月11日	歴史資料	725点	江戸時代に旧奄芸郡磯山村の庄屋を務めた旧家伝来の地元農村関係資料	個人
6月23日	洗濯板	1点	県内の民家で近年まで使用されていた洗濯板	個人
8月10日	昆虫標本	一式	日本産チョウ類を網羅的に収集した標本群	個人
8月22日	歴史資料	15点	旧志摩国答志郡恵利原村に居住した家に伝わった明治期の地券証	個人
9月5日	伊勢音頭関係資料	一式	伊勢音頭に関する楽器・映像資料ほかの資料	個人
9月14日	「切嵌細工」関係資料	一式	切嵌細工に関する小袋、細工物などの資料	個人
12月6日	歴史資料	一式	江戸時代に津藩領伊賀国奥馬野村の庄屋を務めた旧家に伝来した「御触状写控帳」「宗旨御改帳」などの文書	個人
12月7日	歴史資料	123点	明治時代に刊行された「平民新聞」、「直言」、「光」などの社会主義の新聞	個人
12月19日	歴史資料	1点	『三重縣二千六百年史』	個人
12月27日	歴史資料	139点	斎藤拙堂・土井士恭書の襖などの歴史資料	個人
平成30年1月19日	歴史資料	一式	江戸時代の紀州藩松坂領松ヶ嶋組支配の藤之木村の庄屋を務めた旧家に伝来した村方関係資料	個人
平成30年1月16日	植物標本	一式	三重県藤原岳で採集された植物標本	団体
平成30年1月16日	植物標本	一式	三重県産を中心とした各地で採集された植物標本	団体

3.3 歴史的公文書の移管

1) 歴史的公文書の移管

保存期限5年以上の公文書のうち期限が満了した公文書は、原課から環境生活部文化振興課が引き継ぎ、当館アーキビストとともに評価選別が行われる。選別された歴史的公文書は、随時当館へ移管し、整理保存処置を行って公開閲覧に供している。平成29年度に文化振興課から移管された歴史的公文書及び図面は、下記のとおりである。

戦略企画部9冊、総務部9冊、健康福祉部26冊、こども・家庭局4冊、環境生活部13冊、地域連携部16冊、南部地域活性化局2冊、農林水産部17冊、雇用経済部22冊、伊勢志摩サミット推進局1冊、県土整備部15冊、企業庁13冊、教育委員会33冊、議会事務局20冊、監査委員事務局62冊、労働委員会事務局13冊 合計 275冊

2) 行政刊行物の移管

「三重県行政資料の収集管理に関する訓令」に基づいて、情報公開課で公開のために保存されていた5年を経過した行政刊行物、及び当該年に各課、地域機関で作成された行政刊行物を、情報公開課を通じて引き継いでいる。平成29年度に情報公開課から引き継いだ5年経過の行政刊行物は、241件(1件には複数冊の場合もあり)、当該年度の刊行物は整理中である。

3.4 資料保存

平成29年度資料燻蒸

当館では収蔵庫等の定期燻蒸は原則として行わず、目視点検で虫菌害の進行が疑われる、あるいは点検自体が困難である新規収蔵資料等について、収蔵庫搬入直前に殺虫処理を行う方針をとっている。原則として二酸化炭素処理による殺虫、又は酸化エチレンによる殺虫燻蒸(0.5%)を行い、明らかにカビ被害が発生・進行している場合には酸化エチレンによる殺菌燻蒸(1%)を行う。

平成29年度には二酸化炭素処理を2回、酸化エチレンによる殺虫処理を8回、殺菌処理を1回行った。

4 展示

4.1 基本展示

「基本展示室」と名付けた常設展示では、三重県がどんなところか、三重県の多様で豊かな自然と歴史・文化が持つ多彩な魅力や特色を、360°連続する三重の美しいパノラマに包まれた展示空間の中で一体的に紹介している。“三重がもつ「多様性の力」”をテーマとして、「大地のなりたち」「多様で豊かな自然」「三重をめぐる人・モノ・文化の交流史」「自然とともに生きる」の4つのコーナーで紹介している。

4.2 企画展示

4.2.1 企画展

1) 第15回企画展「きて・みて・さわって カモシカ☆パラダイス」

【会 期】 4月15日(土)～6月25日(日) <開催日数: 62日>

【会 場】 企画展示室(800㎡)

【主 催】 三重県総合博物館

【協 力】 菰野町、菰野町教育委員会、菰野町観光協会、御在所ロープウェイ株式会社、
特定非営利活動法人 三重県自然環境保全センター

【後 援】 三重県博物館協会、歴史街道推進協議会

【概 要】 本展では、国の特別天然記念物であり、三重県民鳥獣にも選ばれている「カモシカ」について、その体のつくりや習性など、生物学的、生態学的観点や、古文書などに見られる人との関わりなどの歴史的観点なども織り交ぜ、あらゆる角度から紹介した。御在所岳山上

にあった、「日本カモシカセンター」の閉園にともない平成18(2006)年に三重県へ寄贈された「世界のカモシカ剥製コレクション」をはじめ、昭和47(1972)年に日中国交回復を記念して日本から中国に贈られたカモシカの返礼動物として日本に贈られたジャイアントパンダの「カンカン」と「ランラン」のはく製も展示した。春の行楽、遠足シーズンに合わせ、体験できるコーナーを設置し、来館者が自由に触れる骨格や毛皮を展示した。本展をとおして、カモシカに興味を抱き、カモシカを育む三重の豊かな自然についてすばらしさや、その環境保護の意識を高めることのきっかけとなることを目的とした。

(主な資料) 展示資料点数 約130点

ジャイアントパンダ「カンカン」と「ランラン」のはく製、北京動物園からカモシカの近況を知らせる手紙、「太郎」と「辰子」中国へ贈られる(動画資料)、カモシカはく製、骨格標本、触れる骨格資料、触れる毛皮資料、カモシカ化石(遺体)(三重県大紀町霧穴産)、カモシカ化石(岩手県花巻市風穴産)、タイワンカモシカ(はく製・骨格)、シーロー(はく製・骨格)、ゴーラル(はく製・骨格)、シャモア(はく製・骨格)、ゴールデンターキン(はく製)、ジャコウウシ(はく製・骨格)、シロイワヤギ(はく製・骨格)、チルー(頭骨)、サイガ((はく製・頭骨)、カモシカ遺骨(湯倉洞窟遺跡出土)、カモシカ第一下顎骨切歯垂飾(湯蔵洞窟遺跡出土)、本草弁疑、和漢三才図会、用薬須知、百品考、本草綱目啓蒙、江戸繁昌記、遠山奇談、ファウナヤポニカ、カモシカの毛皮製品「てぶ皮」、「しり皮」

【観覧料】 一般800円、大学生480円、高校生以下無料

【観覧者数】 14,278人(うち高校生以下:7,272人) 開館日数62日間

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
ギャラリートーク	4月23日(日)	企画展示室	6	当館職員 田村香里
	6月11日(日)		27	
講演会 「世界カモシカ井戸端会議」	4月30日(日)	レクチャールーム	52	かもしか亭森輔(カモシカの専門家)
カモ☆パラ ホネワークショップ	5月3日(水・祝)	学習交流スペース	185	当館職員 田村香里・稲垣玲弥・ミュージアムパートナー ホネ探のみなさん
体験講座 「ほ乳類化石をさがそう」	5月21日(日)	ピロティ	32	当館職員 中川良平・田村香里・津村善博
ジャコウウシにのって写真 をとろう	5月18日(日)	企画展示室	137	当館職員 寺本久彦・稲垣玲弥
計			439	

※ワークショップ「サイガーマスクづくり」「くるくるカモシカ」は企画展示室内で随時実施

【菰野町との連携事業】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
菰野町図書館 ブレ展示	平成29年 3月15日(水) ～4月16日(日)	菰野町図書館	—	※一部～9月30(土)
カモ☆パラ展を見て菰野町を めぐるスタンプラリー	4月15日(土) ～9月18日(月・祝)	当館、菰野町道の駅、 御在所ロープウェイ	—	
「こもしかがMieMuにやってくる」	4月16日(日) 5月5日(金・祝)	当館	—	
本物のカモシカに会いに行こう! アニマル・トラッキング	5月28日(日)	ございしょ自然学校	22	県民の森スタッフ・ 当館職員 田村香里

【刊行物】ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、ワークシート(A5版6頁)、展示図録(A4版64頁)

【担当】田村香里



展示風景



B2ポスター

2) 第16回企画展 みんなののりもの大集合～この夏、三重をのりつくそう～

- 【会 期】 7月8日(土)～9月18日(月・祝) <開催日数：63日>
- 【会 場】 企画展示室(800㎡)
- 【主 催】 三重県総合博物館
- 【協 力】 伊賀鉄道株式会社、伊賀線活性化協議会、伊賀線ジオラマ、伊勢鉄道株式会社、伊勢湾フェリー株式会社、近畿日本鉄道株式会社、御在所ロープウェイ株式会社、三岐鉄道株式会社、JR名松線沿線地域活性化協議会、中部国際空港株式会社、津エアポートライン株式会社、東海旅客鉄道株式会社、鳥羽市営定期船、西日本旅客鉄道株式会社、北勢線事業運営協議会、三重交通株式会社、三重県鉄道網整備促進期成同盟会(三重県、津市、四日市市、伊勢市、松阪市、桑名市、鈴鹿市、尾鷲市、亀山市、鳥羽市、熊野市、伊賀市、朝日町、多気町、大台町、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町)、養老鉄道株式会社、養老線地域公共交通再生協議会、養老線活性化協議会、四日市あすなろ鉄道株式会社、特定非営利活動法人 四日市の交通と街づくりを考える会(YTT)
- 【イベント協力】 ASITA(北勢線とまち育みを考える会)、京都大学天文台天文普及プロジェクト室、鉄道おもちゃ博物館(三重のまんなか・まちかど博物館)、三重県立桑名工業高等学校
- 【後 援】 三重県博物館協会、歴史街道推進協議会
- 【助 成】 公益財団法人 岡田文化財団
- 【概 要】 通勤、通学、ショッピングなど日々の暮らしを支え、旅への憧れをいだかせ、思い出をつむぎ、その姿や機能のカッコよさで感動させる「のりもの」。三重県は、「のりもの」の長い歴史があり、特色あるたくさんの「のりもの」が活躍している地域であることから、本企画展では、鉄道を中心にバスや船、ロープウェイなどさまざまな「のりもの」に関する資料を展示しその魅力を楽しみ学んでいただく機会とした。

(主な資料)

制服・帽子、北勢線ミニ電車(モニ220形226)、しまかぜシート、ゲージ幅説明用レール3種、御在所ロープウェイゴンドラ、図絵、記念乗車券、タブレット閉そく機、伊賀線ジオラマ、運転台機器、運転時刻表(スタッフ)、駅名標、ヘッドマーク、車両ポスター、ミニSL「E101形102」(三岐鉄道)、列車運行図表(複製)、改札鉄、ダッチングマシーン(日付印字器)、電気機関車模型、配車燈、行き先板、警報板、線路工手の組頭(保線係員)のはっぴ、朝顔型連結器、伊勢八王子駅の鬼瓦、近鉄時代 赤堀駅と220系226列車ジオラマ模型、260

系列車模型、ブレーキハンドル、北勢線(モニ220形226)前面カット1/2模型、ナローゲージの電車226号実物大車内再現、北勢線 照明軌道盤(テコ盤)、近畿日本鉄道株式会社開業当時のレール、杉山洋二氏製作 鉄道模型、お召し列車シート、平野カコレクション電話機、電話交換機、柘植駅駅名板、駅弁、JR発足時の車掌の夏の白い制服、ゴーグル、点検用ハンマー、御在所ロープウェイゴンドラ握索部、バスの模型、巻き取り式方向幕、停留場板、整理券発券機、伊勢湾フェリー運航基準図、レッド、救命胴衣、船舶模型、鳥羽市営定期船高速船「しおさい」のプロペラ、ロープカッター、スパイキ、関西鉄道工事写真帳、三重鉄道沿線案内、三重軌道絵葉書、参宮電車乗車御案内、特急燕運行開始当日の上り列車食堂車の爪楊枝、新幹線車掌制帽、新幹線乗客掛ワッペン、リニア中央新幹線模型、記録映像「のびゆく近鉄」

【観覧料】 一般800円、大学生480円、高校生以下無料

【観覧者数】 42,981人(うち高校生以下:20,585人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
「伊賀線ジオラマ」の皆さんによる鉄道模型の運転	7月8日(土)・9日(日)・16日(日)・17日(月・祝)・23日(日)・30日(日)・8月6日(日)・11日(金・祝)・20日(日)・27日(日)・9月3日(日)・9日(土)・10日(日)・17日(日)・18日(月・祝)	企画展示室	—	伊賀線ジオラマ
ギャラリートーク	7月9日(日)	企画展示室	20	当館職員 中野 環・太田光俊
	8月13日(日)	企画展示室	12	当館職員 中野 環
	8月27日(日)	企画展示室	6	
「4次元宇宙シアター」で宇宙旅行	7月16日(日)	レクチャールーム	140	京都大学天文台天文普及プロジェクト室
	7月17日(月・祝)		134	
巨大プラスチックレール鉄道おもちゃ運転会	7月22日(土)	学習交流スペース	—	鉄道おもちゃ博物館(三重のまんなか・まちかど博物館)
	7月23日(日)			
	9月16日(土)			
	9月17日(日)			
「桑工ゆめ鉄道」ミニ電気機関車にのろう!	7月29日(土)	ミュージアムフィールド	518	三重県立桑名工業高等学校
	7月30日(日)		910	
ミニSLに乗ろう!	8月5日(土)	ミュージアムフィールド	606	ASITA(北勢線とまち育みを考える会)
軽便鉄道ミニ電車に乗ろう!	8月12日(土)	ミュージアムフィールド	754	ASITA(北勢線とまち育みを考える会)
	8月13日(日)		804	
	8月26日(土)		590	
	8月27日(日)		742	
計			5,236	

※近鉄特急しまかぜのシート着席体験、御在所ロープウェイのゴンドラ乗車体験は企画展示室内で随時行った。

【三重県鉄道網整備促進期成同盟会との連携事業】

行事名	開催日	会場	人数	備考
こんなにあるんだ みえの鉄道	9月17日(日)	当館内	—	台風接近のため中止

【刊行物】ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、展示図録(A4版64頁)

【担当】中野 環



展示風景



B2ポスター

3) 第17回 企画展 発掘された日本列島2017

【会 期】 9月30日(土)～11月5日(日)＜開催日数：32日＞

【会 場】 企画展示室(800㎡)

【主 催】 文化庁、三重県総合博物館、三重県埋蔵文化財センター、中日新聞社、全国新聞社事業協議会

【協 力】 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会、全国埋蔵文化財法人連絡協議会、公益財団法人元興寺文化財研究所、共同通信社

【後 援】 全国史跡整備市町村協議会

【助 成】 公益財団法人 岡田文化財団

【概 要】 我が国では、毎年約8000件にも上る埋蔵文化財の発掘調査が行われている。その成果は発掘調査の後の現地説明会や発掘調査報告書で公開されているが、他府県の調査成果を知る機会は殆どない。そこで、近年の調査で特に注目された遺跡について紹介し、埋蔵文化財の意義や重要性の普及啓発のために実施されているのが、この全国巡回展である。企画の中核となる「新発見考古速報」展では、旧石器時代から近代までの17遺跡の最新発掘成果のほか、特集では、東日本大震災の復興事業に伴い実施された発掘調査の成果や周囲を海に囲まれた我が国ならではの水中遺跡からの出土資料などを加え、全36遺跡約500点の資料を展示した。三重県埋蔵文化財センターとの共催により、地域展示「三重を掘る!」をあわせて開催した。ここでは斎宮歴史博物館の協力により国史跡斎宮跡出土の羊形硯など国指定重要文化財をはじめ三重県埋蔵文化財センターが所蔵する馬形埴輪(県指定有形文化財)など、県内の発掘調査で出土した旧石器時代から中世までの遺物で、特に注目される資料約500点を展示した。

【観 覧 料】 一般800円、大学生480円、高校生以下無料

【観覧者数】 9,520人(うち高校生以下：4,741人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
勾玉づくり体験	10月8日(日)	実習室	25	三重県埋蔵文化財センター
記念講演会「発掘された日本列島2017ここが見どころ」	10月9日(月・祝)	レクチャールーム	61	近江俊秀(文化庁記念物課)
企画展関連講座「三重の旧石器・縄文時代」	10月1日(日)	レクチャールーム	46	勝山孝文(三重県埋蔵文化財センター)
企画展関連講座「三重の弥生時代」	10月14日(土)	レクチャールーム	57	櫻井拓馬(三重県教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課)
企画展関連講座「三重の古墳時代」	10月21日(土)	レクチャールーム	49	渡辺和仁(三重県埋蔵文化財センター)
企画展関連講座「三重の古代」	10月28日(土)	レクチャールーム	57	大川勝宏(斎宮歴史博物館)
企画展関連講座「三重の中世」	11月3日(金・祝)	レクチャールーム	57	伊藤裕偉(三重県教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課)
計			352	

【皇學館大学との連携事業】

企画展開催期間中に学生による展示解説ボランティアを実施した。来館者に対しては解説パネル以上の情報提供を、また学生に対しては、初対面でかつ幅広い年齢層の人々とのコミュニケーションを図る機会を提供できた。

参加学生：43名(のべ84名) 対話した来館者数：1,532名

【刊行物】ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、展示解説パンフレット「三重を掘る!」(A4判8頁)

【担当】宇河雅之



展示風景



B2ポスター

4) 第18回 企画展 オリンピック・パラリンピック 栄光の軌跡—秩父宮記念スポーツ博物館 三重巡回展—

【会 期】 11月18日(土)～平成30年1月14日(日)＜開催日数：45日＞

【会 場】 企画展示室(800㎡)

【主 催】 独立行政法人日本スポーツ振興センター、公益財団法人日本オリンピック委員会、特定非営利活動法人日本スポーツ芸術協会、三重県総合博物館

【後 援】 公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会、公益財団法人三重県体育協会、三

- 重県障がい者スポーツ協会、三重県高等学校体育連盟、三重県博物館協会
- 【協 力】 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
- 【事業運営】 スポーツミュージアム連携・啓発事業実行委員会
- ※平成29年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業により実施
- 【概 要】 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた日本全国での機運醸成を目的として開催した。秩父宮記念スポーツ博物館収蔵資料を活用し、1964年東京大会を中心に、オリンピックにおける日本の活躍の歴史を伝え、全国各地でのスポーツ振興に寄与することをねらいとした。また三重会場での展示として、「三重とオリンピック」や「三重とスポーツ」との関わりをテーマに、地域展も合わせて開催し、オリンピック・パラリンピックへの関心を高めるとともに、スポーツに参画する方の裾野を広げる機運を高めることに寄与した。なお、地域展においては、当県出身のオリンピック選手として、野口みずき氏、吉田沙保里氏にインタビュー撮影など格別のご協力を頂いた。
- (主な資料) 展示資料点数 約130点
- オリンピックにおける日本の活躍を物語るポスターやメダル・ユニフォーム等秩父宮記念スポーツ博物館収蔵資料、三重県のスポーツ振興に関する当館収蔵資料、当県出身のオリンピック・パラリンピアンに関する資料
- 【観 覧 料】 一般510円、大学生300円、高校生以下無料 ※基本展示観覧料で観覧可
- 【観覧者数】 12,632人(うち高校生以下:5,937人)
- 【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
ギャラリートーク	11月18日(土)	企画展示室	20	井上裕太(秩父宮記念スポーツ博物館) 当館職員 中村千恵
	平成30年 1月14日(日)		7	
ふれて、学んで、挑戦しよう! 三重とこわか国体	11月19日(日)	レクチャールーム 学習交流スペース	283	地域連携部スポーツ推進局国体・全国障害者スポーツ大会準備課
鈴鹿アンリミテッドFC選手による「ボールを使わないかんたんトレーニング教室」	12月2日(土)	学習交流スペース	34	鈴鹿アンリミテッドFC
ボッチャ体験会	12月10日(日)	交流展示室	150	社会福祉法人三重県厚生事業団・みえボッチャ協会
いよいよ来年! 三重でインターハイ開催!	12月16日(土)	レクチャールーム	200	平成30年度全国高等学校総合体育大会三重県実行委員会
木で遊ぶ「クッパ」体験	平成30年 1月7日(日)	レクチャールーム	307	三重県クッパ協会
株式会社百五銀行野球部によるストラックアウト	平成30年 1月13日(土)	学習交流スペース	520	株式会社百五銀行野球部
計			1,521	

【三重県生涯学習センターとの連携事業】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
記録映画「東京オリンピック」上映会	12月17日(日)	三重県生涯学習センター 視聴覚室	113	三重県生涯学習センター 当館職員 中村千恵

【刊 行 物】 ポスター(B2版・A2版)、チラシ(A4版)

【担 当】 中村千恵



展示風景



B2ポスター

4.2.2 交流展

県民・利用者のみなさんや諸団体など、さまざまな主体と連携して交流展を行った。

1) 交流展 よみがえる半泥子の千歳山荘展

会 期	6月13日(火)～7月2日(日)　＜開催日数：18日＞				
会 場	交流展示室(200㎡)				
主 催	津文化協会、半泥子と千歳山の文化遺産を継承する会				
共 催	三重県総合博物館、三重大学				
後 援	津市、津市教育委員会、石水博物館、一般社団法人　三重県建築士会、公益社団法人 日本建築家協会　東海支部　三重地域会				
助 成	公益財団法人　岡三加藤文化振興財団、公益財団法人　岡田文化財団、公益財団法人 三重県文化振興事業団				
概 要	大正・昭和期、茶陶の美の世界に大きな変革をもたらした川喜田半泥子。彼の創作の出発点は、津市の郊外に構えた山荘であった。山荘は、1915～16(大正4～5)年に整備された和館・洋館を中心建物としている。本展では、解体保存されている和館の襖や杉戸絵の障壁画を中心に展示し、半泥子が千歳山荘で体現した美の世界を紹介した。				
主な資料	千歳山絵図、川喜田半泥子の茶器、千歳山荘の襖絵・杉戸絵等。約30点				
観覧者数	2,862人				
関連事業					
行事名		開催日	会場	人数	講師等
講演会「茶の建築／半泥子の建築」		6月17日(土)	三重県生涯学習センター	198	菅原洋一(三重大学工学研究科) 藤森照信(江戸東京博物館)
ギャラリートーク		6月24日(土)	交流展示室	50	菅原洋一(三重大学工学研究科)
		6月25日(日)		47	
		7月1日(土)		45	
		7月2日(日)		51	
ペーパークラフト		6月24日(土)	交流展示室	31	菅原洋一(三重大学工学研究科) および菅原研究室学生
		6月25日(日)		28	
		7月1日(土)		30	
		7月2日(日)		34	
お茶会		6月25日(日)	ウッドデッキ	各50	津文化協会
		7月1日(土)			
		7月2日(日)			
計				664	
担 当	瀧川和也				



A4チラシ(オモテ面)



展示風景

2) 交流展 人形大使「ミス三重」90周年里帰り展

会 期	7月11日(火)～9月3日(日)　＜開催日数：48日＞				
会 場	交流展示室(200㎡)				
主 催	答礼人形「ミス三重」の会				
共 催	三重県総合博物館				
後 援	三重県、三重県教育委員会、津市、津市教育委員会				
概 容	昭和2(1927)年、平和を願ってアメリカから日本に贈られた「青い目の人形」のお礼に、日本人形を贈った。この人形交流から90年目を記念して、県内に残る9体の「青い目の人形」と、州立ネブラスカ大学の日本人形「ミス三重」を展示した。				
主な資料	答礼人形「ミス三重」、青い目の人形など				
観覧者数	14,798人				
関連事業					
行事名		開催日	会場	人数	備考
答礼人形「ミス宮城」特別展示		7月11日(火) ～23日(日)	交流展示室	—	
ギュリック 3 世ご夫妻の来津 (津市立一志東小学校訪問)		7月14日(金)		—	
同(交流展見学)		7月15日(土)		—	
ギャラリートーク		7月15日(土)	交流展示室	103	青木 勝（株式会社吉徳人形店 顧問）
		8月27日(日)		80	
日米小学生「友情テレビ会議」		8月30日(水)	レクチャールーム	60	ネブラスカ州ファイアリッジ小学校 児童・松阪市立豊地小学校児童
計				243	
担 当	水谷憲二・天野秀昭				



A4チラシ(オモテ面)



展示風景

3) 三重大学との連携事業展 先っちょ志摩に生きる

会 期	9月30日(土)～12月3日(日)　＜開催日数：57日＞				
会 場	交流展示室(200㎡)				
主 催	三重県総合博物館、三重大学				
共 催	志摩市教育委員会				
協 力	船の科学館「海の学びミュージアムサポート」				
後 援	三重県博物館協会				
概 要	三重県総合博物館と三重大学は、平成26年度から平成28年度までの3年間、共同で先志摩半島(志摩市志摩町)を対象として総合的な共同研究を行ってきた。本展は、その研究成果にもとづき、志摩のなかでも特に個性的な当地域の自然と歴史・文化の特徴と、その移り変わりを紹介するために開催した。本展では、江戸時代の越賀村における空間構造を端緒として、過去と現在の景観の移り変わりを示すとともに、先志摩半島で盛んに行われているイセエビ漁や海女漁について、撮影した動画や関係の道具を通して紹介した。また、民俗学者の宮本常一が携わった志摩市歴史民俗資料館と、近年国の登録有形民俗文化財に登録された「志摩半島の生産用具及び関連資料」を取り上げ、当地域の多様な生業形態についても取り上げた。				
主な資料	越賀村絵図、越賀の郷蔵文書『検地帳』、志摩国英虞郡越賀村全図、先志摩半島の岩石、エビ網、フゴ、イセエビの幼生(フィロゾーマ、プエルルス)等約200点				
観覧者数	12,632人				
関連事業					
行事名		開催日	会場	人数	講師等
ギャラリートーク		10月1日(日)	交流展示室	29	菅原洋一(三重大学工学研究科) 当館職員　瀧川和也
		10月15日(日)		31	塚本明(三重大学人文学部) 小川益司(志摩町越賀出身)
ワークシートでたんけんしよう！志摩の海		10月8日(日)	交流展示室	16	当館職員　中村千恵・大西到・稲垣玲弥
		11月26日(日)		69	
講演会「超音波バイオテレメトリーによるイセエビの行動追跡の試み」		11月5日(日)	レクチャールーム	29	荒井修亮(京都大学フィールド科学教育研究センター 海洋生態系部門)
講演会「イセエビを育てるーふ化幼生の飼育から国内初の人工稚エビ放流までー」		11月11日(土)	レクチャールーム	16	土橋靖史(三重県水産研究所)
計				190	
担 当	瀧川和也、門口実代				



A4チラシ(オモテ面)



展示風景

4) 交流展 日本の甲冑・武器武具の世界～武家の装いを支えたモノづくりの伝統～

会 期	平成30年2月3日(土)～3月18日(日)　＜開催日数：38日＞				
会 場	企画展示室(600㎡)				
主 催	伝統的なモノづくり文化の次世代への継承事業実行委員会				
共 催	一般社団法人　日本甲冑武具研究保存会近畿支部・東海支部、三重県総合博物館				
協 力	特定非営利活動法人　三重ドリームクラブ(高虎手作り甲冑教室)				
後 援	三重県博物館協会				
内 容	南北朝時代から現代に作られた、日本各地の大家伝来の優品から実戦用の機能的な甲冑や太刀、槍などの武器武具、三重県ゆかりの藤堂家に関する資料など約250点を展示。				
主な資料	甲冑や太刀、槍などの武器武具など				
観覧者数	11,625人				
関連事業					
行事名		開催日	会場	人数	講師等
記念講演会 「日本の甲冑―歴史と変遷―」		2月3日(土)	レクチャールーム	45	稲田和彦(京都国立博物館 名誉館員)
私の甲冑デザインコンクール		2月3日(土)～ 3月18日(日)	企画展示室	1,107	当館職員　宇河雅之・田村 香里
甲冑に親しむ着付体験		2月12日(月・振休)	交流活動室・学習交 流スペース	145	当館職員　田村香里
		3月10日(土)		116	
子ども甲冑づくり体験		2月18日(日)	レクチャールーム	24	特定非営利活動法人　三重 ドリームクラブ(高虎手作り 甲冑教室)
ギャラリートーク		3月3日(土)	企画展示室	18	当館職員　宇河雅之
		3月4日(日)		40	
計				1,495	
担 当	宇河雅之				



A4チラシ(オモテ面)



展示風景

5) 交流展 伊勢型紙の技と模様「江戸小紋」展

会 期	平成30年3月15日(木)～3月21日(水・祝) <開催日数：7日>			
会 場	交流展示室(200㎡)			
主 催	重要無形文化財保持団体 伊勢型紙技術保存会			
共 催	三重県総合博物館			
後 援	三重県、三重県教育委員会、鈴鹿市、鈴鹿市教育委員会、NHK津放送局			
内 容	重要無形文化財保持団体 保存会会員の彫った型紙で染めた訪問着や着物、伝承者・研修者・研修生の彫った型紙と生地見本染などを展示した。			
主な資料	江戸時代の大名が袴(かみしも)の模様として染めた細かい模様が特徴の「江戸小紋」に関する資料を中心に、型紙や着物など。			
観覧者数	1,046人			
行事名	開催日	会場	人数	講師等
「彫刻実演」伝承者・研修者 による四技法と糸入れの実演	3月17日(土)・18 日(日)	交流展示室	—	重要無形文化財保持団体 伊勢型紙技術保存会
担 当	大西 到			



A4チラシ(オモテ面)



展示風景

4.2.3 トピック展

三重の自然や歴史・文化についてなど、話題性のある小規模な展示を当館主催で開催した。

1) 暮らしの道具と小学生と調べるイセエビをめぐる食文化

会 期	平成30年1月4日(木)～2月16日(金) <開催日数：38日>			
会 場	交流展示室(200㎡)			
主 催	三重県総合博物館			
協 力	船の科学館「海の学びミュージアムサポート」、和具海老網同盟会			
後 援	三重県博物館協会			
内 容	明治時代から昭和時代にかけての生活用具を紹介するとともに、今回は「イセエビ漁」を特集し、イセエビの獲り方や道具、食べ方について紹介した。また、志摩市内の小学生による「志摩のお魚調査」の調査成果も展示した。			
主な資料	当館所蔵の民俗資料、イセエビ漁に関する道具類など			
観覧者数	6,910人			
関連事業				
行事名	開催日	会場	人数	講師等
ギャラリートーク「道具にまつわるエトセトラ」	1月4日(木)	交流展示室	15	当館職員 宇河雅之
	1月5日(金)		13	
	1月6日(土)		36	
	1月13日(土)		33	
トークショー「イセエビの獲り方と食べ方」	1月28日(日)	実習室	33	小磯幸保・大山忠秋(和具海老網同盟会) 当館職員 北村淳一
計			130	
担 当	宇河雅之			



A4チラシ(オモテ面)



展示風景

4.3 こども体験展示室

こども体験展示室は小さな子どもでも博物館を身近に感じ、楽しみながら学びを得られる展示室である。展示室の中は、やってみるコーナー、しらべるコーナー、つたえるコーナー、未就学児コーナーの4つのコーナーにわかれており、それぞれの場所で子どもたちが自ら展示を探してみつけ、興味をもったものをしらべ、発見したことを発表できる。この一連の流れは博物館の学芸員の仕事の調査・研究・展示発表と同じであり、その体験ができるようになっている。平成29年度は第15回企画展「きて・みて・さわって カモシカ☆パラダイス」にあわせて展示となにこれボックスを更新、平成30年1月4日(木)から1月28日(日)まで開催した新春干支企画「MieMuでイヌをさがそう」にあわせて展示を更新した。

4.4 三重の実物図鑑

昆虫や植物、動物、伝統工芸品など三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を、図鑑のようにじっくりと間近で見ることができる展示室。平成30年1月4日(木)から1月28日(日)開催の新春干支企画「MieMuでイヌをさがそう」にあわせた展示も行った。

1) 自然分野

自然に関する資料は、図鑑のような分類展示を意識し、動物、植物、岩石・鉱物、化石ごとに展示している。また、映像やグラフィック、触れる標本など、生物の生態を伝える展示手法を加えて、身近な三重の魅力を再発見できるよう展示している。

平成29年度は、常設の展示に加えて、次の取組を行った。

【昆虫】 県民とともに実施しているミュージアムフィールドの昆虫調査において、参加者が各自のテーマで調査した成果をドイツ箱にまとめて展示した。

【脊椎動物】 平成30年の干支である戌にちなみ、1月にイヌ科の動物のはく製を展示した。

【植物】 平成30年の干支である戌にちなみ、和名に「イヌ」のつく植物を展示した。

【貝類】 「今週の貝」として、ミニ資料カード・解説を設置して紹介(随時)

【岩石・鉱物】 話題性のある資料について、パンフレット等を設置して紹介(随時)
寄贈を受けた資料で「日本のひすい・世界のひすい」の特別ミニ展示をした。
寄贈を受けた資料で「石英の世界(1)」の特別ミニ展示をした。

2) 人文分野

三重の歴史と文化に関する資料を、出土したモノ、受け継がれたモノ、継承されるワザ、愛用されたモノ、受け継いでいくキロクといった分類で展示した。

【展示一覧】

コーナー	展示期間	展示資料
出土したモノ	4月1日(土)～9月18日(月・祝)	夏見廃寺(丸瓦・平瓦・塼仏など)
	平成30年 2月3日(土)～3月31日(土)	夏見廃寺(丸瓦・平瓦・塼仏など)
受け継がれたモノ	4月1日(土)～9月18日(月・祝)	六鯨図 一巻
	平成30年 2月3日(土)～3月31日(土)	耕作図巻(早春)(田起、初蒔き、代掻き、田植え)
継承されたワザ	4月1日(土)～9月18日(月・祝)	伊勢型紙4点(縞彫「養老寄稿小紋」(S38)、道具彫「市松柄」(S28)、道具彫「さや形柄」(S28)、錐彫「波柄」(S29))
	平成30年 2月3日(土)～3月31日(土)	伊勢型紙4点(縞彫「養老寄稿小紋」(S38)、道具彫「市松柄」(S28)、道具彫「さや形柄」(S28)、錐彫「波柄」(S29))
愛用されたモノ	4月1日(土)～9月18日(月・祝)	志摩の婚礼道具(三三九度盃、テビキ)
	平成30年 2月3日(土)～3月31日(土)	志摩の婚礼道具(三三九度盃、テビキ)
受け継いでいく キロク	4月1日(土)～9月18日(月・祝)	大正期の文化財保存運動(茂福城跡調査書/五百羅漢調査報告書/城址名勝史蹟天然記念物調の資料3点)
	平成30年 2月3日(土)～3月31日(土)	明治時代の地籍図(伊勢国安濃郡足坂村全図/伊勢国安濃郡五百野村全図資料2点)

【特集展示】

事業名	展示期間	展示資料
埋蔵文化財展 「発掘された三重のお墓」	9月20日(水)～11月12日(日)	企画展「発掘された日本列島」の地域展示「三重を掘る！」にあわせ、「発掘された三重のお墓」を開催した。初出品の井田川茶臼山古墳冠部品をはじめ、「三重を掘る！」で紹介できなかった縄文時代から近世に至る逸品を、およそ100点展示した。【主な展示資料】※すべて三重県埋蔵文化財センター蔵《縄文時代》大原堀遺跡(松阪市)縄文土器、《弥生時代》小牧北遺跡(四日市市)弥生土器、《古墳時代》瀬干遺跡(松阪市)土師器、織糸遺跡(明和町)土師器、近代古墳(伊賀市)鉄鉾・直刀
明治初期の三重の できごと	11月25日(土)～12月28日(木)	2018年が明治維新150年にあたることから、それを記念して、明治初期の三重で起こった以下の事件に関する資料を紹介した。 ①度会府の設置・度会県への改称(明治元年・2年)、②天皇東幸・再幸(明治元～2年)、③廃仏毀釈と門前町(宇治山田)の神葬祭・廃寺(明治元～2年)、④賈金引き替え(明治2年)、⑤旧幕府領管轄地の度会県への引渡(明治2～3年)、⑥忍藩一揆(明治2年)
平民新聞特別展示	12月10日(日)～ 平成30年1月28日(日)	寄贈いただいた資料の中から、「平民新聞(週刊)」の第1号、赤刷の第64号、日露戦争に対する非戦記事掲載号や、後継紙の「直言」の緑刷の婦人号、「光」の第1号などを展示し、これらの資料の概要を解説するとともに当時の社会動向を紹介した。
戌年にちなんで	平成30年 1月4日(木)～2月2日(金)	戌年にちなんで、当館の収蔵資料から「イヌ」に関連した自然から歴史・文化まで幅広い分野の資料を展示した。※自然分野の展示は1)参照 【主な展示資料(人文系)】東京名所三ツ井ハウスノ図する賀町、東都大伝馬街繁栄之図、和漢三才図会 卷三十七、御蔭参宮文政神異記 下、広重 伊勢参宮 宮川の渡しーおかげまいり、一北斎 東海道五十三次絵尽 土山、広重 膝栗毛道中雀雲津の宿はつれ、神奈川横浜新開港図、狛犬ア・ウンなど

4.5 オオサンショウウオ生態展示

館内の観察水槽にてオオサンショウウオのさんちゃんを飼育し生態展示を行っている。このオオサンショウウオ(さんちゃん)は平成4年に名張市美旗の小波田川にて保護し、当館の前身にあたる県立博物館で飼育していたものを平成26年2月に現施設に移動し飼育している。

なお、給餌の公開を実施している(参加人数等は 5.3.1 講座 を参照)。

4.6 その他の展示

学習交流スペースなどを利用し、以下の展示をあわせて、その他の団体との協働による展示活動などを行った(5.4.6 その他の諸機関・諸団体 参照)。学習交流スペースは、交流創造エリアの中心的な役割を果たすスペースで、三重に関連する本や図鑑、辞典、専門書、読み物や写真集などを配架した「三重を知る1,000冊コーナー」などを中心に、県民・利用者みなさんの学習や研究、活動と交流の舞台となっている。

【展示一覧】

事業名	会場	展示期間	概要
ヒアリについての展示	エントランス	7月14日(金) ～8月31日(木)	国内の主要な港湾等で相次いで発見されているヒアリについて、実物標本およびパネルにより紹介。
菰野町小学生によるカモシカに関する研究や工作を展示	レファレンス カウンター横	10月7日(土) ～15日(日)	企画展をご覧いただいた菰野町の小学生児童が、カモシカをテーマとして作成した夏休みの自由研究レポートや工作作品、解説パネルなどを展示。
ハチの展示	エントランス ホール	12月22日(金) ～平成30年1月31日(水)	当館のミュージアムフィールドで発見された未記録種のハチを展示。

4.7 屋外展示(ミュージアムフィールド)

1) 観察の林

三重県総合博物館の建設に際して、周辺地域でも開発等で減少している里山残存林を、博物館活動での活用を目的として保存した。里山残存林であったため放置され、藪山となっていた林床の下草等を刈り取る最低限の手を加えた状態で管理している。

主な構成樹種	高木層	ツブラジイ、コナラ、アベマキ、ヤマザクラ、ヤマモモ、ハゼノキ
	亜高木層	シロダモ、カクレミノ
	低木層	ミミズバイ、ネズミモチ、ヒサカキ、アオキ
	草本	ネザサ、ベニシダ、ヤブミョウガ

2) 交流の広場

植栽した芝生の広場を中心とするエリア。周辺には「木のずかん」と称するゾーンを設けて、屋内展示等で紹介している三重の植生や暮らしにかかわりのある樹木を植栽。また、県内産の岩石や各河川の砂利を用いた通路等を設置している。

・ 交流の広場の植栽

ドングリのなかま	ウバメガシ、ウラジロガシ、シリブカガシ、ツクバネガシ、スダジイなど
薬になる植物	ニッケイ、キハダ、ナツメ、クコ、カリン、テンダイウヤクなど
布などを染める植物	クチナシ、シャリンバイなど
くらしの中の植物	ミツマタ、コウゾ、キリ、シナノキ、トチノキ、カキ、ザクロなど
マツやスギのなかま	スギ、ヒノキ、モミ、ツガ、カヤ、イヌガヤ、コウヤマキ、イチイなど
虫があつまる植物	カラタチ、マグワ、イボタノキ、シダレヤナギなど
サクラのなかま	カンヒザクラ、エドヒガン、ソメイヨシノ、オオシマザクラ、カスミザクラ
ツツジのなかま	アカヤシオ、シロヤシオ、ヤマツツジ、ヒカゲツツジ、コアブラツツジ ベニドウダン、サツキ、モチツツジなど

- ・ 県内産岩石を用いた石のベンチ
- ・ 県内河川礫を用いた階段洗い出し
- ・ モウソウチクの残置林
- ・ 野外学習スペース

4.8 移動展示

遠隔地域等、当館の利用が難しい県民のみなさんへのアウトリーチ活動として移動展示を開催した。

1) さわって感じる三重の海辺

会 期	11月11日(土) <開催日数:1日>
会 場	三重県立盲学校
主 催	三重県総合博物館
協 力	三重県総合博物館ミュージアムパートナー ユニバーサル・ミュージアムグループ
内 容	伊勢湾の干潟に生息する貝類を中心に、三重の海辺の生きものについて学べる触れる展示を行った。
主な資料	貝類標本、恐竜の化石、動物の骨格など
観覧者数	101人
担 当	田村香里



展示風景①



展示風景②

2) たんけん！はっけん！御浜町

会 期	平成30年2月24日(土)、25日(日)　＜開催日数：2日＞				
会 場	御浜町中央公民館				
主 催	三重県総合博物館				
協 力	御浜町教育委員会、御浜町立阿田和小学校				
内 容	七里御浜のなりたちや、東紀州の生きもの、熊野詣に関する資料のほか、博物館が調査した三重のお雑煮についても紹介した。 また、御浜町立阿田和小学校の6年生児童との七里御浜の岩石に関する共同調査結果も展示した。				
主な資料	熊野詣に関する旅行携行品、カマイルカ骨格など				
観覧者数	131人				
関連事業					
行事名		開催日	会場	人数	講師等
調べよう！ わたしの町の岩石・鉱物		11月29日(水)	御浜町中央公民館 七里御浜海岸	24	当館職員 田村香里・津村善博
MieMuの館長と調べる三葉虫 のひみつ		平成30年 2月25日(日)	御浜町中央公民館	17	当館館長　大野照文
計				41	
担 当	田村香里				



A 4 チラシ(オモテ面)



展示風景

5 交流創造活動事業

5.1 事業の趣旨・目的

三重の自然と歴史・文化に関する知りたい、学びたい、調べたいなどのさまざまなニーズに対応するとともに、県民・利用者、諸団体、館の相互交流の場となることにより、新たな創造や発信へとつなげるために、閲覧レファレンス活動事業、学習支援活動事業、諸団体との交流・連携事業を展開する。

5.2 閲覧レファレンス活動事業

5.2.1 レファレンス活動

学習交流スペースの利用者に対して、レファレンスカウンターに学芸員が常駐し、三重の自然と歴史・文化、博物館利用に関する質問や疑問、相談に応じている。展示を楽しむだけでなく、さまざまな分野の専門家と日常的に出会うことができる場を用意し利用者と情報交換できる場となっている。

5.2.2 資料利用（閲覧・特別利用）

公文書館機能をもつ当館では、資料閲覧室において、歴史的公文書をはじめとする収蔵資料の閲覧に対応している。資料閲覧室には、三重の自然と歴史・文化に関する参考図書、三重県行政文書複製物（一部閉架）、三重県公報複製物（一部閉架）等が配架されており自由に閲覧可能である。収蔵庫の収蔵資料、書庫の収蔵図書の閲覧については、事前予約が基本となるが閲覧することができる。また、所定の手続きを行うことにより、収蔵資料の写真掲載や貸出等の資料特別利用についても対応を行っている。

1) 資料閲覧室の利用内訳（平成29年4月から平成30年3月末まで）

閲覧状況	種目	資料内容	利用者数 (人)	利用点数 (点)
閉架収蔵資料閲覧	自然系	動物・植物・鉱物その他	16	279
	人文系	考古資料/絵図・地図/刷り物/絵葉書/歴史資料/絵画・墨蹟/陶磁器/民俗その他	51	204
		写真資料/映像資料	0	0
		古文書（一紙物・整理済文書群及び県史からの移管文書群/典籍類）	26	246
		歴史的公文書（行政文書・選別移管公文書/絵図・地図）	92	482
		歴史的公文書（行政刊行物）	19	40
	図書	図書（閉架図書）	23	116
	行政利用	選別公文書・明治期公文書等	14	27
	上記資料合計		241	1,394
開架資料閲覧		図書・複製物（明治期公文書・三重県公報）・映像等	423	
室内見学者			661	
資料閲覧室入室者数合計			1,325	

2) 資料特別利用一覧

（資料貸出）

利用資料名	申請者	目的	期間
駒田家文書 第9回関西府県聯合共進会三重県協賛会規則/地図・図面用資料カード 第九回共進会全図（袋入）/ 駅鈴型茶器（刻銘「鈴鹿万古」）	亀山市歴史博物館	第28回企画展「関萬古～近代産業をめぐる人々～」における展示利用	4月13日 ～6月13日
タヌキ/マダコ	三重県立盲学校	当館見学にかかる事前学習資料	4月23日 ～4月25日
ユーステノプテロン化石 /レピドータス化石/キダイ骨格標本/ワタトリカイメン/ヒトデ標本/パイプウニ/バクダンウニ	海の博物館	特別展「骨まで愛して♥海の生きもの ～まるごと学ぶ、まるごと使う～」における展示利用	7月4日 ～10月29日

利用資料名	申請者	目的	期間
小川勇吉寄贈資料 / 岩石・鉱物/化石	志摩市歴史民俗資料館	夏休み企画展「隆起海食台とリアスのまち 志摩」における展示利用	7月24日 ～9月30日
オガワマッコウ骨格(頭骨/下顎骨)	三重大学	増養殖研究所南勢庁舎における展示利用	7月25日 ～8月1日
ニワトリの骨格標本	三重大学附属小学校	教育実習における教材利用	9月23日 ～9月28日
イルカ(頭骨)/パレオパラドキシア(脛骨)レプリカ/クジラ(顎骨の一部)/メガロドン/ウニ/ヒトデほか 化石	公益財団法人 益富地学会館	「石ふしぎ大発見展2017 第29回 京都ショー」における展示利用	9月29日 ～10月17日
ヒアリ標本/アライグマ剥製	伊勢市 環境生活部 環境課 環境対策係	「伊勢市環境フェア」生物多様性ブースにおける展示利用	10月6日 ～10月14日
オニバスレプリカ/オニバス樹脂封入(大・小)	岐阜県博物館	企画展「命輝く清流長良川～清流とともに移りゆく植物～」における展示利用	11月上旬～ 平成30年 3月上旬
小田隆氏 古生物復元画	岐阜県博物館	飛騨高山まちの博物館 移動展「恐竜の世界～小田隆が描く古生物の姿～」における展示利用	平成30年 3月25日 ～6月20日

(掲載許可)

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
伊藤又五郎家文書(為見廻綿屋)(六月五日)	株式会社碧水社	ハーバーコリンズ・ジャパン『週刊ビジュアル戦国王』50号「藤堂高虎」	4月1日
伊勢参宮名所図会(中川原)	近鉄グループホールディングス株式会社	近鉄グループホールディングス株式会社広報誌『飛翔』	4月3日
伊勢参宮名所図 内宮宮中の図/外宮内宮御神馬宮巡中河原太夫の宅の図/広重 伊勢参宮 宮川の渡し	株式会社ランズ	KADOKAWA『プラタモリ』第7巻「伊勢」	4月11日
コウガゾウ/エラスモサウルス/プロバクトロサウルス/アンハングエラ	読売新聞大阪本社科学事業推進事務局	『メガ恐竜博2017-巨大化の謎にせまる-』	4月18日
豊饒御蔭参之図	東海テレビ放送株式会社	東海テレビ放送「スタイルプラス」	4月18日
伊勢参宮名所図会(中川原)	株式会社ランズ	KADOKAWA『プラタモリ』第7巻「伊勢」	4月26日
豊饒御蔭参之図	株式会社ベネッセコーポレーション	平成29年度 進研模試第3回ベネッセ・駿台マーク模試・11月(日本史)	5月1日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社ホールマン	テレビ朝日「路線バスで寄り道の旅」	5月12日
伊勢の海士 長鮑制之図	テレビマンユニオン	テレビ朝日「食彩の王国」(関東ローカル)	5月21日
岩戸神楽の起頭	株式会社日本リサーチセンター	機関誌『ACE(エース)』	5月22日
トバリユウ(右大腿骨)	株式会社GB	『恐竜 最強王者 大図鑑』	5月25日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社スマレジ	ウェブサイト内「レジ・POSレジについての学習ページ」	5月30日
三重県水産図解 鰯漁揚繰網仕方図	テレビマンユニオン	NHKワールドTV「TrailstoTsukiji」	6月8日
トバリユウ(右上腕骨/尾椎A/尾椎B)	読売新聞大阪本社 科学事業推進事務局	『メガ恐竜博2017-巨大化の謎にせまる-』	6月9日
もろこ漁	株式会社日企	日本テレビ「ザ!鉄腕!DASH!!」	6月13日

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
国貞 勢州鮑取ノ図	テレビ朝日映像株式会社	テレビ朝日「羽鳥慎一モーニングショー」金曜企画「ワンダふるさと・三重県編」	6月13日
三重紡績伊藤家写真資料(伊藤メリヤスとノコギリ屋根/伊藤伝七本家)	個人	四日市市高砂町「浜松茂」/四日市市立博物館での講演会	6月22日
豊饒御蔭参之図	株式会社ユニフォトリースインターナショナル	『ホンキの冬 歴史1・歴史2』/『ホンキの冬 地理2・歴史2A』/『ホンキの冬地理2・歴史2B』	6月29日
鳥羽城之絵図	株式会社碧水社	ハーバーコリンズ・ジャパン『週刊ビジュアル戦国王』58号「鳥羽城」	7月1日
豊国三代料理人喜助、油屋おこん、福岡貢/広重 伊勢参宮 宮川の渡し/浮世絵 油屋おこん	株式会社ゴシック	毎日放送「林先生が驚く初耳学!」	7月18日
豊饒御蔭参之図	株式会社ベネッセコーポレーション	平成29年度 進研模試 総合学力記述模試・1月(日本史)	7月20日
金属製ランドセル	株式会社ベネッセコーポレーション	進研ゼミ チャレンジタッチ講座用アプリケーション	7月28日
三重県下頑民暴動之事件	株式会社天夢人	株式会社ユーキャン『大人の学び直し 日本史講座テキスト』2	8月7日
豊饒御蔭参之図	株式会社日本入試センター	サビックス小学部 学習教材	8月9日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社アーク・コミュニケーションズ	宝島ワンダーネット『全日空 寄席 落語傑作選(仮題)』CD解説書	8月18日
豊饒御蔭参之図	株式会社 学び舎	文部科学省検定教科書中学校社会歴史『ともに学ぶ人間の歴史』	8月30日
ニホンカモシカ/東都大伝馬街繁栄之図/国芳 縞揃女弁慶(竹屋直成)/国芳 縞揃女弁慶(柳下亭種員)/(役者)東海道 宮 桑名間/(役者)東海道五拾三次 四日市/(役者)東海道五拾三次 関/山海愛度図会 伊賀煙草入/国芳 山海愛度図会のうち おもたい 伊勢海老網/国芳 大願成就有ヶ瀧縞 那智の瀧 文覚	三重県戦略企画部	2018年版三重県民手帳	8月30日
延喜式/枕草子春曙抄	鳥羽市教育委員会	『海人の歴史調査報告書(仮題)』	8月31日
国貞 勢州鮑取ノ図/三重県水産図解(蜷婦焚火ニ躰ヲ温タメ休足ノ図/鮑漁之図)	株式会社CNインターボイス	NHKワールドTV「海女たちの鳥羽(仮)」	9月4日
小学少年双六	株式会社ベネッセコーポレーション	平成29年度進研ゼミ小学講座 チャレンジ3年生1月号	9月7日
西国三十三所名所図会	NHK津放送局	NHK総合「ホットイブニングみえ」	9月10日
豊饒御蔭参之図	株式会社ユニフォトリースインターナショナル	平成29年度第6回熊本県高校入試模擬テスト	9月12日
伊勢参宮名所図会(古市)	近鉄グループホールディングス株式会社	近鉄グループホールディングス株式会社広報誌『飛翔』	9月25日
ヒアリに関する資料画像	伊勢市 環境生活部 環境課 環境対策係	「伊勢環境フェア」生物多様性ブース	10月5日
飯南郡茅広江村地籍図 伊勢国飯高郡下出江村全図	三重県埋蔵文化財センター	平成24～27年度高度水利機能確保基盤整備事業(出江地区)埋蔵文化財発掘調査報告及び埋蔵文化財センターHP/全国遺跡報告書総覧HP	10月10日

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
三重県水産図解(鯨漁 第一図/鯨漁第二図/鮪漁/鯉/鯪捕漁/鰯網船引沖漁/鰯網轆轤引)	三重県立熊野古道センター	三重県立熊野古道センター特別展示室	10月13日
企画展「博物館のある風景」冊子掲載写真/『三重県立博物館50周年誌』掲載写真	個人	2017年度日本建築学会東海支部研究集会報告集(CD-ROM)	10月22日
浮絵駿河町呉服屋図	松阪市教育委員会事務局学校支援課	郷土の偉人に学ぶ教育推進委員会編『三井高利郷土の偉人を知る④』松阪市教育委員会	10月23日
伊勢無足人由緒書/伊賀無足人由緒書/伊勢無足人取調帳/伊賀無足人取調帳	Studioアール	伊賀上野ケーブルテレビ「時の散策」	10月24日
馬岡家文書 「絵葉書」開業記念(馬野川水電株式会社)	NHK津放送局	NHK総合「ホッとイブニングみえ」	11月1日
三重県水産図説(鯪漁蜆婦之図)	有限会社伊勢文化舎	鳥羽市教育委員会発行予定郷土学習教材『とばっ子探偵団(仮)』	11月2日
豊饒御蔭参之図	学校法人高宮学園代々木ゼミナール	2017年度 代々木ゼミナール公開模試 第3回 高2スタンダードレベル模試 日本史②近代	11月10日
御師の食膳/三社御託宣の図	香川県立ミュージアム	香川県立ミュージアム 常設展示室1	11月16日
豊饒御蔭参之図	株式会社 山川出版社	『山川デジタル指導書』(DVD) 中面説明	11月24日
三重県下頑民暴動之図/浮絵駿河町呉服屋図/豊饒御蔭参之図	株式会社日本入試センター	サピックス小学部 学習教材	11月27日
ミエゾウ全身骨格(館内展示写真)	株式会社 少年写真新聞社	「理科教育ニュース」2018年1月28日号	11月28日
三重県水産図解(鰯大漁トツタ(網ノ名)ニテ魚ヲスクイ採ルノ図)	株式会社アーテファクトリー	「これで！完ぺき社会」	11月29日
エラスモサウルス全身骨格	毎日新聞社毎日小学生新聞	毎日小学生新聞	12月11日
豊饒御蔭参之図	株式会社TBSビジョン	BS-TBS「高島礼子 日本の古都～その絶景に歴史あり～」	12月18日
伊勢暦(安永5年～明治5年まで)	朝日放送株式会社	「ビーバップハイヒール」	12月22日
岩戸雅楽の起頭	NHKエンタープライズ	「三番叟FORMⅡ “神” 化する古典芸能(仮)」	12月28日
伊勢国朝明郡茂福村北村全図/朝朝郡北村茂福村二ヶ村合併全図	個人	『茂福地内広報』	平成30年 1月7日
旧会会県達/三重県甲号達/三重県乙号達/三重県甲号布達/三重県県令告示・諭告・報告 ほか	滋賀県立大学人間文化学部	神辺靖光編『明治前期中学校形成史府県別編Ⅱ北陸・東海』梓出版社	平成30年 1月29日
豊饒御蔭参之図	株式会社ミネルヴァ 書房 東京支社	『「名著」から読み解く日本社会史』	平成30年 2月27日
三重県水産図解(蜆婦焚火ニ躰ヲ温タメ休息ノ図 ほか)	有限会社伊勢文化舎	『鳥羽歴史学習本 とばっ子探偵団～海からの挑戦状～』鳥羽市教育委員会	平成30年 3月2日
三重県水産図解(鰯漁揚繰網仕方図)	株式会社テイクオーバー	日本文教出版発行予定文部科学省検定教科用図書小学校社会科「小学社会6年」(上・下)及び同名称同内容のデジタル教科書	平成30年 3月9日
東海道分間絵図(亀山～関付近)	亀山商工会議所	亀山商工会議所観光事業 伊勢ノ国 亀山まほろば街道『三重亀山物語』	平成30年 3月16日
トバリユウ(大腿骨化石/トバリユウ発掘現場画像)	株式会社 平凡社	『太陽の地図帖』35号「楽しい日本の恐竜案内」	平成30年 3月19日

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
ミエゾウ全身骨格(館内展示画像)	株式会社コムラ	第34回日本Shock学会総会ポスター ほか	平成30年 3月26日

(その他の利用)

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
結城神社往復綴/樋田先生資料(近代)履歴書/三重県2号達	個人	勉強会のための調査	5月24日
重盛家文書伊勢国大絵図ほか	個人	学術上の調査研究	7月14日
明治43年11月行啓関係書類/明治43年11月東宮殿下行啓関係書類	個人	四日市市立博物館での講演会	7月26日
三重県水産図説/三重県水産図解	名古屋市博物館	特別展に向けた調査	8月1日
三重県議会関係資料	三重大学工学部建築学科	卒業論文指導	10月30日
分部光嘉書状	東京大学史料編纂所	三重県下中近世史料調査	11月20日
三重県水産図説/三重県水産図解	名古屋市博物館	特別展に向けた調査	11月22日
三重県議会関係資料	三重大学工学部建築学科	卒業論文指導	12月15日
蓋形埴輪(佐久米古墳群)	鈴鹿市教育委員会	学術上の調査研究/教育活動	平成30年 2月7日
鳥居古墳出土資料/夏見廃寺出土資料	松戸市立博物館	展覧会準備にかかる資料調査	平成30年 3月6日
三重県議会関係資料	三重大学工学部建築学科	卒業論文指導	平成30年 3月9日
平民新聞/平民新聞(日刊)/週間新聞直言/光	個人	学術上の調査研究	平成30年 3月26日

5.3 学習支援活動事業

博物館の利用者に、三重の自然と歴史・文化や博物館の活動に対する興味・関心を持つきっかけや深める機会を提供することを目的として、講座やワークショップ、フィールドワークなどを実施している。

5.3.1 講座

1) MieMuセミナー

基本展示の展示内容について、外部講師を招いて行う講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
三重の海岸とミヤコドリ	11月26日(日)	レクチャールーム	17	平井正志(日本野鳥の会三重)
岩田橋の擬宝珠と辻鋳物師一つくり方から見た鋳物の技術ー	平成30年 2月25日(日)		23	采翠真澄(中部大学)
計			40	

2) 学芸員フリートーク

行事名	開催日	会場	人数	講師
仏師 快慶～日本人を魅了した仏たちの作者	5月20日(土)	レクチャールーム	12	当館職員 瀧川和也
津藩の郷土について	7月15日(土)		30	当館職員 藤谷 彰
旅をするチョウ『アサギマダラ』	9月16日(土)		41	当館職員 大島康宏
骨格から生きた軌跡を探る	11月18日(土)		18	当館職員 田村香里
これも生きものなの？	平成30年 1月20日(土)		18	当館職員 中野 環
伊勢水銀の歴史あれこれ	平成30年 3月17日(土)		38	当館職員 星野利幸
計			157	

3) 基本展示スポットガイド

行事名	開催日	会場	人数	講師
基本展示スポットガイド	4月8日(土)	基本展示室	9	当館職員 宇河雅之
	6月10日(土)		18	当館職員 中野 環
	8月12日(土)		14	当館職員 藤谷 彰
	10月14日(土)		7	当館職員 天野秀昭
	12月9日(土)		6	当館職員 中野 環
	平成30年 2月10日(土・祝)		7	当館職員 田村香里
計			61	

4) 館長と調べる三葉虫のひみつ

行事名	開催日	会場	人数	講師
館長と調べる三葉虫のひみつ	5月27日(土)	実習室	10	当館館長 大野照文
	7月22日(土)		28	
	8月26日(土)		29	
	9月23日(土)		16	
	10月21日(土)		16	
	12月23日(土)		5	
計			104	

5) 同定会

動物、植物、化石などの標本を持ち寄って、各分野の専門家と一緒に名前を調べるイベント。

行事名	開催日	会場	人数	講師
標本の名前を調べてみよう(同定会)	8月20日(日)	レクチャールーム	85	当館職員、外部講師

※講師 [植物] 当館職員 森田奈菜 [昆虫] 三重昆虫談話会 乙部宏、当館職員 大島康宏
 [貝類] 当館職員 中野 環 [脊椎動物] 当館職員 田村香里
 [岩石・鉱物] 当館職員 津村善博 [化石] 当館職員 中川良平

6) さんちゃんのお食事会

館内で飼育しているオオサンショウウオの給餌を公開し、観察する講座。奇数月第2土曜日に実施。

行事名	開催日	会場	人数	講師
さんちゃんのお食事会	5月13日(土)	オオサンショウウオ 観察水槽前	61	当館職員 田村香里 当館職員 稲垣玲弥
	7月8日(土)		80	
	9月9日(土)		114	
	11月11日(土)		30	
	平成30年 1月13日(土)		85	
	平成30年 3月10日(土)		48	
計			418	

7) わくわくワークショップ

行事名	開催日	会場	人数	講師
カモシカの頭骨をじっくりみてみよう	4月23日(日)	学習交流 スペース	31	当館職員 稲垣玲弥
フィールドサインをさがしてみよう	5月28日(日)		40	当館職員 稲垣玲弥
葉っぱのこすりだし図鑑をつくろう	6月25日(日)		155	当館職員 稲垣玲弥
空とぶのりものをつくろう	7月16日(日)		104	ミュージアムパートナー おもしろ博物館グループ

行事名	開催日	会場	人数	講師
オリジナル昆虫をつくろう	8月27日(日)	学習交流 スペース	73	当館職員 稲垣玲弥
発掘！土器パズル	9月24日(日)		38	当館職員 稲垣玲弥
昆虫切り紙	10月15日(日)		128	ミュージアムパートナー おもしろ博物館グループ
どんぐり図鑑をつくろう	11月26日(日)		67	当館職員 稲垣玲弥
まつぼっくりでクリスマスツリーをつくろう	12月10日(日)		79	当館職員 稲垣玲弥
伊勢型紙でポストカードをつくろう	平成30年 1月28日(日)		105	当館職員 稲垣玲弥
新聞紙でかぶとをつくろう	平成30年 2月18日(日)		82	ミュージアムパートナー おもしろ博物館グループ
貝のカプセル標本をつくろう	平成30年 3月25日(日)		139	当館職員 稲垣玲弥
計			1,041	

8) おとなのためのコケ講座

座学とともに、ミュージアムフィールドで採集したコケを顕微鏡で観察し、同定方法などを学ぶ講座。

行事名	開催日	会場	人数	講師
おとなのためのコケ講座	11月5日(日)	実習室 ミュージアム フィールド	8	当館職員 森田奈菜

9) 正月かざりづくり体験

なわをなうところからしめ縄状の正月かざりをつくる体験講座。

行事名	開催日	会場	人数	講師
正月かざりづくりをつくろう	12月17日(日)	交流活動室	14	ミュージアムパートナー おもしろ博物館グループ 当館職員 宇河雅之 当館職員 中村千恵

10) MieMu わくわく♪ウィーク

平成30年3月24日(土)～4月1日(日)開催の春休み期間中の日替わりイベント

行事名	開催日	会場	人数	備考
工作体験・ワーク ショップ	平成30年3月24日(土) ～4月1日(日)	学習交流 スペース	791	館長と調べる二枚貝のヒミツ(24日(土))、 貝のカプセル標本をつくろう(25日(日))、 貝を使ったアクセサリづくり(27日(火))、 葉っぱのカードをつくろう(28日(水))、 飛び出すおもちゃをつくろう(29日(木))、 紙で作るラクラクはんこづくり(30日(金))、 こいのぼりをつくってMieMuにかざろう(31 日(土))、ホネパズルと毛皮しらべ(4月1 日(日))、当館館長大野照文他
基本展示室クイズ ラリー	平成30年3月24日(土) ～30日(金)	基本展示室	587	
巨大プラスチック レール鉄道 おもちゃ運転会	平成30年3月24日(土) ・25日(日)	交流展示室	—	協力 鉄道おもちゃ博物館(三重のまん なか・まちかど博物館)
「私の甲冑デザイン コンクール」 入賞作品展示	平成30年3月24日(土) ～4月8日(日)	学習交流 スペース	—	
こども忍者衣装体 験	平成30年3月24日(土)・ 25日(日)・31日(土)・ 4月1日(日)	レクチャー ルーム	278	協力 伊賀上野NINJAフェスタ実行委 員会
手裏剣体験	平成30年3月27日(火) ～30日(金)	学習交流 スペース	893	
計			2,549	

11) MieMuつながりシンポジウム「地域を究めて世界とのつながりに至る～三重からの発信～」

三重県とアフリカでさまざまな実践を行っている識者による、地域と世界とのつながりの講演

行事名	開催日	会場	人数	講師
MieMuつながりシンポジウム	11月23日(木・祝)	レクチャールーム	25	坂本竜彦(三重大大学生物資源学部生物資源学研究科)、西原智昭(WCSコンゴ共和国支部・自然環境保全技術顧問)、速水 亨(速水林業 代表)

5.3.2 フィールドワーク

1) 親子で昆虫標本づくりにチャレンジ！

ミュージアムフィールドで昆虫の観察・採集を行い、実際に標本をつくる体験講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
親子で昆虫標本づくりにチャレンジ！	8月13日(日) 8月19日(土)	ミュージアムフィールド・実習室	34	当館職員 大島康宏

2) さがしてみよう！磯の生物

行事名	開催日	会場	人数	講師
さがしてみよう！磯の生物	9月16日(土)	荒天のため中止	—	当館職員 中野 環

3) 文化財探訪

行事名	開催日	会場	人数	講師
古墳時代の伊賀を歩く・城之越遺跡と美旗古墳群	10月15日(日)	伊賀市比土・名張市美旗	4	当館職員 星野利幸

4) 阿波層群の化石をたずねて

行事名	開催日	会場	人数	講師
阿波層群の化石をたずねて	11月25日(土)	伊賀市下阿波	17	当館職員 中野 環 当館職員 津村善博

5) 青川の石を調べよう

行事名	開催日	会場	人数	講師
青川の石を調べよう	12月10日(日)	いなべ市大安町青川	25	当館職員 中野 環 当館職員 津村善博

6) 身近な冬鳥を観察しよう

鳥類の剥製を館内でじっくり観察してから、博物館周辺の野外で鳥類を観察する自然観察会

行事名	開催日	会場	人数	講師
身近な冬鳥を観察しよう	12月17日(土)	標本作製室・ 博物館周辺の 池	20	平井正志(日本野鳥の会 三 重) 当館職員 田村香里
	平成30年 3月11日(日)		24	
計			44	

5.3.3 MieMuの日(周年事業)

開館日である4月19日を「MieMuの日」と銘打ち、毎年「MieMuの日」前後の日曜日に記念イベントを実施し、利用者の皆さんや地域の方々に日頃の感謝を伝える取組を行っている。

- 1 実施日時 4月16日(日)午前9時から午後5時まで
- 2 当日の特典 「家庭の日」にあたるため、すべての展示を2割引
- 3 イベント

行事名	会場	概要	人数
オレンジグッズを着て、MieMuに行こう！	エントランスホール	オレンジグッズを身に付けてきた方に缶バッジをプレゼントした。	685
「こもしか」（菰野町観光協会公式キャラクター）がMieMuにやってくる	学習交流スペース他	人気キャラクター「こもしか」がMieMuを訪れた。	—
「カモシカの頭骨をじっくりみてみよう」	学習交流スペース他	第15回企画展「カモシカ☆パラダイス」関連ワークショップ 普段あまりみることのないカモシカの頭骨をじっくりみたり、さわったりしてカモシカの特徴をしらべた。	64
ウミガメネットワークとの連携企画	レクチャールーム	MieMu館内にて講演会「伊勢湾にやってくるウミガメ」（46名参加）、実物展示、パネル展示、紙芝居（25名参加）、クイズ等を行った。	—

5.3.4 学習支援冊子・マップ

博物館の展示や資料、活動に関する情報を発信するために、博物館情報誌「みえんしす」を刊行した。

- ・三重県総合博物館情報誌「みえんしす」（第17号～第20号）
 - 17号(6月20日発行) 特集 みんなののりもの大集合
 - 18号(8月2日発行) 特集 発掘された日本列島2017
 - 19号(9月20日発行) 特集 オリンピック・パラリンピック栄光の軌跡
—秩父宮記念スポーツ博物館三重巡回展—
 - 20号(3月20日発行) 特集 知ってる貝 見てみる貝 貝のヒミツ

各企画展での学習を補助するために、ワークシートや解説冊子を作成・発行した。

- ・企画展「きて・みて・さわってカモシカ☆パラダイス」ワークシート
- ・交流展「先っちょ志摩に生きる」解説冊子
- ・交流展「先っちょ志摩に生きる」ワークシート(4～6歳向け／小学生向け)
- ・トピック展「くらしの道具と小学生と調べるイセエビをめぐる食文化」志摩のお魚調査報告書

5.3.5 人材育成支援活動

1) 博物館学芸員実習

各大学における「博物館学芸員資格」の必須科目「博物館実習」を希望する学生を受け入れた。

① Aコース

〔実習生〕三重大学（2名）、皇學館大学（2名）、名城大学（3名）、中京大学、神奈川大学、お茶の水女子大学、愛知淑徳大学、愛知学院大学、明治大学、滋賀県立大学、筑波大学（各1名）

日 程	概 要
8月16日(水)	ガイダンス、博物館の概要、総合博物館のおもしろさ、館内見学、保存科学入門、博物館学入門、課題発表会
8月17日(木)	収蔵庫の見学、公文書整理作業
8月18日(金)	自然史資料とその取り扱い、骨格標本の作製
8月19日(土)	歴史資料の取り扱い、文書の目録作成
8月20日(日)	「同定会」補助、ワークショップ補助、企画展動向調査

※筑波大学の学生1名は、上記に加えて、8月15日(火)および25日(金)～27日(日)に交流展示の準備補助、企画展の関連事業補助、標本台紙作製など、合計9日間の実習を行った。

② Bコース（三重大学との相互協定による連携事業として実施）

〔実習生〕 三重大学（9名）

脊椎動物（学芸員1名）、海産生物（学芸員2名）、昆虫・植物（学芸員2名）の3班にわかれ、各学芸員の指導の下、それぞれ5日間の実習を行った。

2) インターンシップ

博物館での就業経験を希望する学生の受け入れを行った。

〔実習生〕 三重大学（1名）

日 程	概 要
8月29日(火)	施設の概要説明、館内案内、博物館業務概要説明等
8月30日(水)	公文書の整理及び公開に向けた作業

5.4 他機関・諸団体との交流・連携事業

博物館活動の基本的な活動の視点である「協創」と「連携」に基づき、他機関・諸団体との交流と連携を深め、新たな創造と発信の機会とするために、連携のための協議、連携・協力による講演会や各種ワークショップ、展示、博物館の活用等を実施した。

5.4.1 学校

1) 遠足・社会見学等の利用

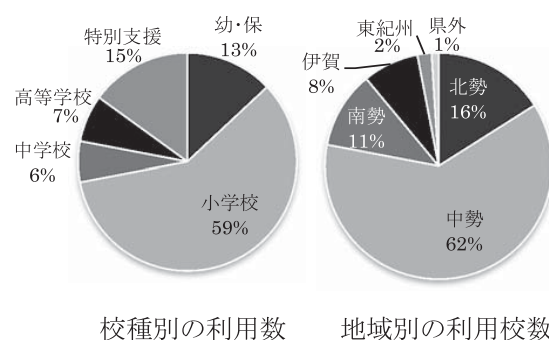
平成29年度の学校利用については幼稚園(所)28園、小学校127校、中学校12校、高等学校15校、特別支援学校32校の計214校であった。また、地域別の利用状況については、北勢地区33校、中勢地区132校、南勢地区23校、伊賀地区18校、東紀州地区5校、県外3校であった。また、小学校3年生で学ぶ「昔のくらし」の学習時期に合わせてトピック展示「くらしの道具」を開催し、会期中に展示見学のために来館した小学校15校に、学芸員が道具の使用体験を交えた解説対応を行った。

	幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援
実数	28	127	12	15	32
割合(%)	13%	59%	6%	7%	15%

校種別の利用数

	北勢	中勢	南勢	伊賀	東紀州	県外
実数	33	132	23	18	5	3
割合(%)	15%	62%	11%	8%	2%	1%

地域別の利用校数



2) 教職員研修

博物館と学校教育との連携の観点から、教職員の方々に博物館の活動や施設等について知っていただき、学校教育における博物館活用を促進するために講師派遣、教員研修(個人・団体)の受入を行った。

<総合教育センター講座>

8月24日(木) MieMu活用講座(48名)

<教員研修>

津市立西が丘小学校 1名 8月6日(日)・10日(木)

津市立白塚小学校 1名 8月6日(日)・10日(木)

同上 1名 8月10日(木)・27日(日)

津市立橋北中学校 1名 8月6日(日)・10日(木)

三重県立飯南高等学校 1名 8月6日(日)・10日(木)

<館内見学>

津市教育研究会南ブロック理科部会(小学校) 8月18日(金)

<講師派遣>

津市教育研究会南ブロック理科部会(中学校)(化石採集について) 8月18日(金)

3) スーパーサイエンスハイスクール(SSH) 事業への協力

- ・三重県立津高等学校のSSH探求活動として3名の学芸員が講座を担当した。

藤谷彰(歴史・公文書) 7月28日(金)

瀧川和也(美術史) 8月1日(火)

津村善博(地質) 8月2日(水)

4) 職場体験

中学校7校、高等学校1校、特別支援学校1校の受入れを行った。

津市立南ヶ丘中学校2年 3名 9月6日(水)～8日(金)

津市立西郊中学校2年 3名 同上

津市立一身田中学校2年 3名 同上

津市立南郊中学校2年 3名 9月12日(火)～14日(木)

津市立朝陽中学校2年 3名 同上

セントヨゼフ女子学園中学校2年 3名 9月14日(木)

津市立久居東中学校2年 3名 9月26日(火)～28日(木)

三重県立ゆめ学園1年 4名 8月2日(水)～4日(金)

三重県立豊学校中学部3年生 1名 6月7日(水)～9日(金)

5) 学校への資料貸出

4.8 移動展示参照

6) その他

「ふるさと三重かるた」大会(三重県教育委員会小中学校教育課主催、レクチャールーム) 平成30年1月13日(土)、28名

※展示解説などを行った。

久居農林高校成果発表(三重県立久居農林高等学校、エントランスホール) 10月28日(土)・29日(日)

総合学科教育研究大会(レクチャールームほか) 12月26日(火)

5.4.2 大学

1) 三重大学

三重大学とは、「三重県総合博物館と国立大学法人三重大学との相互協力協定」に基づき、三重の自然と歴史・文化などのかけがえのない地域資源を活かし、文化振興と地域づくりに寄与することを目的として、相互協力による連携事業に取り組んでいる。また、連携の協議機関として、連絡調整会議を設置し、定期的に事業調整・協議を行っている。

①連携事業

(1) 共同研究

三重大学博学連携推進室と三重県総合博物館による共同研究

事業名	期間等	会場	内容	担当者
三重大学との連携事業展 先つちよ志摩に生きる	9月30日(土)～12月3日(日)	当館交流展示室	志摩市志摩町を中心とする先志摩半島地域を対象とする総合調査。3か年事業(平成26～28年度)を終え、平成28年度に志摩市歴史民俗資料館で行った成果報告展示を、当館で開催した。(Ⅱ4.2.2参照)	—

その他の共同研究

事業名	期間等	会場	内容	担当者
科学研究費・基盤研究C学校教育における博物館利用を促進させるための教員支援ツールの開発	平成25年度～平成29年度	当館・三重大学附属小学校・同附属中学校など		平賀伸夫(教育学部)(研究代表者)・当館職員 北村淳一・中村千恵(研究分担者)
科学研究費・基盤研究C日本の干潟・塩生湿地の環境健全度評価～貝類の生物学的指数を用いた手法の確立	平成27年度～平成29年度	県内各地		木村妙子(生物資源学部)(研究代表者)・当館職員 北村淳一(研究分担者)
鯨類の研究	平成27年度～	当館・県内海岸各地・大阪自然史博物館	伊勢湾・熊野灘に漂着した鯨類の研究(担当:標本収集、解剖、X線撮影、骨格標本作成、標本保存)	吉岡 基(生物資源学部)・当館職員 北村淳一・田村香里
ウミガメ類の研究	平成27年度～	当館・県内海岸各地	伊勢湾・熊野灘に漂着したウミガメ類の研究(担当:標本収集、解剖、X線撮影、骨格標本作成、標本保存)	三重大学サークル「かめっぷり」・吉岡 基(生物資源学部)・当館職員 北村淳一・田村香里
ウミガメの付着生物相	平成27年度～	当館	ウミガメの死体に付着している生物を収集し、ウミガメ固有の付着生物相を明らかにする	木村妙子(生物資源学部)・当館職員 北村淳一
志摩市の磯焼け調査	平成28年度～	志摩市和具・御座	志摩市和具・御座の「磯焼け」についての調査	倉島 彰(生物資源学部)・当館職員 北村淳一
三重周辺域のカモシカの集団構造の研究	平成28年度～	当館	カモシカ遺伝子サンプルの集団遺伝学解析	河村功一(生物資源学部)・当館職員 北村淳一
爬虫類の形態学的比較研究	平成29年度～	当館	爬虫類の形態学的比較	河村功一(生物資源学部)・当館職員 北村淳一・間瀬 創

(2) 博物館実習

- ・Aコース(平成29年8月16日(水)～8月20日(日))三重大学生 2名受入
- ・Bコース(平成29年8月5日(土)～11月5日(日))の期間中 三重大学生 9名受入

(3) 博物館学芸員養成課程授業

事業名	日時	会場	内容	参加 学生数	担当者
人文学部博物館実習	6月7日(水)・ 21日(水)・ 7月5日(水)	当館	施設見学・展示及び保存環境に関する講義・当館所蔵を利用した整理法についての実習	18	清水みき(三重大学 非常勤講師)・当館職員 天野秀昭他
教育学部博物館実習	6月11日(日)	当館	博物館の展示等活動についての講義と収蔵庫等の施設見学	18	岡野智子(三重大学 非常勤講師)・当館職員 天野秀昭

(4) 授業での施設利用

事業名	日時	会場	内容	参加 学生数	担当者
教養教育・教養統合 科目・地域理解・日 本理解「三重学 食 と観光実践」	6月17日(土)	当館	博物館見学と展示のトピックの詳細説明	18	永野 聡(地域創発 センター)・当館職員 太田光俊
教養教育・教養統合 科目・地域理解・日 本理解「日本理解特 殊講義 三重の歴史 と文化」	6月28日(水)	当館	ゲストスピーカーとして、三重県の 地学概説、博物館基本展示室の詳細説明	15 (履修者 は24)	永野 聡(地域創発 センター)・当館職員 津村善博
企画展「みんなのの りもの大集合」など の来館者対応を中心 とする研修	7月～8月	当館	教育学部社会科教育コース1年次、 教育実地研究基礎受講生の来館者 対応の体験。子どもとの接し方など への考察を深める。	12	藤田達生(教育学部)・ 当館職員 瀧川和也・ 太田光俊
学生の見学	8月10日(木)	当館	基本展示の制作の経験の話も含めた 展示解説	10	塚本 明(人文学部)・ 当館職員 門口実代・ 太田光俊
教育特別研究 I B	平成30年 1月20日(土)	当館	展示見学	11	平賀伸夫(教育学部)・ 当館職員 中村千恵

(5) 講師派遣

事業名	日時	会場	内容	担当者
公開フォーラム 三重 のジオパークの可能性	12月2日(土)	大学	当館職員が、ジオパークについての 三重の状況と活動についての講演	春山成子(生物資源学部)・当 館職員 津村善博
Tri-U国際ジョイント セミナー	10月24日(火)	大学	基調講演	三重大学国際交流チーム・ 当館館長 大野照文

(6) 連携講座など

事業名	日時	会場	内容	担当者
第15回青少年のための 科学の祭典2017	11月11日(土)・ 12日(日)	大学	博物館のブース(海の生物のからだ のつくり)を設置	後藤太一郎(教育学部)・当館 職員 中野 環

②連絡推進会議

三重大学博学連携推進室 加納 哲、塚本 明、山田康彦、菅原洋一、吉岡 基、前川敦子
 三重県総合博物館 大野照文、寺本久彦、小川知佐子、天野秀昭、宇河雅之、中野 環、
 太田光俊、中村千恵

- 第1回 日時 8月4日(金) 会場 三重大学附属図書館
内容 先志摩半島の総合調査・移動展示・シンポジウム、企画展への学生協力、展示企画案
- 第2回 日時 10月19日(木) 会場 当館会議室
内容 今後の連携事業、学芸員実習、平成28度のシンポジウムの内容の当館紀要掲載
- 第3回 日時 平成30年3月20日(火) 会場 三重大学附属図書館
内容 インターンシップ、伊勢湾のスナメリの調査体制、平成30年度の体制・学芸員実習

2) 皇學館大学

皇學館大学とは、「三重県総合博物館と皇學館大学との相互協力協定」に基づき、三重の地域振興のため、双方の知的資産を活用して連携し、三重に関連する地域資源を探求・保存継承・活用発信を行うとともに、地域に伝わる伝統や文化を尊重し、次世代に活躍する人材を育成することを目的として、相互協力による連携事業に取り組んでいる。また、連携の協議機関として、連絡調整会議を設置し、定期的に事業調整・協議を行っている。

①連携内容

(1) 共同研究

事業名	日時	会場	内容	参加学生数	担当者
皇學館大学 佐川記念神道博物館の所蔵資料を用いた調査・研究	平成26年度～	当館	神道博物館所蔵の鏡鑑類コレクションの科学的分析などの共同研究	—	岡田芳幸(研究開発推進センター)・当館職員 間渕 創

(2) 博物館実習

事業名	日時	会場	内容	参加学生数	担当者
博物館実習Aコース	8月16日(水)～20日(日)	当館	博物館実習	3	当館職員 森田奈菜

(3) 博物館学芸員養成課程授業

事業名	日時	会場	内容	参加学生数	担当者
博物館概論	春学期中 半日	当館	1年次・当館見学(学生各自)	80	岡田芳幸(研究開発推進センター)・当館展示・交流事業課
博物館実習	秋学期中	当館	3年次・展覧会の監視、解説業務並びに教育普及事業の補助	のべ84(43)	岡田芳幸(研究開発推進センター)・当館展示・交流事業課
博物館資料保存論	12月3日(日)	当館	3年次・当館学芸員による講義と収蔵庫・展示室案内、合わせて90分	40	岡野友彦(研究開発推進センター)・当館職員 間渕 創
博物館資料論	平成30年 1月21日(日)	当館	1年次・登録システム、資料についての考え方など講義・見学	20	岡田芳幸(研究開発推進センター)・当館調査・資料情報課

(4) 授業などでの施設利用

事業名	日時	会場	内容	参加学生数	担当者
参拝見学にともなう見学	11月1日(水)	当館	当館見学	298(引率11)	当館職員 太田光俊

(5) 学生育成にかかる事業

事業名	日時	場所	内容	参加 学生数	担当者
古文書調査	平成30年 3月7日(水)・ 8日(木)・ 9日(金)	当館	2年～大学院生、実物資料としての 古文書を用いた読解力の向上	のべ13	岡野友彦(文学部)・ 当館職員 藤谷 彰

(6) 連携講座

事業名	日時	場所	内容	参加者 数	担当者
自然分野の連携 (ワークショップ)	8月5日(土)・ 6日(日)	当館 実習 室	ワークショップ「昆虫実験ラボ2017 ～君はアワヨトウの中にハチを見た か」	261(見 学者含 む)	中松 豊(教育学部)・ 当館職員 大島康宏

②連絡推進会議

皇學館大学研究開発推進センター 大島信生、岡田芳幸、中松 豊、大平和典、浅井誠司、大井恵子
三重県総合博物館 大野照文、小川知佐子、瀧川和也、藤谷 彰、太田光俊、中村千恵

- ・第1回 日時 6月20日(火) 会場 当館 会議室
内容 皇學館大学所蔵史料を用いた調査・研究、教育学部理科教育研究室のワーク
ショップ実施、講義における博物館利用、学生参画、キャンパスメン
バーズ、学芸員実習の状況ほか
- ・第2回 日時 11月15日(水) 会場 皇學館大学神道博物館 会議室
内容 皇學館大学所蔵資料を用いた調査・研究、教育学部理科教育研究室のワーク
ショップ実施(昆虫)、講義における博物館利用、非常勤講師の委嘱、
キャンパスメンバーズ、博物館実習の状況、教育学部家庭科研究室内のワーク
ショップほか

5.4.3 博物館

県内博物館の多くが加盟する三重県博物館協会の事務局が当館に置かれていることから、県内博物館との
全体的な連携は主に同協会事業を兼ねて行っている。

また、県外の博物館との関係では、全国組織である日本博物館協会、同近畿支部、全国科学博物館協議会、
全国歴史民俗系博物館協議会に加盟している。また、岐阜県博物館との連携を実施した。

1) 三重県博物館協会

三重県博物館協会は、昭和48年に三重県内の博物館園等の相互連携を密にし、博物館事業等の普及発
展を図り、三重県の文化の進展に寄与することを目的として設立され、平成29年度には県内博物館の52
機関69施設が加盟している。当館館長が理事に選任され、また、当館が協会事務局を引き受けている。
主な事業

事業名	開催日	会場	人数	内容・備考
第1回理事会	6月6日(火)	当館交流活 動室	—	体制、事業報告、決算、事業計画、 予算など
第1回運営委員会	6月8日(木)	当館会議室	—	事業報告、決算、事業計画、予算 など
総会	6月28日(水)	当館 レクチャー ルーム	26館、 個人会 員1名	事業報告、決算、事業計画、予算 など
第2回運営委員会	8月4日(金)	当館会議室	—	本年度事業、内規の改定
施設見学会	9月13日(水)	鳥羽市内	13	ミキモト真珠島真珠博物館、鳥羽水 族館の見学

事業名	開催日	会場	人数	内容・備考
第42回東海三県博物館研究交流会 無形文化財を博物館で「みせる」	11月7日(火)	名古屋市 博物館	—	愛知県博物館協会・岐阜県博物館 協会・三重県博物館協会が主催
第3回運営委員会	平成30年 1月5日(金)	当館会議室	—	本年度事業、規約類改定など
リスクマネジメント研修	平成30年 2月28日(水)	本居宣長 記念館 講座室	23	和歌山県博物館施設等災害対策連 絡会議幹事 浜田拓志氏の講演 「和歌山県における自然災害時の博 物館等によるネットワークとその課 題」と伊勢市教育委員会 奥野実 氏と当館職員間巡回の報告
技術研修(梱包研修)	平成30年 3月8日(木)	当館 レクチャー ルーム	15	日本通運株式会社三重支店職員

その他に、博物館関係情報共有事業として会員館園職員が、三重県博物館協会を代表して日本博物館協会が主催する第65回全国博物館大会(大分県大分市)へ会員館園職員1名を派遣。大会に出席した職員を講師に研修報告会を平成30年度総会で開催した。また、災害発生時の相互協力事業として、台風5号(8月7日)、台風21号(10月23日)の発生時の情報調査を、県教育委員会社会教育・文化財保護課、環境生活部文化振興課県史編さん班、三重県博物館協会事務局(当館)の三者で情報集約と相互共有を行った。

2) 岐阜県博物館交流企画

三重県総合博物館と岐阜県博物館において、相互の資料貸借、連携企画事業の実施、講座講師の相互派遣、情報の相互発信などの連携を行うことにより、相互の魅力アップを図るとともに利用者にとって魅力的な博物館づくりを協働して推進する。

①三重県総合博物館にて岐阜県博物館が講演会及び体験ワークショップを開催

(1) 講演

9月17日(日) 演題：「えっ!違うの?思い込みの植物たち～生物多様性と保全～」

講師：可児美紀(岐阜県博物館 学芸員) 台風接近のため中止

11月4日(土) 演題：「能の幽霊考察～世阿弥の「幽霊」創造について～」

講師：南本有紀(岐阜県博物館 学芸員) 参加者 58名

(2) 体験ワークショップ

11月23日(木・祝) 内容：「どんぐり標本箱をつくろう」

講師：岐阜県博物館 教育普及係

②岐阜県博物館にて三重県総合博物館が講演会及び体験ワークショップを開催

(1) 講演

9月3日(日) 演題：「カモシカとそのなかまたち」

講師：当館職員 田村香里

10月7日(土) 演題：「壬申の乱と古代の伊勢国、そして斎宮」

講師：当館職員 天野秀昭

(2) 体験ワークショップ

11月3日(金・祝) 内容：「自然をモチーフとした工作体験(昆虫切り紙)」

講師：三重県総合博物館ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ

※当館職員 大西到(当日同行)

5.4.4 文化交流ゾーン

三重県では、三重県総合文化センター（三重県文化会館・三重県生涯学習センター・三重県男女共同参画センター・三重県立図書館）、当館及び県立美術館を含む地域を文化交流ゾーンと捉え、全体としての魅力を高めることで、より多くの人々が訪れ、さまざまな文化に接し、感性を高めることができる場の形成をめざしている。

このため、文化交流ゾーン各館に斎宮歴史博物館を加えた県立文化施設では、各館長による文化交流ゾーン関係館長会議、また、その実務レベルの文化交流ゾーン関係施設課長等会議を毎月定期的に開催し、連携強化を図っている。会議では、各館の運営や事業に関する情報の交換・共有をはじめ、文化交流ゾーンの利用促進に向けた全体広報、社会見学の受入や企画展・講座・イベントなどかかわる連携について協議を行い、個々の連携事業の実施につなげている。また、特に、隣接する三重県総合文化センターとは事務連絡会議、駐車場会議を開催し、相互の円滑な日常的運営に努めている。

1) 総合文化センター

8月6日(日)に三重県総合文化センターで開催されたM祭の一会場として、下記の事業を連携して実施した。

- ・のりものバッグづくり 会場：学習交流スペース 参加者数：249名
- ・ミュージアム・パートナーフェスタ MieMuであそぼう！ 参加者数：745名
企画展「オリンピック・パラリンピック 栄光の軌跡」では、下記の連携協力を行った。
- ・そうぶんバスツアー参加者への展示解説 11月25日(土) 参加者数：26名
- ・三重県生涯学習センターとの連携事業 記録映画「東京オリンピック」上映会 12月17日(日)
参加者数：113名

2) 県立図書館

企画展の開催に合わせ、相互利用の促進を図るための取組を行った。主に、図書館から博物館へ来館する人の流れを生み出すことを意図して、図書館内での企画展に関するPR展示と関連圖書の展示などを行った。

《実施内容》

- ・第15回企画展「カモシカ☆パラダイス」 図書館内PR展示
- ・第16回企画展「みんなののりもの」 図書館内PR展示
- ・第17回企画展「発掘された日本列島」 図書館内PR展示
- ・第18回企画展「オリンピック・パラリンピック」 図書館内PR展示
- ・学芸員の執筆原稿が載る雑誌「昆虫と自然」の紹介展示 図書館内PR展示
12月20日(水)～平成30年1月31日(水)
- ・図書館フォトコンテスト 当館学習交流スペース
平成30年2月22日(木)～3月4日(水)

5.4.5 国県市町など

1) 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク(みえ歴史ネット)

県・市町・関係諸機関が連携し、地域の歴史的文化的資産の保存と活用を図ることを目的とし、平成23年「三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク」が発足した。現在、県内25市町の32機関と県の3機関が加入している。平成29年度は、下記のとおり2回の会議と講演会を実施した。また、古文書等の歴史資料の所在場所の確認調査を終えていた伊勢市で、現地訪問の上、団体組織歴史資料(自治会資料)の現状の確認を行う現況確認調査を実施した。

<定期会合>

第1回 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク会議

日 時：8月2日(水)

会 場：当館レクチャールーム

主な内容：今年度の取り組み、市町への古文書等の所蔵確認調査、及び現地訪問の上での現状の確認調査である現況確認調査等の依頼。

第2回 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク会議及び技術講習会

日 時：平成30年2月28日(水)

会 場：本居宣長記念館 講座室

主な内容：第1部 第2回みえ歴史ネット会議

進捗状況等確認、現況確認調査のモデル事業実施について

第2部 研修会「リスクマネジメントに関する講演及び事例報告」

講演「和歌山県における自然災害時の博物館等によるネットワークとその課題」

(和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議 幹事 浜田拓志)、報告「平成29年台風21号による伊勢市内の文化財被害とその対応」(伊勢市教育委員会 奥野 実)、

「三重県における自然災害時の博物館等によるネットワークの現状」(当館職員

間渕 創)

※第2部は三重県博物館協会と共催

<職員派遣>

第4回全国史料ネット研究交流集会 平成30年1月20日(土) 於：岡山県ノートルダム清心女子大学

※『みえ歴史ネット』の所在確認調査・現況確認調査の取組」という演題で活動報告(当館職員 藤谷彰)

2) 公文書館関係

公文書館関係機関開催の会議等へ参加した。

全国公文書館長会議 日時：6月9日(木)～10日(金) 於：東京都

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)第43回全国(神奈川相模原)大会及び研修会

日時：11月9日(木)～10日(金) 於：神奈川県相模原市

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)近畿部会役員会

日時：6月13日(火) 於：京都府京都市

東海北陸地区公文書等保存利用事務協議会 日時：10月20日(金) 於：静岡県静岡市

4) 文化財保存についての地域協力

地域にある文化財の保存・活用への協力は当館の使命であるため、文化財の保存や修復方法に関する問い合わせへの回答・助言を行うとともに、必要に応じて当館の保存科学担当者が環境調査や資料分析を行った。

主な内容としては、収蔵施設等の施設設備や文化財防災に関する助言・講演、温度/湿度・化学物質・生物被害等についての測定と管理についての助言及び、X線透過撮影や蛍光X線による文化財の分析である。平成29年度は次の対応を行った。

環境調査及び文化財調査の対応件数 77件

環境管理についての助言等の件数 121件

5.4.6 その他の諸機関・諸団体

機関・団体名	事業名	期間	会場	概要	人数
ウミガメネットワーク	講演会「伊勢湾にやってくるウミガメ」、実物展示・パネル展示	4月16日(日)	学習交流スペース、レクチャールーム	MieMuの日のイベントとして、ウミガメネットワークと連携し、館内にて講演会、実物展示、パネル展示、紙芝居、クイズ等を行った。	—
三重県農林水産部 みどり共生推進課	野生生物保護啓発ポスターコンクール作品展示会	5月10日(火) ～5月24日(火)	学習交流スペース	愛鳥週間にあわせ、各学校の児童・生徒の皆さんを対象としたコンクールの平成28年度入選作品の展示	—
三重県健康福祉部 医療対策局・公益 社団法人三重県歯 科医師会	親子体験教室歯のびっ くりサイエンス	7月23日(日)	実習室	「口のはたらきを科学する」というテーマで実験体験	—
ウミガメネットワーク	ウミガメの展示	7月25日(日) ～8月4日(金)	学習交流スペース	伊勢湾沿岸で確認された産卵や子ガメの孵化・脱出の記録や骨格標本などの展示	—
三重県水産研究所	夏休み特別企画「三 重県水産研究所って どんなところ？」	7月29日(土)	実習室	イセエビの赤ちゃんの実物など 展示	445
ウミガメネットワーク	夏休みウミガメ講座 「さいて、みて、さわつ て ウミガメをして ね！！」	7月30日(日)	学習交流スペース	親ガメ、子ガメ、卵の中で死 んでしまった赤ちゃんのことな どを知る講座	—
連合三重・北方領 土返還要求県民会 議	平和パネル展	8月1日(火) ～8月16日(水)	エントランス、 学習交流 スペース	連合三重平和展示	—
連合三重・北方領 土返還要求県民会 議	平和学習会映画「ジョ バンニの島」上映会	8月11日(金)	レクチャー ルーム	連合三重映画会	110
三重県ジュニアロ ボコン実行委員会	Jr. ロボコン 2017 in 三重 成果発表会場	8月19日(土)	レクチャー ルーム	ものづくりの楽しさと科学技術 への興味・関心を高める青少 年のための企画	約100
三重県指定文化財 等所有者連絡協議 会	理事会、総会	8月30日(水)	レクチャー ルーム		—
三重県林業研究所	研究成果報告会	8月31日(木)	レクチャー ルーム	4名の研究員による発表。	33
三重県戦略企画部 広聴広報課	三重県総合博物館 (MieMu) 秘密のツアー	9月10日(日)	企画展示室他	企画展の見どころ解説やバック ヤードツアー	3家族
読売新聞 津支局	第62回日本学生科学 賞県展	10月3日(火) ～10月8日(日)	レクチャー ルーム	理科教育に基づく中学・高校 生の公募コンクールの地方審 査と発表	—
三重県農業協同組 合中央会	親子でつくろう お むすびアート	10月29日(日)	実習室	おむすびをつくる料理教室	—
三重県・三重大学 みえ防災・減災セ ンター	パネル展示	10月17日(火) ～11月5日(日)	学習交流 スペース	防災に関する展示	—
三重県保険医協会		11月3日(金)～ 11月8日(水)	学習交流 スペース	いい歯の日子どもポスター作品 展示	—

機関・団体名	事業名	期間	会場	概要	人数
三重県農林水産部 森林・林業経営課・ 三重県木材協同組 合連合会・三重県 木材青壮年団体連 合会	「第35回三重県児童・ 生徒木工工作コンク ール」優秀作品展示会	12月2日(土) ～12月15日(金)	学習交流 スペース	審査の結果優秀作品に選ばれた20点を展示	—
三重県環境情報学 習センター	生態学シリーズ「生 存戦略」第1回チョ ウの生存戦略	12月2日(土)	レクチャー ルーム	生態学の内容に関するわかりや すい講義	—
ウミガメネットワ ーク	ウミガメ報告会	12月3日(日)	レクチャー ルーム	今年のアカウミガメの産卵な どについて報告	—
公益財団法人三重 県下水道公社	下水道ポスターコン クール入賞作品展示	12月5日(火) ～12月15日(金)	学習交流 スペース	下水道の日にちなみ募集した 「第30回下水道ポスターコンク ール」の入賞作品を展示	—
三重県指定文化財 等所有者連絡協議 会	文化財講習会	11月22日(水)	レクチャー ルーム		—
三重県農業研究所・ 三重県畜産研究所	来て・見て・なっと く！ 研究所	12月17日(日)	実習室	研究成果の紹介とともに、簡 単な実験やクイズラリーがで きる体験企画	—
三重県環境情報学 習センター	平成29年度「三重県 地球温暖化防止啓発 ポスターコンクール」 作品展示	12月23日(土) ～平成30年 1月21日(日)	学習交流 スペース	「三重県地球温暖化防止啓発 ポスターコンクール」の入賞 作品の展示	—
OTONAMIE	タイアップ企画 「OtonaMieMu展」	平成30年 2月3日(土) ～2月12日(月)	学習交流 スペース	OTONAMIEの記事の中で、特に 人気の高かった人物の記事に 関するパネル展示	—
三重県環境情報学 習センター	生態学シリーズ「生 存戦略」第2回トン ボの生存戦略	平成30年 2月10日(土)	レクチャー ルーム	生態学の内容に関するわかり やすい講義	—
三重生物研究会	三重生物研究会	平成30年 2月10日(土)	レクチャー ルーム		62
OTONAMIE	ワークショップ「THE CREATIVE!!! 人は伝 えたい生き物だ」	平成30年 2月12日(月)	レクチャー ルーム	第一部の座談会「クリエイター の頭の中」、第二部のワークショ ップ「私、干されたんです・・」 を開催	—
三重県教育委員会	みえ自然科学フォー ラム2017	平成30年 2月17日(土)	レクチャー ルーム、学習交流 スペースほか	京都大学生による小中学生向 け科学体験講座	—
答礼人形「ミス三 重」の会	寄贈式	平成30年 3月17日(土)	学習交流 スペース	90年前に人形交流を推進した ギュリック氏の子孫からの 「友情人形」寄贈の式典	—
三重県環境情報学 習センター	ネイチャ・フィー リング研修会	平成30年 3月17日(土)・ 18日(日)	実習室	五感を使って自然のしくみを 観察することに着目した観察 手法を学ぶ。	—
答礼人形「ミス三 重」の会	人形展示	平成30年 3月17日(土) ～4月8日(日)	エントランス ホール	今回寄贈された「友情人形」 展示	—
ウミガメネットワ ーク	環境学習会「紀宝町 ウミガメ公園のウミ ガメたち」	平成30年 3月31日(土)	交流活動室	ウミガメ公園で飼育されてい る、ウミガメの生活の様子や 生態について	—

5.5 他機関・団体への協力（職員の諸団体への協力活動）

他機関や団体から依頼を受けて各種委員や講師依頼等を受けて実施した講演や講座について学芸員ごとに講演、講座などの内容（テーマ）、依頼元、開催場所、実施日について記載した。

5.5.1 委員、講師等の依頼

大野照文（三重県総合博物館館長）

[賞]

京都市教育功労者

[委員等]

- 1 京都大学名誉教授
- 2 三重県博物館協会 理事
- 3 京都府 社会教育委員
- 4 京都大学と京都府教育委員会との連携事業検討委員会 委員
- 5 京都市立堀川高等学校 学術顧問
- 6 京都市立日吉ヶ丘高等学校 学術顧問
- 7 大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学 運営諮問会議委員
- 8 福井県立恐竜博物館 博物館協議会委員
- 9 兵庫県立尼崎小田高等学校 SSH運営指導委員
- 10 愛媛県文化事業 外部専門家
- 11 隠岐ユネスコ世界ジオパーク海士町拠点施設整備計画策定委員会 委員長
- 12 島根県隠岐郡海士町歴史文化基本構想検討委員会 委員長
- 13 国際教育学会 理事
- 14 公益財団法人 益富地学会館 理事
- 15 公益財団法人 体質研究会 理事
- 16 福井県立大学 非常勤講師
- 17 放送大学京都学習センター 非常勤講師
- 18 放送大学「博物館概論」担当講師

[講師等]

- 1 三重県立美術館友の会平成29年度総会講演「科学と芸術はいつ始まったか？」講師，三重県立美術館（4月9日）
- 2 公益財団法人京都SKYセンター 旅行「三重県総合博物館とお伊勢さん菓子博2017」来館対応，三重県総合博物館（5月7日）
- 3 放送大学面接授業 講師，三重県総合博物館（5月20日－21日）
- 4 出前授業「三葉虫を調べよう」講師，ニッケン学園（5月24日）
- 5 丸之内倶楽部講演「みえむが目指す『日本一の地方博物館』」（5月24日）
- 6 ワークショップ「三葉虫を調べよう」講師，EAS鈴鹿校（6月1日）
- 7 ワークショップ「三葉虫を調べよう」講師，津市立西が丘小学校（6月15日）
- 8 三重モーニング・カレッジ講演「三重の未来創生プラットフォームとしての総合博物館」講師，ホテルグリーンパーク津（6月9日）
- 9 Transdisciplinary Mie-Symposium 2017 on “Origins and Evolution of Complexity”，共催三重県総合博物館（6月17日－18日）
- 10 三重県立松阪高等学校SSH「発展探究」活動助言担当，松阪高等学校（6月21日）
- 11 京都府総合教育センター平成29年度小学校教員理科研修講師，京都大学総合博物館（7月26日－28日）

- 12 教員免許状更新講習，コミュニケーション・スキルアップの3日間，ワークショップ「貝体新書—大人が学ぶ二枚貝—」講師，京都造形芸術大学（7月31日）
- 13 みるみるの会研修会「貝体新書」講師，出雲市教研出雲弥生の森（8月2日）
- 14 みるみるの会研修会「三葉虫を調べよう」講師，海士町中央公民館（8月3日）
- 15 体験EXP02017夏ワークショップ「大人のための学習教室『貝体新書』」講師，京都大学総合博物館（8月4日）
- 16 愛媛県美術館・博物館・小中学校共働による人材育成事業，モデル校松前町立北伊予小学校での夏季研修「美術と他教科の親和性」研修ワークショップ講師，松前町東公民館（8月9日）
- 17 学芸員実習受講者向け講演「三重の未来創生プラットフォームとしての総合博物館」講師，三重県総合博物館（8月16日）
- 18 「自由研究大集合『三葉虫を調べよう』」講師，三菱みなとみらい技術館（8月20日）
- 19 京都市立堀川高等学校SSH事業「科学技術人材育成重点枠」三重県総合博物館でのグループ学習講評担当，三重県総合博物館（8月22日）
- 20 福井県立大学 集中講義「地圏環境学」講師，福井県立大学（8月28日－31日）
- 21 シンポジウム「未来を担う子供たちのために～京都から広がる学びのネットワーク～」パネルディスカッション「未来を担う子供たちのために今できることは何か」コーディネーター，京都大学百周年時計台記念館（9月2日）
- 22 第7回ミュージアム・エデュケーター研修教育プログラム「貝体新書：おとなが学ぶ二枚貝」講師，東京国立博物館附属黒田記念館セミナー室（9月7日）
- 23 みえミュージアムセミナーの先ドリセミナー基調講演「博物館で若返る？あなたの脳年齢」講師，三重県文化会館（9月9日）
- 24 地域や企業を骨太にする連携9講座講演「人類史260万年に学ぶ知恵の使い方」講師，生駒市テレワーク&インキュベーションセンターイコマド（9月11日）
- 25 財団法人三重県環境保全事業団40周年記念コーポレーションデー記念講演「三重の豊かな自然環境を未来につなぐ」講師，三重県総合博物館（9月23日）
- 26 ワークショップ「三葉虫を調べよう」講師，京都府立洛東高等学校（10月18日）
- 27 平成29年度館長懇談会講演「館長の三重体験記」講師，三重県総合博物館（10月20日）
- 28 第24回Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム Key Note Lecture “Local wisdom in the age of globalism” 講師，三重大学（10月24日）
- 29 関西学士会第30回関西茶話会講演「博物館で探るヒトの知恵の進化」講師，京都大学楽友会館（11月18日）
- 30 第7回瀬戸内海的环境を考える高校生フォーラム 助言担当，兵庫県立尼崎小田高等学校（11月19日）
- 31 MieMuつながりシンポジウム 「地域を究めて世界とのつながりに至る～三重からの発信」講演「地域を究めてグローバルに至る」講師，三重県総合博物館（11月23日）
- 32 宇治田原町立田原小学校総合的な学習成果発表会講評担当，三重県総合博物館（11月24日）
- 33 ワークショップ「三葉虫を調べよう」講師，宇治田原町立田原小学校（12月6日）
- 34 第7回ミュージアム・マネジメント研修 教育プログラム体験・講義Ⅶ【教育事業】『「間違い」で深める大人の学習教室『貝体新書』』講師，東京国立博物館附属黒田記念館セミナー室（12月15日）
- 35 日本赤十字豊田看護大学ヘルスプロモーションセンター主催平成29年度こころの健康づくりシンポジウム講演「古生物の世界にみるこころのルーツ」講師，日本赤十字豊田看護大学講堂（12月16日）
- 36 視覚障害児童生徒のための科学ヘジャンプイン東京 2017 ワークショップ「サワッテ ミル カイ」講師，筑波大学附属視覚特別支援学校（12月17日）
- 37 三重県高等学校総合学科研究大会助言，三重県総合博物館（12月26日）

- 38 ワークショップ「大野館長と調べる三葉虫のひみつ」、三重県立みえこどもの城（平成30年1月14日）
- 39 京都市立堀川高等学校「スーパーサイエンスハイスクール」第23回運営指導委員会出席（平成30年1月15日）
- 40 三重県立松阪高等学校SSH1年生ポスター発表会出席（平成30年2月1日）
- 41 兵庫県立尼崎小田高等学校平成29年度SSH生徒研究発表会及び第2回運営指導委員会出席（平成30年2月3日）
- 42 愛媛県美術館・博物館・小中学校共働による人材育成事業③授業評価・実践集コンテンツ編集会議出席（平成30年2月7日）
- 43 環境文化交流会議講演「地域をきわめて世界とつながるー三重モデルの提唱に向けて」、四日市伝七邸（平成30年2月10日）
- 44 三重県立松阪高等学校平成29年度SSH成果発表会パネリスト（平成30年2月14日）
- 45 京都大学未来創成学国際研究ユニットおよび統合複雑系科学国際研究ユニット共催国際ワークショップ2018座長（平成30年2月15日－16日）
- 46 みえ自然科学フォーラム2017対応（平成30年2月17日）
- 47 平成29年度京都市立日吉ヶ丘高等学校SGH報告会出席（平成30年2月20日）
- 48 第3回三重県子ども応援隊企業表彰式及び取り組み事例発表会コメンテーター、みえこどもの城（平成30年2月23日）
- 49 大阪成蹊学園蹊友会・大阪成蹊学園主催「第2回教育フォーラム～みんなで育てたい健やかな心と体～」パネラー、大阪成蹊学園相川キャンパス（平成30年2月24日）
- 50 ワークショップ「三葉虫を調べよう」講師、尾鷲市立矢浜小学校（平成30年3月1日）
- 51 ワークショップ「館長と調べる二枚貝のヒミツ」講師、三重県総合博物館（平成30年3月24日）
- 52 三重県立みえこどもの城ボランティア講習会講演「ボランティアの意味を人類の知恵の進化から考える」講師（平成30年3月25日）
- 53 三重県商工会連合会 講演「地域をきわめて世界とつながる 三重の人材育成」講師、三重県総合文化センター（平成30年3月28日）

大島康宏（主査・学芸員）

[委員等]

- 1 日本鱗翅学会自然保護委員
- 2 蜻蛉研究会編集委員
- 3 自然史レガシー継承・発信実行委員会 実行委員
- 4 希少野生動植物種保存推進員（環境省）

[講師等]

- 1 「昆虫講演会①アサギマダラとレッドヒルヒースーの森の昆虫を知ろう！」講師、フューチャーファームコミュニティ 三重（5月4日）
- 2 研修会「外来生物ヒアリの県内対策」講師、三重県農林水産部みどり共生推進課（7月10日）
- 3 観察会「夏の虫探し探検隊」講師、伊賀の里モクモク手づくりファーム（7月15日・16日）
- 4 研修会「旅をするチョウ「アサギマダラ」を用いた普及活動の可能性」講師、フューチャーファームコミュニティ 三重（10月22日）
- 5 株式会社JSR敷地内緑地の植生に関する助言（9月20日）
- 6 ミュージアムパトナー研究・発表指導 昆虫学会、中学生2名、小中高生ポスター発表部門（9月3日）
- 7 ミュージアムパトナー研究・発表指導 三重生物研究発表会、中学生1名、小・中学生部門、三重県教育委員会賞受賞（2月10日）

- 8 FMみえ レディオキューブ イブニングコースター, 博物館事業と昆虫のおはなし, 出演 (8月16日)
- 9 NHK津放送局 「ほっとイブニングみえ」 外来昆虫ヒアリについて, 出演 (8月17日)
- 10 CBCテレビ「イッポウ」, 蟬の抜け殻から見える?自由研究, コメント出演 (8月28日)
- 11 NHK総合 「ニュース シブ5時」, 外来昆虫について, コメント出演 (9月4日)
- 12 NHK津放送局 「ほっとイブニングみえ」 世界で2例目 珍しいハチを発見, コメント出演 (12月12日)
- 13 FMみえ レディオキューブ イブニングコースター 世界で2例目のハチと博物館の活動, 出演 (12月19日)

太田光俊 (主査・学芸員)

[講師等]

- 1 三重大学教養教育・教養統合科目・地域理解・日本理解「三重学 食と観光実践」 ゲストスピーカー, (6月17日)
- 2 「寿講座 伊勢参りの話し」 豊里公民館 (6月21日)
- 3 「寿講座 伊勢参りの話し」 大里公民館 (6月28日)
- 4 「基本展示と知のネットワークに関する話し」 三重県高等学校国語科研究会 (8月4日)
- 5 「古文書講座」 鳥羽市立図書館 (10月20日・12月22日・平成30年1月19日・2月16日・3月16日)
- 6 「空襲からまもられた幻の高山公伝」ときめき高虎会 (11月5日)
- 7 「江戸時代津の人びとの伊勢参り」 有造館ゼミナール (11月16日)

門口実代 (主任・学芸員)

[講師等]

- 1 三重大学リレー講義「海女のくらしを展示する試み」 三重大学 (6月12日)

北村淳一 (主査・学芸員)

[委員等]

- 1 木曽川水系イタセンパラ保護協議会委員 (国土交通省中部地方整備局河川部河川環境課)
- 2 利根川下流部自然再生モニタリング委員会委員 (国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所)
- 3 櫛田川自然再生推進会議委員 (国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所)
- 4 農業農村整備事業環境アドバイザー協議会委員 (三重県農林水産部農業基盤整備課)
- 5 祓川環境保全全体会議座長
- 6 祓川環境美化推進協議会推進委員
- 7 希少野生動植物種保存推進員 (環境省)
- 8 自然史レガシー継承・発信実行委員会 実行委員
- 9 亀山市ネコギギ保護指導委員 (亀山市教育委員会)

[講師等]

- 1 総合学習 (水生生物調査), 明和町立斎宮小学校 (6月5日)
- 2 総合学習 (水生生物調査), 明和町立下御糸小学校 (6月7日)
- 3 生き物放流会, 松阪市立朝見小学校 (5月26日)
- 4 生物救出, 松阪市立朝見小学校 (9月6日)

瀧川和也 (展示・交流事業課長・学芸員)

[委員等]

- 1 四日市市文化財保護審議会 委員

- 2 鈴鹿市文化財調査会 委員
- 3 亀山市文化財保護審議会 委員
- 4 津市文化財保護審議会 委員
- 5 伊賀市文化財保護審議会 委員

[講師等]

- 1 勝因寺の仏たち，勝因寺（4月4日）
- 2 熊野について，橋南公民館（9月13日）
- 3 東大寺二月堂と大仏の話，津市立家城小学校（9月15日）
- 4 東大寺大仏の話，津市立美杉小学校（9月25日）
- 5 元三大師の彫刻について，西来寺（11月3日）
- 6 玉泉庵の十王像について，志摩市歴史民俗資料館（平成30年3月18日）

中川良平（主査・学芸員）

[委員等]

- 1 日本洞窟学会事務局員

[講師等]

- 1 「地球と生命の物語⑤ 洞窟に埋もれた過去の動物たち ～日本の第四紀哺乳類化石～」博物館セミナー，福井県立恐竜博物館（9月10日）

中野環（主幹・学芸員）

[委員等]

- 1 河川水辺の国勢調査アドバイザー（国土交通省三重河川事務所）
- 2 三重県生物多様性保全検討委員会委員（三重県農林水産部）

[講師等]

- 1 水生生物の総合学習（主催：津市立片田小学校）（6月8日）
- 2 南伊勢町教育振興会研修会，南伊勢町教育振興会（8月9日）
- 3 南島中学校体験学習，南伊勢町立南島中学校（平成30年1月21日）

中村千恵（学芸員）

[委員等]

- 1 全日本博物館学会 選挙管理委員会 委員長

藤谷彰（主幹・課長代理・学芸員）

[委員等]

- 1 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会大会 研修委員会委員

[講師等]

- 1 明和町古文書講座（6月14日，7月12日，8月8日の3回）
- 2 三重大学伊賀連携フィールド「忍者・忍者学講座」（6月17日）
- 3 美旗市民大学講座（8月30日）
- 4 国立公文書館アーカイブズ研修Ⅲ（主催：独立行政法人国立公文書館）（11月13日）
- 5 東京海上日動火災保険「美し国みえゼミナール」（12月6日）
- 6 全国史料ネット研究交流集会報告（平成30年1月20日）

間瀬創（主査・学芸員）

[委員等]

- 1 文化財保存修復学会災害対策調査部会拡大委員
- 2 文化財保存修復学会第40回大会プログラム作成委員

[講師等]

- 1 「三重県総合博物館におけるIPM」，文化財保存修復学会公開シンポジウム「博物館におけるIPMのこれから」，九州国立博物館（4月8日）
- 2 「博物館における資料保存」三重大学人文学部博物館実習学外見学，三重県総合博物館（6月21日）
- 3 「三重県総合博物館における展示環境管理について」，公開承認施設担当者会議，文化庁（7月25日）
- 4 「博物館における資料保存」博物館実習，三重県総合博物館（8月16日）
- 5 「博物館と科学」第5回科学の甲子園，三重県総合文化センター（10月7日）
- 6 「博物館における資料保存」皇學館大学博物館資料保存論学外授業，三重県総合博物館（12月3日）
- 7 「三重県博物館協会等による災害に対する取り組みについて」，和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議平成29年度研修会，新宮市福祉センター（平成30年2月15日）
- 8 「三重県における自然災害時の博物館等によるネットワークの現状」，三重県博物館協会平成29年度リスクマネージメント研修，本居宣長記念館（平成30年2月28日）

森田奈菜（主任・学芸員）

[委員等]

- 1 希少野生動植物種保存推進員（環境省）

[講師等]

- 1 自然観察会「三重県御在所岳のコケと地衣類を見る知る楽しむ」講師（5月20-21日）国立科学博物館との共催
- 2 株式会社JSR敷地内緑地の植生に関する助言（9月20日）

津村善博（嘱託学芸員）

[委員等]

- 1 三重県環境影響評価委員（三重県環境生活部）
- 2 鈴鹿亀山道路環境調査アドバイザー（三重県県土整備部）（平成28年12月20日～平成30年3月31日）
- 3 津市文化財保護審議会 委員
- 4 松阪市文化財保護審議会 委員

[講師等]

- 1 三重大講義「三重の歴史と文化」講師 三重大学（4月26日）
- 2 出前講座「楽学ななくり 『七栗の土地のなりたち』」津市七栗公民館（8月22日）

6 企業との連携

6.1 事業の趣旨・目的

博物館活動の基本的な活動の視点の一つである多様な主体との連携を進めるにあたり、三重県の経済・産業・雇用・文化などの面で大きな役割を担っている企業・団体との交流と連携に取り組んでいる。金銭的な支援だけでなく、新たな創造と発信の機会とするために、講演会や各種ワークショップ、パネル展示等を共催して実施している。

- ・寄附 企画展示の充実や、展示・収蔵資料の保存や修繕など、博物館の活動全般に対する金銭的な支援
- ・企業パートナーシップ 一定額を会費として支払うことにより、博物館の利用に関する各種の特典を受けられる。
- ・コーポレーション・デー 任意の日在一定額の協賛をすることで、その日の来館者全員の基本展示観覧料が無料になり、合わせて企業PRなどができる。

6.2 パートナー企業数

- ・寄附支援企業 84社
- ・企業パートナーシップ会員 158社 （平成30年3月末）※重複あり

6.3 連携事業

1) コーポレーション・デー

企業名・団体名	実施日	主なイベント内容
株式会社ケーブルコモンネット三重	6月18日(日)	子どもテレビ局アナウンサー体験、科学実験室、PCプログラミング教室、キャラクターぬり絵の展示等開催
第27回日本外来小児科学会年次集会	9月2日(土)・3日(日)	医薬品・医療品関連メーカーの製品展示(23社)、教育講演、ワークショップ等開催
一般財団法人三重県環境保全事業団40周年記念行事	9月23日(土・祝)	事業内容のパネル展示や体験測定、“子ども科学実験”等ワークショップ等の開催、記念講演「三重の豊かな自然環境を未来につなぐ」(当館館長大野照文)
“みえ交通安全・環境フェスタ2017” 国土交通省中部運輸局三重運輸支局 一般社団法人三重県自動車会議所 公益社団法人三重県バス協会 他	9月30日(土)	未来の車エコカーの展示、先進安全自動車試乗体験、パトカーや白バイとの記念撮影 バスの絵表彰式と受賞作品の展示、お絵かきバスや交通安全ワークショップ等開催
一般社団法人三重県トラック協会青年部会“トラックフェスタ2017 in MieMu”	11月12日(土)	最新トラックの展示、三重県トラック協会の事業紹介、じゃんけん大会&エンディング、トラック綱引き、野外ステージ等開催
株式会社ファールアウト“みえプレ@” 三重を元気にするママを応援	11月25日(土)・26日(日)	会社概要及び事業内容の紹介、熊田曜子さんトークショー、和菓子や飾りのり巻き寿司教室、浅田政志さんプレミアム写真撮影会等開催
株式会社百五銀行	平成30年1月13日(土)	「金融・通貨の昔と今」展示、「すばらしき“みえ”」冊子配布、ストラックアウト、ペンギンピート等キャラクター出演

※コーポレーション・デー：多くの方に博物館に親しんでいただくきっかけとして、企業等の協賛により、特定の日の基本展示観覧料を無料化。協賛企業等は、チラシの配布など自らの広報活動を実施できる制度。

2) 展示

企業名・団体名	展 示 名	実施期間	企業の協力内容
株式会社ケーブルネット三重	キャラクター絵の入選作品の表彰式と撮影会、展示	6月18日(日) ～7月9日(日)	キャラクターぬり絵の作品(入賞含む)展示と表彰式開催、作品にリボン製作と飾り
公益社団法人三重県バス協会	バスの絵入選作品の表彰式と展示	9月30日(土) ～10月14日(土)	バスの絵表彰式及び入選作品(33点)の展示
読売新聞社中部支社	「第61回日本学生科学賞県展」	10月4日(水) ～10月8日(日)	入選作品審査・表彰式と入選作品(48点)展示
公益財団法人三重県下水道公社	下水道ポスターコンクール入選作品展示	12月5日(火) ～12月15日(金)	入選作品21点の展示
中部電力株式会社三重支店	電気ポスターコンクール入選作品展示	平成30年 2月22日(木) ～3月4日(日)	入選作品(55点)の展示

3) イベント

企業・団体名	内容
味の素ゼネラルフーズ株式会社AGF(平成28年度～継続)	鈴鹿馬子唄会館「ブレンディーの森―森づくり活動」の展示開設 森に生息する赤トンボなど昆虫標本と観察会
森永製菓株式会社(平成28年度～継続)	伊賀・エンゼルの森“自然塾”昆虫の観察会 伊賀エンゼルの森「森のようちえん」チラシ館内配架
津市簡易郵便局	おえかき(はがき)ワークショップ
中部電力株式会社	電気実験教室及び省エネポスターの展示
株式会社津松菱	鉄道ランド2017展と当館企画展双方で広報協力(ポスター、チラシ等) 春の北海道物産展に当館企画展のチラシ配架
三重県農業協同組合中央会	親子でつくろうおむすびアート教室
イセツ株式会社	鈴鹿アンリミテッドFC選手によるボールをつかわないかんたんトレーニング教室
株式会社百五銀行	百五銀行野球部によるストラックアウト及びキャラクター出演

4) 外部講話

企業・団体名	講話テーマ
赤塚植物園グループ	アサギマダラとレッドヒルヒサーの森で見られる昆虫達 アサギマダラと赤とんぼ
丸の内倶楽部	みえむが目指す日本一の地元博物館
株式会社伊賀の里モクモク手づくりファーム	昆虫博士と夏の虫をさがしに行こう！ 稲刈りと赤とんぼ
一般財団法人三重県環境保全事業団	生き物の名前を調べてみよう～標本を作ってみませんか？～ 「三重の豊かな自然環境を未来につなぐ」
東京海上日動火災保険株式会社	江戸で活躍した伊勢商人
三重県商工会連合会	地域をきわめて世界とつなげる三重の人材育成

5) ショップ関係

	商品
MieMuオリジナル商品	関の戸、さんちゃんクッキー等
企画展商品	せんべい・ワッフル・ドロップ、ロープウエイTシャツ・スイートパイ・ ゴンドラフィギュア
共催事業	・化石さがし体験～本物の恐竜の化石を探し出そう！ (8月3日(木)・4日(金)・10日(木)・11日(金・祝)・17日(木)・18日(金)・ 24日(木)・25日(金)) ・土鈴作り体験(10月15日(日)) ・化石さがし体験(11月4日(土))

7 利用者との協創

7.1 事業の趣旨

三重県総合博物館の基本的な活動の視点である「県民・利用者との協創」に基づく取組として、「三重県総合博物館ミュージアムパートナー」の活動への支援、「ボランティア」活動を継続して行った。

7.2 三重県総合博物館ミュージアムパートナー

旧県立博物館時代に結成された「サポートスタッフ」を母体に、博物館とともに活動し、支える外部団体として発足した。当館学芸員が活動を支援し、独自の講座・観察会を実施し、三重の自然と歴史・文化について調査・観察、発信する活動を行っている。

1) 会員数 158組 272名 (平成30年3月31日現在)

2) 主な活動内容

- ・会員を対象とする講座、フィールドワーク等の事業を実施
- ・会報を発行
- ・博物館活動への参加・協力、博物館との連携によるワークショップ等の実施
- ・仲間とともに興味・関心を深めることができるグループ活動（歴史、民俗、染織、おもしろ博物館、ユニバーサルミュージアムの5グループ）
- ・総会（年1回）、事務局会議（月1回）、役員会（会長が招集）、グループ代表者会議を開催

3) 活動内容

企画展内覧会

事業名	開催日	会場	人数	担当職員
第15回企画展「きて・みて・さわって カモシカ☆パラダイス」	4月14日(金)	企画展示室・ レクチャールーム	22	当館職員 田村香里
第16回企画展「みんなののりもの大集合～この夏、三重をのりつくそう～」	7月7日(金)		24	当館職員 中野 環
第17回企画展「発掘された日本列島2017」	9月29日(金)		25	当館職員 宇河雅之
第18回企画展「オリンピック・パラリンピック 栄光の軌跡」	11月17日(金)		19	当館職員 中村千恵
計			90	

自然史系学芸員と行く自然観察会

行事名	開催日	会場	人数	講師
海の日に御在所山へ行こう	7月17日 (月・祝)	菰野町内	39	当館職員 大島康宏・森田奈菜
答志島の自然とアサギマダラマーキング※	10月15日(日)	鳥羽市内	—	当館職員 大島康宏・森田奈菜
神島の自然をたずねて	12月3日(日)	鳥羽市内	10	当館職員 津村善博
計			49	

※悪天候のため中止

鉱物さがし、化石をたずねて

行事名	開催日	会場	人数	講師
藤原の鉱物	11月19日(日)	いなべ市内	25	当館職員 津村善博
熊野の化石	平成30年 1月28日(日)	熊野市内	6	当館職員 津村善博
計			31	

学芸員ミニ講座

事業名	開催日	会場	人数	講師
幕末維新と津藩～鳥羽伏見の戦いで の「裏切り」は、なぜおこったのか～	6月24日(土)	レクチャールーム	17	当館職員 水谷憲二
「その他の動物」をみてみよう	6月24日(土)	レクチャールーム	8	当館職員 中野 環
どこを食べてる？ くだものを解剖して みよう	12月16日(土)	実習室	10	当館職員 森田奈菜
中央に進出した伊勢の古代氏族・飯 高氏について	平成30年 2月11日(日)	レクチャー ルーム	19	当館職員 星野利幸
計			54	

バックヤードツアー

事業名	開催日	会場	人数	担当職員
博物館の裏側を見てみよう	8月20日(日)	当館 バックヤード	6	当館職員 中村千恵
博物館の裏側を見てみよう※	10月22日(日)		—	当館職員 中村千恵
計			6	

※悪天候のため中止

ナイトミュージアム

事業名	開催日	会場	人数	担当職員
ナイトミュージアム～夜のMieMuを探 検してみよう～	7月22日(土)	当館館内	20	当館職員 中村千恵

博物館めぐり

事業名	開催日	会場	人数	担当職員
大阪市立自然史博物館	10月7日(土)	大阪市内	8	当館職員 大島康宏

初心者のための博物館資料取扱講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
人文系	7月29日(土)	資料閲覧室	8	当館職員 宇河雅之
自然系	12月16日(土)	実習室ほか	8	当館職員 田村香里
計			16	

こだわり講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
四国八十八ヶ所遍路の旅	5月14日(日)	交流活動室	6	平子順章
生物のナノ・マイクロ構造とバイオミ メティクス	9月24日(日)	交流活動室	20	蛭薙観順
「伊賀の農具たち 旧上野農業高校所 蔵資料解説」ができるまで	平成30年 1月27日(土)	交流活動室	68	ミュージアムパートナー 民俗グループ
計			94	

まちあるき歴史ウォーク

行事名	開催日	会場	人数	担当職員
伊賀街道を歩く 白子・磯山の巻	3月18日(日)	鈴鹿市内	13	当館職員 太田光俊

ミュージアムパートナーフェスタ “MieMuであそぼう！”

行事名	開催日	会場	人数	備考
オープン展示 みんなでつくろう!ミュージアムの実物昆虫図録	8月6日(日)	当館2・3階のオープンスペース	—	当日入館者数 4,143人 ワークショップ参加者数 745人
同 歴史グループ展示			—	
同 染色グループ展示			—	
ワークショップ 染色グループ(藍の生葉のたたき染め)			59	
同 民俗グループ(てんびんぼうで運んでみよう、さおばかりで計ってみよう)			120	
同 ユニバーサルミュージアムグループ(箱の中に何があるかな?さわってみよう)			148	
ほね探(ホネくらべ)			418	

総会・会議等

行事名	開催日	会場	人数	備考・担当職員
総会	4月2日(日)	レクチャールーム	37	—
事務局会議	4月9日(日) 5月14日(日) 6月11日(日) 7月9日(日) 8月13日(日) 9月10日(日) 10月14日(土) 11月12日(日) 12月10日(日) 1月14日(日) 2月11日(日) 3月4日(日)	交流活動室など	—	原則毎月第2日曜日に実施
定期発送作業	毎月第4木曜日	—	—	—
グループ代表者会議	適宜開催	—	—	—
ミュージアム・パートナーフェスタ “MieMuであそぼう” 実行委員会	適宜開催	—	—	—

・グループ活動

<ユニバーサル・ミュージアムグループ>

ワークショップや実践的な活動を通じて、障がいをお持ちの方とともに博物館を楽しむための方法について考えている。平成29年度は県立盲学校の文化祭でワークショップを開催し、実践を重ねた。また、館内に点在するユニバーサルデザインを紹介するマップ作りの検討を開始した。

<民俗グループ>

毎月第1土曜日を軸として活動を行った。例会では、県内の各地域に残る伊勢講について、各自が聞き取り調査をした成果を持ち寄り、グループ内で共有し報告書作成に向けた編集作業などを行った。また新しい取組として、消えゆくお菓子や地域で受け継がれているお菓子の調査も開始している。

<おもしろ博物館グループ>

博物館で子どもから大人まで楽しむことができる体験学習やモノづくり教室の企画や運営を行うグループである。平成29年度の主な活動は、毎月第3日曜日午前中に活動打合せを行い、7月・10月・2月の第3日曜日に当館事業「わくわくワークショップ」において簡単な工作教室等を実施した。その他にも、8月には県総合文化センターで行われるM祭!での「空とぶのりものをつくろう」や、11月には岐阜県博物館との交流企画において「昆虫切り紙」のワークショップなどを実施した。12月には恒例となっている当館事業「正月かざりづくり」を行った。

<歴史グループ>

毎月第1土曜日に、輪読会を開催した。特に伊藤又五郎家文書の輪読を行い、各自の古文書読解能力の向上をはかった。毎週木曜日は文書整理の会を開催した。ここでは、津市上浜町伊藤家文書を中心とした未整理資料の整理を進めつつ、古文書読解能力及び、目録作成能力の向上を図り、あわせて館蔵資料の整備にも資するように活動した。なお、第16回企画展「みんなののりもの大集合 この夏、三重をのりつくそう」に、これまで行ってきた田端屋関係資料の調査が活かされ、特急燕の開業当日の食堂車に関する資料などの展示が行われた。

<染織グループ>

かつて伊勢木綿、松阪木綿と呼ばれ全国的に有名であった三重県の織物や藍染めなどについて、多くの方に知っていただくことをめざしている。博物館の里山で藍などを栽培し、それをを用いた染色に力を入れている。また、育てた藍の種を希望者に配布する活動や、「染める」や「織る」という現代では馴染みの薄い作業を身近に感じてもらうため、体験講座を開催している。

※この他にも、グループ活動一環として博物館資料の整理等（歴史グループによる古文書整理、民俗グループによる民俗資料整理など）に取り組んでいる。

7.3 ボランティア

1) ボランティアの概要

「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざし、県民のみなさんとの「協創」として、平成26年末に「みえむボランティア」を募集し、博物館のスタッフとして職員とともに博物館活動を支える活動を行っている。平成29年度は以下の3つのグループに分かれて活動した。

- ・来館者対応ボランティア 18名（平成30年3月31日現在）
- ・ミュージアムフィールドボランティア 10名（平成30年3月31日現在）
- ・保存環境ボランティア 11名（平成30年3月31日現在）

2) 各グループの活動状況

<来館者対応ボランティア>

・活動内容

来館者の案内（展示室・飲食場所・トイレ・ロッカー・交通手段など）

ミエゾウ・オオサンショウウオのさんちゃん・実物図鑑ルームなどの案内

学校見学の際の対応

ワークショップ・講座などの補助

チラシ・ポスターなどの配布協力

企画展「みんなののりもの大集合」・「オリンピック・パラリンピック」の体験コーナーの補助

<ミュージアムフィールドボランティア>

・活動内容

ミュージアムフィールドの除草作業や植栽管理作業を月1回の頻度で実施している。今年度はおもに、

竹林の整備作業を行なった。

<保存環境ボランティア>

・活動内容

IPMの一環として2か月に1回程度の頻度、粘着トラップの設置・回収と実体顕微鏡下で文化財害虫の観察・計数を行った。

8 広報

8.1 新聞・テレビ・ラジオ

1) 新聞

平成29年度における新聞への掲載実績は、73件であった。

2) テレビ

平成29年度におけるテレビでの報道実績は、62件であった。

各企画展の内容はもちろん、ミュージアム・フィールドで発見された日本未記録のカマバチについての報道など、博物館の活動を様々な形で情報発信することができた。

3) ラジオ

平成29年度におけるラジオでの報道実績は、6件であった。

8.2 雑誌

1) 雑誌・フリーペーパー

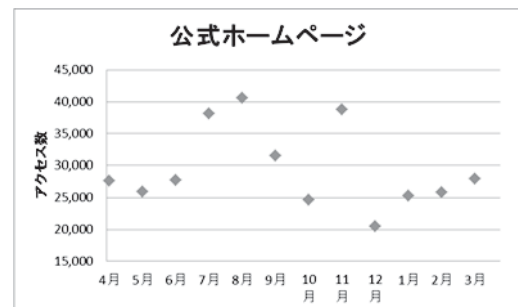
平成29年度の掲載実績は、雑誌が8件、フリーペーパーが20件の計28件であった。

津市近郊の情報を扱うフリーペーパーでは、定期的に情報を掲載していただける関係ができており、今後も継続していく。また読者プレゼントとして、各企画展の招待券を提供する場合もあった。

8.3 ホームページ

1) 月間アクセス数

月	アクセス数 (単位：回)	月	アクセス数 (単位：回)
4月	27,653	10月	24,615
5月	25,995	11月	38,752
6月	27,763	12月	20,519
7月	38,139	1月	25,336
8月	40,578	2月	25,845
9月	31,510	3月	27,933

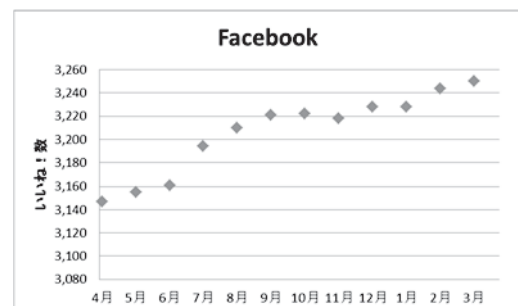


8.4 Facebook・Twitter

当館では、博物館を身近に感じより親しんでいただくことを目的として、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・システム）のうちFacebookとTwitterの運用を行っている。

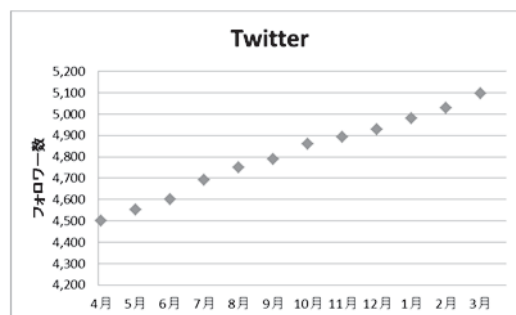
1) Facebook 月間の「いいね！」数

月	アクセス数 (単位：回)	月	アクセス数 (単位：回)
4月	3,147	10月	3,222
5月	3,155	11月	3,218
6月	3,161	12月	3,228
7月	3,194	1月	3,228
8月	3,210	2月	3,244
9月	3,221	3月	3,250



2) Twitter 月間のフォロワー数

月	アクセス数 (単位：回)	月	アクセス数 (単位：回)
4月	4,499	10月	4,859
5月	4,552	11月	4,893
6月	4,602	12月	4,927
7月	4,693	1月	4,981
8月	4,750	2月	5,029
9月	4,790	3月	5,097



9 博物館の評価

9.1 評価のしくみ

三重県総合博物館の活動を県民・利用者みなさんと、「ともに考え、活動し、成長させていく」ため、最も重要な基盤となるのが「博物館マネジメント」である。

三重県総合博物館では、「博物館マネジメント」として、毎年の活動と運営を「計画(Plan)－実施(Do)－評価(Check)－改善(Act)」のサイクルとして展開していく評価と改善のしくみを構築している。

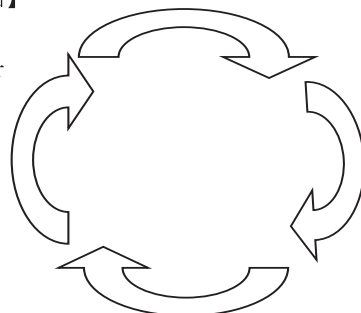
【博物館マネジメントのイメージ図】

④改善(Act)段階

- ・三重県総合博物館協議会で以下の意見をいただく
 - (1)前年度の評価結果
 - (2)本年度の取組報告
 - (3)次年度の年次計画

③評価(Check)段階

- (1)館職員による自己点検内部評価(4月)
- (2)館内部評価委員会での内部評価(5月)
- (3)三重県総合博物館協議会評価部会での外部評価(6月)



①計画(Plan)段階

- ・戦略目標と戦術(3年間)
- ・年次計画(1年間)

②実施(Do)段階

- ・戦略目標と戦術に基づき、年次計画を実施

1) 計画段階

① 短期計画(3年間)

「三重県総合博物館協議会」などに意見を求めながら、短期(3年間)の戦略目標と戦術を作成、公表する。

戦略計画は3年間、重点的に目的をもって取り組む戦略目標、戦略目標達成のために具体的にに取り組む戦術を決め、戦略や戦術の成果を評価する指標とその目標値を定める。平成29年度から平成31年度までを第2期とする。

② 年次計画

短期計画のプロセスと同様に、1年間の事業計画を作成し、計画及び評価結果概要は、「三重県総合博物館年報」及びホームページに掲載して公表する。

2) 施策段階

実施にあたっては、来館者アンケートを分析し、利用者による評価を集約する。

利用者数、満足度など、博物館の状況を表す数値データなども集計する。

3) 評価段階

実施段階で得たアンケート等のデータを活用し、段階的に①自己点検評価、②内部評価、③外部評価を組み合わせた総合評価を行う。

- ①自己点検評価：前年度の戦略と戦術に基づいて実施された活動と運営について、各活動と運営を担当した職員が成果指標のデータ分析を行い、活動と運営の成果について事実確認とともに、評価と改善点を含んだ総括を行う（4月）。
- ②内部評価：館職員による内部評価委員会を設置し、自己点検評価者とともに、各事業について事実確認とともに、評価と改善点を含んだ総括を行う（5月～6月）。
- ③外部評価：内部評価委員会でまとめた事実確認と評価、改善点を元に、外部評価として設置した三重県総合博物館協議会の評価部会（委員5名程度）が、前年度の活動と運営の成果について評価をし、改善点を付す（6月～8月）。

また、事業を日常的に確認し改善するために、内部において毎日朝夕2回の「日常点検報告会（5分）」と定期および臨時の戦略会議をもつ。定期戦略会議としては、第1休館日に常勤職員による「運営会議（2時間）」を開催している。また、毎週初めに課長代理以上の職員による「課長会議（1時間）」を開催していたが、平成30年2月から常勤学芸員による「学芸会議（1時間30分）」と隔週開催とし、より効率的な運営を目指して変更した。

【評価と改善のしくみの構築】

先行事例を調査し、自己評価と外部評価（県民・利用者参加型の評価を含む）を効果的に取り入れ、目標・指標の設定から事実確認、評価、改善策の打ち出しまで一連の制度の構築に向けて県民のみなさんや博物館評価を専門とする外部有識者とともに検討している。

4) 改善段階

前年度の活動と運営に対する評価結果と本年度の取組について、来館者アンケートや三重県総合博物館協議会などでいただいた意見を参考に、次年度の年次計画や次期3年間の戦略目標や戦術を構築させていく。

9.2 平成29年度の戦略目標と戦術の評価結果

平成29年度の評価結果は、次の日程で実施した。館職員の自己点検内部評価は、平成30年4月中に各戦略と戦術の担当者が評価シートをまとめた。内部評価委員会は平成30年5月30日（水）、6月28日（木）、7月5日（木）に実施し、外部評価は平成30年8月27日（月）に三重県総合博物館協議会評価部会を実施した。評価結果の概要は以下のとおりであり、各戦略目標と戦術の詳細な評価結果については、巻末の事業成果一覧に掲載した。

①内部評価結果（概要）

- ・自然から歴史など総合博物館として様々なテーマで三重を取り上げた展覧会を計10本（企画展・交流展・トピック展）開催することで、リピーターを確保することができた。また、高校生以下の観覧者は74,261人と観覧者全体の48%を占めるとともに、こども体験展示室の利用も入館者全体の33%にのぼった。広報や多様な主体との連携にも、引き続き積極的に取り組むことができた。また、調査研究については総合研究のあり方を見直し、当館の実情に沿った形で参加型調査に取り組むことができた。日常的なレファレンス対応をはじめ、学校や教育委員会との連携を進め、利用者の学びの場として当館を活用いただくことができた。
- ・一方で、展覧会の数は依然として多く、多くの経営資源を配分せざるを得ない結果となった。例えば、夏ののりもの展は県内交通事業各社との連携に取り組み、開館以来最多の観覧者数（42,981人）となったが、連携にあたっての交渉・調整のほか、多数のイベント開催に人員と時間を割く結果となった。集客を意識しながらも、省力化できる部分を見つけてバックヤード業務（資料整理、調査研究）の人員・時間を確保しなければならない。また、組織を改めて3課（経営戦略広報課、展示・交流事業課、調査・資料情報課）の体制とし、業務分担の明確化・円滑化に努めた。スケジュール管理の徹底や展覧会チームの運用などにより、引き続き効率的な運営に向けた努力が必要である。

- ・館内で業務の見直しを行い、レファレンスカウンターの運用方法を変更して他の業務にあてる時間を増やすなど、すでに平成30年度改善を行っている部分もある。定期的に戦略・戦術を見直す機会を設けることで、当評価制度を活用した運営を進めていきたい。

②外部評価結果（概要）

- ・企画展では、「のりもの」で開館以来最多の観覧者42,981人を獲得するとともに、「カモンカ」や「発掘された日本列島」、さらには「オリンピック・パラリンピック」と幅広いテーマを取り上げて開催し、目標（73,000人）を上回る79,411人の観覧者を得た。また、展覧会毎に異なる幅広い年齢層の観覧者や、目標値を上回るリピーター（50%→69.1%）を獲得し、「何度も利用していただく」という戦略目標1の達成に、おおいに貢献できた。
- ・基本展示では、観覧者数(76,515人)の対前年度比が93%（平成28年度89%）であったことは、「のりもの」の新規来館者や、基本展示のリピーターの割合が増加55.6%（同52%）したことによって支えられたと考えられ、企画展と同様に「何度も利用してもらおう」という目標は達成できたと判断できる。一方で、初めて来館した人の割合が44%（同48%）と企画展の31.9%と比べて高いことから、新たな来館者の掘り起こしが期待できる。今後、繰り返し訪れても陳腐化を感じさせない、計画的な展示更新や解説機会の充実、ハードウェアの補修にも努められたい。
- ・当館の特徴の一つである「こども体験展示」について初めて評価対象とした結果、目標を上回る利用実態（入館者の約1/3が利用）が明らかとなった。
- ・広報活動に関しては、マスコミ向けの情報提供や裏方情報を伝える動画を使ったSNSでの発信（Facebook情報の充実）などに積極的に取り組み、一般への知名度も目標を上回った（75%→77%）ことは評価できる。引き続き、マスコミ等への情報提供機会の充実や、ICTを活用した情報発信に期待する。
- ・県民や利用者の参画については、コーポレーションデー（平成28年度6日→9日）や出前講座（同2件→7件）はますます充実するとともに、活動資金の確保（5,630千円）でも、毎年、すぐれた実績を残している。一方、ミュージアムパートナーについてはグループや登録者の数が微減しており、新たな登録者の獲得に向けた努力が求められる。
- ・収蔵資料や地域の文化財等の保存・保全にあたっては、専門職員が配置され、引き続き良好な状態の確保と積極的な支援ができています。平成30年度からはレファレンスカウンターへの職員の常駐が見直されることから、これまでの相談機能が低下することの無いよう、適切な対応を期待する。
- ・総合博物館の強みを活かした研究については、他の業務が優先され、学芸ゼミの開催が不定期で、しかも発表件数が目標に大きく届かない（12件→4件）など、後回しになっている。こうした中であって、移動展示と関連付けた参加型調査で、地域や参加者層に偏りはあるものの、目標以上の参加者（60→89人）を得たことは評価できる。調査・研究業務については、展示更新と同様、計画的実施やスケジュール管理が求められる。

【まとめ】

昨年度（平成28年度）の本外部評価結果（概要）では、開館以降の3年間の評価結果の推移を通して、年を追うごとに改善が進み、特に平成28年度で顕著であった反面、3年続けて低い評価にとどまっている戦術があることを振り返った。そして、改善が進まない原因が、特定の業務に経営資源が集中したことや、業務の進捗管理が不十分な点にあることが判明した。

これを受けて平成29年度は、組織改編を行い、業務分担の明確化に努めるとともに、前年度同様に展覧会を計10本（企画展・交流展・トピック展）に抑え、チーム制を採り入れることで改善をめざした。しかし、展覧会に伴うイベントの開催や関係機関との連携に時間を奪われ、調査研究やその成果の公表などが十分に行えない状況や、業務の進捗管理の徹底ができなかったなど、依然、改善されたとは言えない状況にある。

こうした状況から、平成30年度はさらに業務の見直しを行い、経営資源の適正な配分による偏りのな

い博物館活動をめざすことを、平成29年度中に決定した。その効果が発現するよう努められたい。

今後、本評価制度が有効に機能するための前提条件として、適正な目標設定が不可欠である。過去の自館のデータのみにとらわれず、関連する他館のデータも参考に、被評価者や利用者を含めた関係者が納得できる目標の設定を求めたい。また、個々の戦術に対してアウトプット（結果）とアウトカム（成果）の両方を評定することの必要性や、戦術14・15のアウトカム指標は再考を要する。

最後に、改善に向けては、個々の館員が目標や到達点を共有すること、その実現に向けて各自が自己の役割を認識して遂行すること、さらに周囲の状況を掴み必要に応じて協働することが欠かせない。こうした取り組みを確実に進めることで利用者サービスの向上が図られ県民の期待に応える博物館となるため、本評価制度を有効活用し、現場と設置者が一体となって不断の努力をされることを期待する。

表1 評定点の推移（平成29年度～31年度）

戦略	2017年度	2018年度	2019年度	差	戦術	2017年度	2018年度	2019年度	差
戦略1	4				戦術1	4			
					戦術2	2			
					戦術3	4			
戦略2	4				戦術4	4			
					戦術5	4			
					戦術6	4			
戦略3	4				戦術7	3			
					戦術8	4			
					戦術9	4			
戦略4	4				戦術10	4			
					戦術11	4			
戦略5	3				戦術12	1			
					戦術13	4			
					戦術14	4			
戦略6	4				戦術15	4			
					戦術16	2			
戦略7	3				戦術17	2			
合計	26	0	0			58	0	0	
百分比	93%					85%			

9.3 みんなでつくる博物館会議

開館前から継続してきた「みんなでつくる博物館会議」及び「こども会議」については、開館前から開館直後の第1期（平成26年度～平成28年度）までで、県民参画の取組として一定の役割を果たしたため、事業の整理により平成29年度より廃止とした。

9.4 アンケート結果概要

1) 目的

博物館利用者の意見と要望、ニーズ、満足度、与えた影響を把握しながら、今後の施設利用や接遇、展示活動、交流創造活動、広報のあり方などを検討・改善し、利用しやすく地域の役に立つ博物館づくりを進めるために来館者アンケートを実施している。さらに、ビジョンや戦略目標、戦術における毎年の達成度を評価するためのデータ収集も目的としている。

2) 実施方法

展示観覧者に対してのアンケートは、基本展示室、企画展示室、交流展示室の各展示室出口付近に机と椅子を置き、アンケート記入コーナーを設置した。机の上には、大人用と子ども用のアンケート用紙

と鉛筆及びアンケート回収箱を置き、展示観覧者が自由にアンケートに記入していただけるようにした。開館中毎日実施した。

入館者に対してのアンケートは、学習交流スペースに机と椅子を置き、ご意見記入コーナーを設置した。机の上には、大人用と子ども用のご意見記入用紙と鉛筆及びご意見回収箱を置き、来館者が自由にご意見を記入していただけるようにした。開館中毎日実施した。

交流創造活動参加者に関してのアンケートは、事業実施前に配布資料とともにアンケートを配布し、事業終了時に記入いただくことで収集した。

3) 項目

アンケートは、基本展示用、各企画展示用、ご意見記入用、交流創造活動の4種類あり、それぞれ大人用と子ども用を用意した。

展示については、①興味を引く資料の有無とその内容、②改善点の有無とその内容、③展示から新たな考えを得たかとその内容、④展示の満足度、⑤展示を知った媒体、を聞いた。さらに、MieMuについても、①MieMuの来館回数、②MieMuを一言で表すと、③ご意見・ご要望、を聞いた。アンケート記入者の属性については、①性、②年齢、③居住地、④今日を除いてミュージアムを訪れた回数、を聞いた(図1)。

ご意見記入用については、まずご意見・ご要望を聞き、アンケート記入者の属性及び、MieMuを知った媒体、MieMuの満足度を聞いた。

1) 基本展示アンケート

アンケートにご協力ください。アンケートのデータは、博物館運営に関する改善活動や研究以外の目的では使用いたしません。

A ご覧になった展示についてお尋ねします。

(1) ご覧になった展示に関して、次の質問について具体的にご意見などがありましたら、ご記入ください。
また裏面の平面図にもお書きください。

・ 興味をひく資料、印象に残った展示コーナーがありましたか。

①いいえ ②はい (内容:)

・ 改善すべき展示内容や展示方法がありましたか。

①いいえ ②はい (内容:)

・ 展示を観て、何か新たな考えや刺激を得ることができましたか。

①いいえ ②はい (内容:)

(2) ご覧になった展示に満足しましたか。 **○を1つ**おつけください。

①いいえ ②どちらかというくらい ③どちらかというと「はい」 ④はい

(3) この展示をなによりお知りになりましたか。 **該当するものすべてに○**をおつけください。

①ポスター、②チラシ、③新聞、④テレビ、⑤雑誌、⑥「県政だより」、
⑦館の公式ホームページ、⑧そのほかのホームページ・ブログ、
⑨館のTwitterやFacebook、⑩そのほかのTwitterやFacebook、
⑪直接、人から聞いて、⑫その他 ()

B 三重県総合博物館 MieMu についてお尋ねします。

(1) 三重県総合博物館 MieMu の展示を観るのは、今回が何回目ですか。 **○を1つ**おつけください。

①はじめて、②2回目、③3回目、④4回目以上

(2) MieMu をひとことでは、どんな言葉がふさわしいですか。

三重県総合博物館 MieMu は、_____です。

(3) MieMu についてご意見・ご要望などがありましたら、ご自由に記入してください。

C あなたご自身 (回答者ご本人) のことをお尋ねします。もしよろしければ、ご回答ください。

() 内の該当する項目に **○を1つ** おつけください。また、_____にはご記入ください。

(1) 性別 () (2) 年齢 _____歳

(3) 居住地 (①津市内: _____市 ②三重県内: _____市 ③三重県外: _____都道府県)

(4) 今日を除いて過去1年間で何回、「ミュージアム」を訪れましたか。

(④0回、①1回、②2回、③3回、④4回以上)

*「ミュージアム」とは、MieMuなどの博物館のほか、美術館、科学館、動物園、水族館、資料館などを指します。

裏面もご協力ください。

アンケート用紙表

基本展示室で印象に残った展示と改善すべき展示の場所と内容を入力してください。

※場所はおよそでも構いませんし、内容だけの記入でも構いません。

ご協力ありがとうございました。

アンケート用紙表

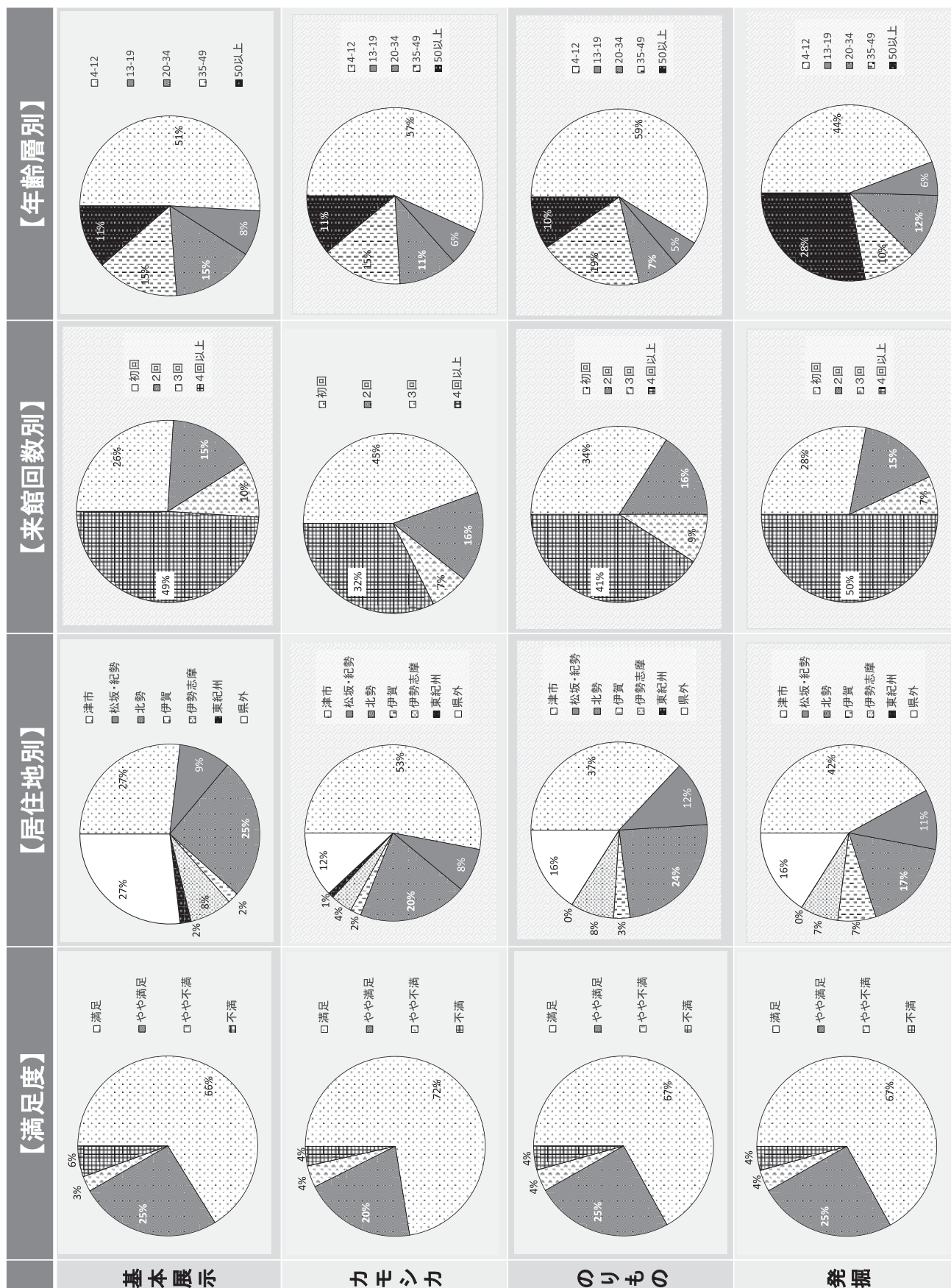
4) 傾向

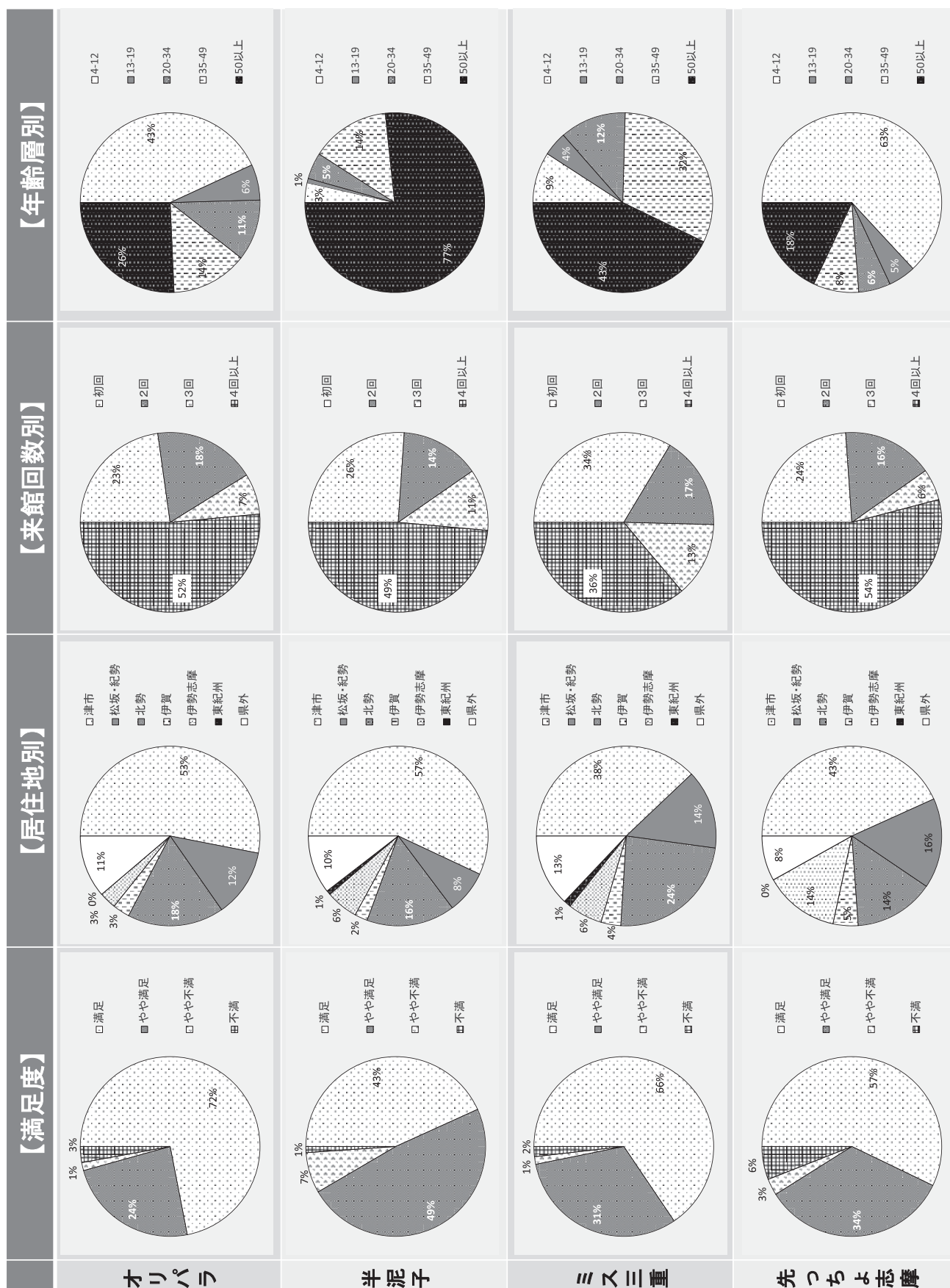
別表を参照

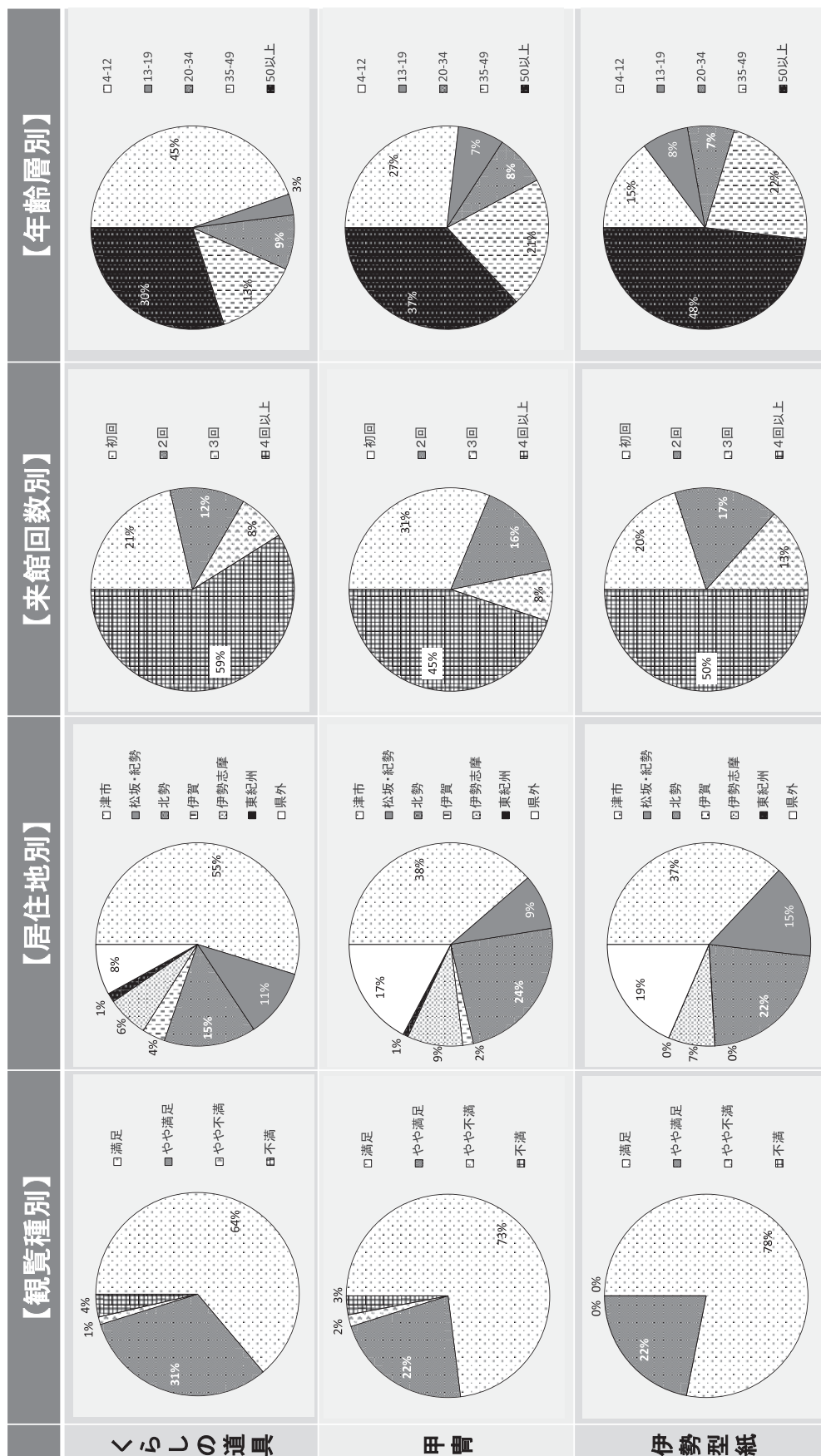
●展示アンケート

平成29年度の展示アンケート回答枚数は、基本展示465枚、企画展示5,252枚であった。なお、企画展示は企画展の他、交流展、トピック展を合わせた数である。展示観覧者に対する回答率は、2.8%であった。

— 69 —







Ⅲ 資料

1 条例・規則

1.1 三重県総合博物館条例

三重県総合博物館条例

公布 平成二十五年六月二十八日

施行 平成二十六年四月 十九日

(設置)

第一条 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産を保全し、継承し、及び次代へ生かすとともに、地域社会を支える人づくり及び個性豊かで活力ある地域づくりに貢献するため、博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第十八条の規定に基づき、三重県総合博物館（以下「博物館」という。）を津市に設置する。

(事業)

第二条 博物館においては、次の事業を行う。

- 一 博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び一般の利用に供すること。
- 二 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産についての調査研究を行うこと。
- 三 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産についての講演会、観察会、見学会等を行うこと。
- 四 公文書館法（昭和六十二年法律第百十五号）の趣旨にのっとり、県が保有していた歴史資料として重要な公文書その他の記録を博物館資料として保存し、展示し、及び一般の利用に供するとともに、これに関連する調査研究を行うこと。
- 五 前各号に掲げるもののほか、三重県教育委員会（以下「教育委員会」という。）が必要と認める事業を行うこと。

(休館日)

第三条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更し、又は別に休館日を定めることができる。

- 一 月曜日（この日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に定める休日（以下この号において「休日」という。）に当たるときは、その翌日以後の最初の休日でない日）
- 二 十二月二十九日から翌年の一月三日までの日

(開館時間等)

第四条 博物館の開館時間（第三項において「開館時間」という。）は、午前九時から午後七時までとする。ただし、入館できる時間（第三項において「入館時間」という。）は、午後六時三十分までとする。

2 博物館の施設及び設備（以下「施設等」という。）を利用することができる時間（次項において「利用時間」という。）は、別表第一のとおりとする。

3 教育委員会は、必要があると認めるときは、開館時間、入館時間及び利用時間を変更することができる。

(指示)

第五条 館長は、博物館資料又は施設等の保全、館内の秩序維持その他博物館の管理上必要があると認めるときは、展示された博物館資料の観覧者（第七条の手續をした者をいう。以下「観覧者」という。）、博物館資料の利用者（第八条の許可を受けた者をいう。第十一条及び第十三条において同じ。）、施設等の利用者（第九条の許可を受けた者をいう。第十一条及び第十三条において同じ。）その他の関係者に対し必要

な指示をすることができる。

(入館の制限)

第六条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、その入館を拒否し、又は退館を命じることができる。

- 一 めいてい者等他人に危害又は迷惑を及ぼすおそれのある者
- 二 博物館資料又は施設等を損傷するおそれのある者
- 三 前二号に掲げる者のほか、この条例若しくはこれに基づく教育委員会規則に違反し、又は第五条の指示に従わなかった者

(観覧の手続)

第七条 博物館に入館し、展示された博物館資料を観覧しようとする者は、教育委員会規則の定めるところにより、観覧の手続をしなければならない。

(博物館資料の閲覧等の許可)

第八条 博物館資料の閲覧、撮影等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

(施設等の利用の許可)

第九条 施設等を利用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

(許可の条件等)

第十条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、前二条の許可を与えないものとする。

- 一 公益を害し、又は善良な風俗を乱すおそれがあるとき。
 - 二 博物館資料又は施設等を損傷するおそれがあるとき。
 - 三 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成三年法律第七十七号）第二条第二号に規定する暴力団をいう。次条第三号において同じ。）の利益になると認められるとき。
 - 四 博物館の事業の実施に支障を来すおそれがあるとき。
- 2 教育委員会は、博物館資料に個人に関する情報その他の教育委員会規則で定める情報が記録されている場合には、第八条の許可を与えないことができる。
- 3 教育委員会は、前二条の許可に博物館の管理上必要な条件を付けることができる。

(許可の取消し)

第十一条 教育委員会は、博物館資料の利用者又は施設等の利用者が次の各号のいずれかに該当するときは、第八条若しくは第九条の許可を取り消し、又は博物館資料の閲覧、撮影等若しくは施設等の利用を中止させることができる。

- 一 偽りその他不正の行為により許可を受けたとき。
- 二 許可を受けた目的に反して博物館資料の閲覧、撮影等を行い、又は施設等を利用したとき。
- 三 暴力団の利益になると認められるとき。
- 四 前条第三項の規定により付けられた条件に違反したとき。
- 五 前各号に掲げるもののほか、この条例若しくはこれに基づく教育委員会規則に違反し、又は第五条の指示に従わなかったとき。

(観覧料)

第十二条 博物館に入館し、展示された博物館資料を観覧しようとする者は、別表第二に定める額の観覧料を納付しなければならない。

- 2 前項の観覧料は、前納しなければならない。ただし、知事が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(使用料)

第十三条 博物館資料の利用者又は施設等の利用者は、別表第三に定める額の使用料を納付しなければならない。

ない。

- 2 前項の使用料は、第八条又は第九条の許可の際に納付しなければならない。ただし、知事が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(博物館協議会)

第十四条 博物館法第二十条第一項の規定に基づき、博物館に三重県総合博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第十五条 協議会は、委員十五人以内で組織する。

- 2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 前三号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

- 3 委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 4 委員は、再任されることができる。

- 5 第一項の場合において、男女のいずれか一方の委員の数は、委員の総数の十分の四未満としないものとする。ただし、教育委員会がやむを得ない事情があると認めた場合は、この限りでない。

(会長及び副会長)

第十六条 協議会に、会長及び副会長各一人を置き、委員の互選により定める。

- 2 会長は、協議会の会務を総理し、協議会を代表する。

- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。

(会議)

第十七条 協議会の会議(以下この条において「会議」という。)は、会長が招集し、議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(罰則)

第十八条 次の各号のいずれかに該当する者は、五万円以下の過料に処する。

- 一 第五条の指示に従わなかった者
- 二 第六条の規定による入館の拒否又は退館の命令に従わなかった者
- 三 第七条の手続をしないで入館し、展示された博物館資料を観覧した者
- 四 第八条の許可を受けずに博物館資料の閲覧、撮影等を行った者
- 五 第九条の許可を受けずに施設等を利用した者
- 六 第十一条の規定による許可の取消し又は中止処分に従わなかった者

(他の条例との関係)

第十九条 この条例に定めるもののほか、三重県公債権の徴収に関する条例(昭和三十九年三重県条例第十三号)に定める事項については、その定めるところによる。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

(委任)

第二十条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、規則又は教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

- この条例は、平成二十六年五月十八日までの間において規則で定める日から施行する。(平成二十六年二月三重県規則第三号で、同二十六年四月十九日から施行) ただし、附則第三項の規定は公布の日から、附則第四項の規定は同年四月一日から施行する。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

(三重県立博物館条例の廃止)

- 三重県立博物館条例(昭和三十九年三重県条例第四十九号)は、廃止する。

(準備行為)

- この条例の施行に関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても行うことができる。

(観覧料の納付の特例)

- 平成二十六年四月一日から附則第一項本文に規定する規則で定める日の前日までの間において、知事は、別表第二に規定する観覧料であつて企画展示及び特別企画展示に係るものに限り、第十二条の規定の例により納付させることができる。

追加〔平成二六年条例五七号〕

附 則(平成二十六年三月二十七日三重県条例第五十七号)

この条例は、三重県総合博物館条例の施行の日から施行する。ただし、附則第一項の改正規定及び附則に一項を加える改正規定は、公布の日から施行する。

別表第一(第四条関係)

区分	利用時間
基本展示室 企画展示室 交流展示室	午前九時から午後五時まで
交流活動室 こども体験展示室 実習室 資料閲覧室 三重の実物図鑑 レクチャールーム レファレンスカウンター	午前九時から午後七時まで

別表第二(第十二条関係)

区分	観覧料			
	基本展示		企画展示及び特別企画展示	年間パスポート券による観覧
	個人	団体		
小学生、中学生、高校生及びこれらに準ずる者	—	—	展示等を行うのに要する費用を勘案してその都度知事が定める額	—
大学生及びこれに準ずる者	三〇〇円	二四〇円		一、〇二〇円
一般	五一〇円	四〇〇円		一、六四〇円

備考

- 基本展示の団体の欄に掲げる額は、観覧者が二十人以上の団体を構成している場合の当該構成員(団体の引率者を含む。)一人当たりの観覧料をいう。
- 特別企画展示とは、教育委員会が定める特別な企画による展示をいう。
- 年間パスポート券とは、交付を受けた日から起算して一年を経過する日までの間において、基本展示及び企画展示を観覧することができる券をいう。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

別表第三(第十三条関係)

区分	使用料
博物館資料	一回につき、一点五、一四〇円以下の範囲内において知事が定める額
交流展示室	一時間につき一、九四〇円
レクチャールーム	一時間につき一、七二〇円

備考 使用時間に一時間未満の端数があるときは、その端数は一時間とする。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

1.2 三重県総合博物館条例施行規則

三重県教育委員会規則第二号
三重県総合博物館条例施行規則

公布：平成二十六年三月十七日

施行：平成二十六年四月十九日

(趣旨)

第一条 この規則は、三重県総合博物館条例（平成二十五年三重県条例第六十四号。以下「条例」という。）の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

(用語)

第二条 この規則における用語の意義は、条例で使用する用語の例による。

(入館者の遵守事項)

第三条 博物館へ入館した者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- 一 触ることのできる表示のある博物館資料を除き、博物館資料に触れないこと。
- 二 展示室、資料閲覧室で鉛筆以外のものを使用しないこと。
- 三 撮影できない表示のある博物館資料の撮影をしないこと。
- 四 所定の場所以外で喫煙又は飲食をしないこと。
- 五 その他、係員の指示に従うこと。

(博物館資料の閲覧等の許可の申請)

第四条 条例第八条の規定により博物館資料の閲覧の許可を得ようとする者は、閲覧の形態に応じて、閲覧利用申請書（第一号様式その一からその三まで）をそれぞれ館長に提出しなければならない。

2 条例第八条の規定により、博物館資料の撮影等の特別利用の許可を得ようとする者は、特別利用申請書（第二号様式）を館長に提出しなければならない。

3 館長は、前項を許可したときは、博物館資料特別利用許可書（第三号様式）を交付するものとする。

4 博物館資料の利用者は、善良なる管理者の注意をもって利用しなければならない。

(施設等利用の許可の申請)

第五条 条例第九条の規定により施設等の利用の許可を得ようとする者は、施設等利用許可申請書（第四号様式）を館長に提出しなければならない。

2 館長は、前項を許可したときは、施設等利用許可書（第五号様式）を交付するものとする。

3 施設等の利用期間は、三十日以内とする。ただし、館長が特に必要と認めるときは、これを延長することができる。

(施設等の変更の禁止)

第六条 施設等の利用者は、博物館の施設等に変更を加え、又は特別の施設等を設けてはならない。ただし、館長の承認を受けたときは、この限りでない。

(利用の廃止又は中止)

第七条 施設等の利用者は、博物館の施設等の利用を廃止又は中止しようとするときは、施設等利用廃止（中止）届（第六号様式）をあらかじめ館長に提出しなければならない。

(利用者の遵守事項)

第八条 施設等の利用者は、次の各号に掲げる事項を守るとともに、善良なる管理者の注意をもって施設等を利用しなければならない。

- 一 営利行為を行わないこと。ただし、図録等の販売で館長の承認を受けたものは除く。
- 二 施設等の適正な管理及び火災防止に努めること。
- 三 その他、係員の指示に従うこと。

(資料の貸出)

第九条 博物館は、博物館資料を貸し出すことができない。ただし、当該博物館資料が学術上の調査研究又は教育の普及のために使用され、かつ、取扱上の安全性が確保されると認められるときは、博物館の運営に支障をきたさない範囲において、次の各号に掲げるものに対して貸し出すことができる。

- 一 博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第二条第一項の規定による博物館及び同法第二十九条の規定による博物館に相当する施設
 - 二 三重県内の官公署
 - 三 学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）第一条に規定する学校
 - 四 その他館長が適当と認めるもの
- 2 前項ただし書の規定により、博物館資料の貸出しを受けようとする者は、資料貸出許可申請書（第七号様式）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、当該博物館資料が博物館に寄託された資料（以下「寄託資料」という。）であるときは、当該寄託をした者（以下「寄託者」という。）の承諾書を添付しなければならない。
- 3 館長は、前項の許可をしたときは、資料貸出許可書（第八号様式）を交付するものとする。
- 4 第二項の許可を受けた者（以下「借受人」という。）は、当該貸出しに伴う一切の費用を負担しなければならない。
- 5 博物館資料の貸出期間は、三十日以内とする。ただし、館長が特に必要と認めるときは、この限りでない。
- 6 借受人は、善良なる管理者の注意をもって博物館資料を利用しなければならない。

(弁償の義務)

第十条 入館者、施設等の利用者及び借受人が故意又は過失により、博物館資料若しくは施設等を汚損し、破損し、又は亡失したときは、その修理又は補充に要する費用を負担しなければならない。

(資料の寄贈及び寄託)

第十一条 博物館に資料を寄贈及び寄託しようとする者は、資料寄贈（寄託）申請書（第九号様式）を館長に提出し、その承諾を受けなければならない。

- 2 館長は、前項の承諾をしたときは、資料受領書（第十号様式）を交付するものとする。
- 3 寄託資料は、博物館所蔵の資料と同様の取扱いをするものとする。
- 4 博物館は、寄託資料が火災等やむを得ない事由により汚損し、破損し、又は亡失した場合には、その責めを負わない。
- 5 博物館が、寄託者の申出により、寄託資料の返還を行うときは、資料受領書と引き換えに行うものとする。

(歴史資料として重要な公文書の受入れ)

第十二条 博物館は、条例第二条第四号に掲げる県が保有していた歴史資料として重要な公文書等を受け入れるものとする。

(委任)

第十三条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成二十六年四月十九日から施行する。
(三重県立博物館条例施行規則の廃止)
- 2 三重県立博物館条例施行規則（昭和四十五年三重県教育委員会規則第十九号）は、廃止する。
(三重県教育委員会教育長事務専決規則の一部改正)
- 3 三重県教育委員会教育長事務専決規則（昭和三十一年三重県教育委員会規則十五号）の一部を次のよう

に改正する。

別表中「博物館」を「総合博物館」に改める。

(三重県教育委員会事務局組織規則の一部改正)

- 4 三重県教育委員会事務局組織規則（昭和四十三年三重県教育委員会規則六号）の一部を次のように改正する。

第十六条第一項第十二号中「博物館」を「総合博物館」に改める。

(知事の補助職員等に対する教育委員会の権限の一部委任等に関する規則の一部改正)

- 5 知事の補助職員等に対する教育委員会の権限の一部委任等に関する規則（平成二十年三重県教育委員会規則第二号）の一部を次のように改正する。

第二条第二項中「三重県立博物館」を「三重県総合博物館」に改め、「三重県立博物館条例（昭和三十九年三重県条例第四十九号）及び三重県立博物館条例施行規則（昭和四十五年三重県教育委員会規則第十九号）の改正及び廃止に関する事務」を「次に掲げる事務」に改め、「三重県立博物館条例第五条及び第七条」を「三重県総合博物館条例（平成二十五年三重県条例第六十四号）第五条及び第六条並びに三重県総合博物館条例施行規則（平成二十六年三重県教育委員会規則第二号）第四条から第九条及び第十一条」に改め、同項の次に次の各号を加える。

- 一 三重県総合博物館条例及び三重県総合博物館条例施行規則の改正及び廃止に関すること。
- 二 博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第二十一条及び三重県総合博物館条例第十五条第二項の規定に基づく博物館協議会委員の任免及び委嘱又は解嘱に関すること。

施行規則各種申請様式

第1号様式その1

三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(当日 閲覧用)

申請者記入欄

申請日	平成 年 月 日		
申請者	利用証番号	氏 名	
	住 所		
	電 話	電話(携帯)	
	E-mail		
閲覧希望日 (予約を要しない方はご記入ください)	第一希望日	平成 年 月 日	
	第二希望日	平成 年 月 日	
	第三希望日	平成 年 月 日	
	その他		
撮影の有無	有 / 無	※下記をご覧ください。	

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※三脚・フラッシュ等の機材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	平成 年 月 日		
閲覧日	平成 年 月 日		
担 当			
備 考			

第1号様式その2

三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(予約 閲覧用)

申請者記入欄

申請日	平成 年 月 日		
申請者	利用証番号	氏 名	
	住 所		
	電 話	電話(携帯)	
	E-mail		
閲覧希望日	第一希望日	平成 年 月 日	
	第二希望日	平成 年 月 日	
	第三希望日	平成 年 月 日	
	その他		
撮影の有無	有 / 無	※下記をご覧ください。	

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※三脚・フラッシュ等の機材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	平成 年 月 日		
閲覧日	平成 年 月 日		
担 当			
備 考			

第1号様式その3

三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(県が保有していた歴史資料として重要な公文書等 閲覧用)

申請者記入欄

申請日	平成 年 月 日		
申請者	利用証番号	氏 名	
	住 所		
	電 話	電話(携帯)	
	E-mail		
撮影の有無	有 / 無	※下記(3)をご覧ください。	

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

(1) 文書に含まれる個人情報等、公開できない情報についての内容審査のため、閲覧までには選閲を求めた期間を要します。
(2) 内容審査が終わる次第、博物館から閲覧日程について連絡いたします。
(3) 三脚・フラッシュ等の機材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	平成 年 月 日		
閲覧日	平成 年 月 日		
担 当			
備 考			

(第2号様式)

平成 年 月 日

三重県総合博物館特別利用申請書

三重県総合博物館長 宛て

申請者 住 所
団体名
代表者氏名
電 話
印

三重県総合博物館条例施行規則第4条の規定に基づき、下記の利用を申請いたします。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 教育活動のための利用 (3) 出版物等への掲載のための利用 (4) テレビ放送等への利用 (5) その他 ()			
内 容	(1) 閲覧 (実物・拓本等) (2) 画像データの利用 (3) 複製・複写 (模写) (4) 撮影 (5) 転載 (転載元:) (6) その他 ()			
利用期間 (発行予定日、放映予定日・時間)	【利用期間・発行予定日・放送予定日】 平成 年 月 日 () : ～ 平成 年 月 日 () :			
利用場所 (出版物・放映等では掲載順・番組表など)				
利用資料	資料番号	資料名	数量	備考
担 当 者	電 話			
備 考				

● 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守します。
(1) 善良なる管理者の注意をもって利用します。
(2) 施設、備品等の汚損、破損及び亡失防止に注意します。
(3) 利用後においては、現状に復し、博物館職員の見検を受けます。
(4) 利用時間を遵守します。
(5) 他の利用者の迷惑とならないように配慮します。
(6) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しません。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去します。
(7) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従います。
● 故意または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または亡失したときは、その修理または補充に要する費用を負担いたします。
● 画像等の利用により実施した出版物、印刷物等については2部寄贈いたします。

(第3号様式)

第 号
平成 年 月 日

三重県総合博物館資料特別利用許可書

(申請者) 様
三重県総合博物館長

年 月 日付で申請のあった資料の利用は、下記のとおり許可します。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 教育活動のための利用 (3) 出版物等への掲載のための利用 (4) テレビ放送等への利用 (5) その他 ()
内 容	(1) 複製 (実物・拓本等) (2) 画像データの利用 (3) 複製・複写 (複写) (4) 撮影 (5) 転載 (転載元:) (6) その他 ()
利用期間 (発行予定日、放映予定日・時間)	【利用期間・発行予定日・放送予定日】 平成 年 月 日 () : ～ 平成 年 月 日 () :
利用場所 (出版物・放映等では 掲載部・番組名など)	
利用資料	資料番号 資料名 数量 備考
担 当 者	電話
備 考	

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守すること。
 - (1) 善良なる管理者の注意をもって利用すること。
 - (2) 施設、備品等の汚損、破損及び亡失防止に注意すること。
 - (3) 利用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けること。
 - (4) 利用時間を遵守すること。
 - (5) 他の利用者の迷惑とならないように配慮すること。
 - (6) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しないこと。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去すること。
 - (7) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従うこと。
- 故意または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または亡失したときは、その修理または補正に要する費用を負担すること。
- 資料等の利用により実施した出版物、印刷物等については2部添付すること。

(第4号様式)

平成 年 月 日

三重県総合博物館施設等利用許可申請書

三重県総合博物館長 宛て
申請者 住 所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第5条の規定に基づき、下記の利用を申請いたします。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	平成 年 月 日 時から平成 年 月 日 時まで			
利用の概略	利用の目的			
	会場責任者氏名			
	観覧料等の徴収	有 / 無	円	
	図録等の販売	有 / 無	円	
	設備等の設置	有 / 無		
備 考	利用者数			

(1) 観覧会等で施設を使用するときは、展示資料の一覧を添付すること。
(2) 設備等を設置するときは、概要を確認できる図面を添付すること。

(第5号様式)

第 号
平成 年 月 日

三重県総合博物館施設等利用許可書

(申請者) 様
三重県総合博物館長

年 月 日付で申請のあった施設等の利用は、下記のとおり許可します。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	平成 年 月 日 時から平成 年 月 日 時まで			
利用の概略	利用の目的			
	会場責任者氏名			
	観覧料等の徴収	有 / 無	円	
	図録等の販売	有 / 無	円	
	設備等の設置	有 / 無		
備 考	利用者数			
利 用 料	円			

(第6号様式)

平成 年 月 日

三重県総合博物館施設等利用廃止（中止）届

三重県総合博物館長 宛て
住 所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第7条の規定に基づき、下記の事由により博物館の施設等の利用を廃止（中止）したいので届け出ます。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	平成 年 月 日 時から平成 年 月 日 時まで			
廃止（中止）事由及び期日	(事由) 中止・廃止			
備 考				

(第7号様式)

平成 年 月 日

三重県総合博物館資料貸出許可申請書

三重県総合博物館長 宛て

申請者 住 所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第9条の規定に基づき、下記について申請いたします。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 展示活動のための利用 (3) その他 ()																				
内 容	(1) 熟覧 (実測・拓本等) (2) 展示 (3) 複製・複写 (複写) (4) 撮影 (5) その他 ()																				
貸出期間 (展示の場合は、展示期間)	【貸出期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () : 【展示期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () :																				
利用場所 (保管・展示場所)																					
貸出資料	<table border="1"><thead><tr><th>資料番号</th><th>資料名</th><th>数量</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	資料番号	資料名	数量	備考																
資料番号	資料名	数量	備考																		
取扱責任者	電話																				
輸送方法																					
備 考																					

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守すること。
 - (1) 資料等について善良なる管理者の注意をもって利用します。
 - (2) 施設、物品等の汚損、破損及び亡失防止に注意します。
 - (3) 使用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けます。
 - (4) 貸出期間を遵守します。
 - (5) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しません。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去します。
 - (6) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従います。
- 故意または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または亡失したときは、その修理または補充に要する費用を負担いたします。
- 資料等の利用により作成した図録・報告書等の出版物、印刷物等については2部寄贈いたします。
- 展覧会等で利用する場合、展覧会開催要項、展示会場、保管場所、警備体制、消防計画、職員体制、公開承認施設資格の有無等の資料を添付いたします。

(第8号様式)

第 号
平成 年 月 日

三重県総合博物館資料貸出許可書

(申請者) 様

三重県総合博物館長

年 月 日付で申請のあった博物館資料の貸出は、下記の条件の下に許可します。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 展示活動のための利用 (3) その他 ()																				
内 容	(1) 熟覧 (実測・拓本等) (2) 展示 (3) 複製・複写 (複写) (4) 撮影 (5) その他 ()																				
貸出期間 (展示の場合は、展示期間)	【貸出期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () : 【展示期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () :																				
利用場所 (保管・展示場所)																					
貸出資料	<table border="1"><thead><tr><th>資料番号</th><th>資料名</th><th>数量</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	資料番号	資料名	数量	備考																
資料番号	資料名	数量	備考																		
取扱責任者	電話																				
輸送方法																					
備 考																					

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守すること。
 - (1) 貸出を受けた者 (以下「借受人」という。)は、貸出を受けた資料 (以下「貸出資料」という。)を善良なる管理者の注意をもって管理すること。
 - (2) 貸出に伴う一切の費用は、借受人が負担すること。
 - (3) 借受人は貸出資料を故意又は過失により、汚損し、破損し、又は亡失したときは、その修理又は補充に要する費用を負担すること。
 - (4) 借受人は、貸出資料を本書記載事項以外の目的、内容に使用しないこと。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去すること。
 - (5) 使用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けます。
 - (6) 貸出期間を遵守すること。
 - (7) その他、利用に際しては当博物館職員の指示に従うこと。
 - (8) 資料等の利用により作成した図録・報告書等の出版物、印刷物等については2部寄贈すること。

(第9号様式)

平成 年 月 日

三重県総合博物館資料寄贈 (寄託) 申請書

三重県総合博物館長 宛て

申請者 住 所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第11条の規定に基づき、下記のとおり、資料を寄贈 (寄託) したいので申請します。

資 料 名	数量	形状・寸法等
備 考		
寄託の場合、寄託期間		
平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで		

(第10号様式)

第 号
平成 年 月 日

三重県総合博物館資料受領書

様

三重県総合博物館長

平成 年 月 日付で申請のあった資料の寄贈 (寄託) は、下記のとおり、受領しました。

資 料 名	数量	形状・寸法等
備 考		
寄託の場合、寄託期間		
平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで		

1.3 三重県総合博物館協議会評価部会運営要領

三重県総合博物館協議会評価部会運営要領

(目的)

第1条 三重県総合博物館協議会（以下「協議会」という。）の部会として設置した三重県総合博物館協議会評価部会（以下「部会」という。）は、三重県総合博物館（以下「博物館」という。）の活動と運営に対して評価を実施することを目的とする。

(所管事項)

第2条 部会は、博物館の前年度の活動と運営の成果に対して、調査審議のうえ評価し、その結果を協議会に報告する。

(組織)

第3条 部会は、協議会委員3名程度で構成する。

- 2 部会委員のうち、協議会委員については互選で選出する。
- 3 部会委員の任期は、協議会委員の任期と同じとする。
- 4 部会に部会長及び副部会長を置き、部会委員の互選によってこれを定める。
- 5 部会長は、部会の会務を総理する。
- 6 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故あるときはその職務を代理し、部会長が欠けたときはその職務を行う。

(会議)

第4条 会議は、部会長が招集し、議長となる。

- 2 部会長は、必要があると認めるときは、会議に部会委員以外の者の出席を求め、その意見を聴取することができる。
- 3 会議は、非公開とする。

(庶務)

第5条 部会の庶務は、博物館において処理する。

(その他)

第6条 これに定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が定める。

附 則

この要領は、平成28年7月20日から運用する。

1.4 観覧料免除要綱

三重県立美術館、斎宮歴史博物館及び三重県総合博物館観覧料減免要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、三重県公債権の徴収に関する条例（昭和39年三重県条例第13号）第3条の規定に基づき三重県立美術館、斎宮歴史博物館及び三重県総合博物館（以下「博物館等」という。）の観覧料の減免について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要綱において「観覧料」とは、次に掲げるものをいう。

- (1) 三重県立美術館条例（昭和57年三重県条例第1号。次条第1項第1号において「美術館条例」という。）第12条に規定する観覧料
- (2) 斎宮歴史博物館条例（平成元年三重県条例第6号。次条第1項第1号において「斎宮条例」という。）第11条に規定する観覧料
- (3) 三重県総合博物館条例（平成25年三重県条例第64号。以下「博物館条例」という。）第12条に規定する観覧料

(減免の対象)

第3条 観覧料の免除を受けることのできる者は、次に掲げる者とする。

- (1) 教育課程に基づく教育活動として、教職員に引率されて、美術館条例別表第1に掲げる企画展、斎宮条例別表第1に掲げる特別展、企画展その他特別な催物並びに博物館条例別表第2に掲げる企画展示及び特別企画展示を観覧する県内の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の児童及び生徒
 - (2) 教育課程に基づく教育活動として観覧する県内の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の児童及び生徒を引率する者
 - (3) 県内に設置されている児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設の在籍者で当該施設の職員に引率されて観覧する児童及び当該児童の引率者
 - (4) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者
 - (5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者
 - (6) 知的障がい者と判定された者に対して公的機関が発行する療育手帳又は療育手帳に代わる証明書の交付を受けている者
 - (7) 前各号に該当する者のうち介護を要する者の介護を行う者。ただし、原則として対象者1人につき1人に限る。
- 2 前項に定めるもののほか、知事は、特に必要と認めるときは、観覧料を減額し、又は免除することができる。

(減免の手続)

第4条 前条第1項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、博物館等観覧料免除申請書兼承認書（様式第1号。以下「申請書」という。）に必要な事項を記載して博物館等の館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、同項第4号から第7号までに掲げる者が観覧料の免除を受けようとする場合には、同号に掲げる者であることを証する書類又は手帳の提示等をもって申請書の提出に代えることができる。

- 2 博物館等の館長は、申請書に基づく承認をしたときは、当該申請書にその旨を記して申請者に交付するものとする。

- 3 前条第2項の規定による観覧料の減免に関し必要な事項は、知事が別に定める。

(免除の手続の特例)

第5条 博物館等の館長は、前条第1項の規定による申請書の提出については、博物館等の館長が別に定めるところにより、博物館等の館長の使用に係る電子計算機（入出力装置を含む。以下この条において同じ。）と、申請をしようとするものの使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用して行わせることができる。

- 2 前項の規定により行われた提出は、同項の電子計算機に備えられたファイルへの記録がされた時に、博物館等の館長に到達したものとみなす。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成26年4月1日から施行する。ただし、三重県総合博物館に係る規定は、博物館条例の施行の日から施行する。

(三重県立博物館、三重県立美術館及び斎宮歴史博物館観覧料免除要綱の廃止)

- 2 三重県立博物館、三重県立美術館及び斎宮歴史博物館観覧料免除要綱（平成20年三重県告示第199号。次項において「旧告示」という。）は、廃止する。

(経過措置)

- 3 この告示の施行前に旧告示の相当規定による免除についてなされた手続は、この告示に規定する免除についてなされた手続とみなす。

附 則（平成29年3月17日三重県告示第160号）

この告示は、平成29年4月1日から施行する。

様式第1号（第4条関係）	
博物館等観覧料免除申請書兼承認書	
年 月 日	
三重県総合博物館長 様	
団体名	
代表者名	
住 所	
下記のとおり観覧料の免除を受けたいので申請します。	
記	
博物館等の名称	三重県総合博物館
免除申請の理由	
在 館 時 間	年 月 日() 時から 時まで
入 館 人 員	
引率代表者名	電話番号 FAX番号
備 考	
(注意)インターネットやファックスでも受け付けます。	
上記の申請に対して、承認します。	
年 月 日	
三重県総合博物館長	

2 事業成果一覧

● 入館者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数(日)	26	26	26	26	27	26	26	26	24	24	24	27	308
入館者数(人)	13,302	16,221	15,686	32,827	46,235	30,696	15,325	27,175	7,693	9,718	12,774	18,437	246,089
1 日平均(人)	511.6	623.9	603.3	1,262.6	1,712.4	1,180.6	589.4	1,045.2	320.5	404.9	532.3	682.9	799.0

● 展示観覧者数

(1) 基本展示観覧者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数(日)	26	26	26	26	27	26	26	26	24	24	24	27	308
有料観覧者	基本展示単独券利用	646	510	497	660	923	1,041	410	529	728	780	855	8,328
	セット券利用	323	1,115	504	2,215	3,152	1,023	706	171	0	0	0	9,209
	年間パスポート利用	322	366	306	851	787	354	323	284	431	402	275	4,970
	(小計)(人)	1,291	1,991	1,307	3,726	4,862	2,418	1,439	984	1,159	1,182	1,024	22,507
無料観覧者	高校生以下	1,207	1,688	1,847	4,054	6,777	3,303	956	3,362	789	1,328	704	27,088
	学校利用	558	1,327	926	85	226	929	2,876	2,119	435	439	530	10,593
	視察/招待	165	193	255	239	446	232	614	287	231	205	38	2,934
	障がい者及び付添	187	310	255	718	768	349	245	103	138	149	156	3,578
	キャンパスメンバーズ	135	132	194	147	197	52	86	344	69	85	75	1,579
	その他	311	0	1,115	12	0	2,495	0	3,665	0	638	0	8,236
	(小計)(人)	2,563	3,650	4,592	5,255	8,414	7,360	4,777	9,880	1,662	2,844	1,503	54,008
合計(人)		3,854	5,641	5,899	8,981	13,276	9,778	6,216	10,864	2,821	4,026	2,527	76,515
1 日平均(人)		148.2	217.0	226.9	345.4	491.7	376.1	239.1	417.8	117.5	167.8	105.3	248.4

(2) 企画展示観覧者数

展示名	第15回企画展 カモシカ☆ パラダイス	第17回企画展 みんなの のりもの大集合	第18回企画展 発掘された 日本列島	第19回企画展 オリンピック・ パラリンピック	合計
開催期間	H29.4.15～ H29.6.25	H29.7.8～ H29.9.18	H29.9.30～ H29.11.5	H29.11.18～ H30.1.14	—
開館日数(日)	62	63	32	45	202
有料観覧者	企画展示単独券利用	1,111	7,513	565	9,189
	セット券利用	1,942	6,390	877	9,209
	年間パスポート利用	1,893	4,386	1,058	7,337
	(小計)(人)	4,946	18,289	2,500	25,735
無料観覧者	高校生以下	4,708	20,019	1,561	30,606
	学校利用	2,564	566	3,180	7,929
	視察/招待	963	1,879	1,547	4,860
	障がい者及び付添	682	1,830	310	3,078
	キャンパスメンバーズ	415	386	422	1,337
	その他(※1)	0	12	0	5,854
	(小計)(人)	9,332	24,692	7,020	53,676
合計(人)		14,278	42,981	9,520	79,411
1 日平均(人)		230.3	682.2	297.5	393.1

(3) 交流展示・トピック展示観覧者数

展示名	半泥子の 千歳山荘展	ミス三重	先っちょ志摩	くらしの道具	日本の甲冑	伊勢型紙	合計
開催期間	H29.6.13～ H29.7.2	H29.7.11～ H29.9.3	H29.9.30～ H29.12.3	H30.1.4～ H30.2.16	H30.2.3～ H30.3.18	H30.3.15～ H30.3.21	
開催日数（日）	18	48	57	38	38	7	206
観覧者数（無料）（人）	2,862	14,798	12,632	6,910	11,625	1,046	49,873
1 日平均（人）	159.0	308.3	221.6	181.8	305.9	149.4	1,326.1

● こども体験展示室利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数（日）	26	26	26	26	27	26	26	26	24	24	24	27	308
利用者数（人）	4,966	5,961	5,009	10,252	16,977	8,604	5,206	6,407	3,378	4,278	3,952	5,630	80,620
1 日平均（人）	191.0	229.3	192.7	394.3	628.8	330.9	200.2	246.4	140.8	178.3	164.7	208.5	261.8

● 資料閲覧室利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数（日）	26	26	26	26	27	26	26	26	24	24	24	27	308
入室者数（人）	95	169	94	128	151	79	148	143	55	46	118	99	1,325
1 日平均（人）	3.7	6.5	3.6	4.9	5.6	3.0	5.7	5.5	2.3	1.9	4.9	3.7	4.3
閲覧者数（人）	66	62	29	67	56	35	62	86	36	26	75	64	664
1 日平均（人）	2.5	2.4	1.1	2.6	2.1	1.3	2.4	3.3	1.5	1.1	3.1	2.4	2.2

平成29年度MieMuの活動と運営の各戦略・戦術 内部評価結果・外部評価結果

計画期間(3年):平成29年度～平成31年度

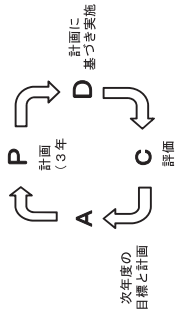
三重県総合博物館(MieMu)が、長期にわたる変遷(ビジョン)の実現に向けて、当面3年間(＝計画期間)に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2,000mの深海から離島1,700m近の山岳までも含む多様な自然環境を有する。東海地方から西海地方までの幅広い日本列島の縦断のような自然を有している。この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都心近く、信仰と商業の発展を有していることから、人・モノ・情報の集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。三重県総合博物館は、このような三重の多様な豊かさを自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特色と素晴らしに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

戦略目標	達成度	戦略を評価するための指標		戦術	達成度	戦術を評価するための指標		内部評価	外部評価
		各戦略の内部評価概要	外部評価			アウトプット(結果)	アウトカム(成果)		
「ともに考え、活動し、成長する博物館」にす るために、博物館の活 動を企画・実施し、こ の自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都心近く、信仰と商業の発展を有していることから、人・モノ・情報の集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。三重県総合博物館は、このような三重の多様な豊かさを自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特色と素晴らしに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。		・68%のリピーター割合を達成した。 各戦術についても、目標(アウトプット)を達成できている。戦術と目標との関係性も、連携が図られている。リピーター割合の獲得は導んでいるが、基本展示の更新やリニューアルや他館との連携したものを合わせ、展示の更新やリニューアルなど、過大な業務量となつたほか基本展示の更新やリニューアルなど課題がある。 ・平成30年度については、トピックなどに取り組む。業務の適正化に取り組む。		何度も利用していただくために、展示(基本展示・展覧会)を充実させます(展示) 1 リピーター割合:50% 実績値:56%	4	展覧会の観覧者数 目標値:75,000人 実績値:79,411人	展覧会のリピーター割合 目標値:50% 実績値:60%	・69%のリピーターを獲得できた。 ・生きもの、乗り物、考古学、スポーツと幅広い視点から三重を紹介することができた。	達成度4
		・68%のリピーター割合を達成した。 各戦術についても、目標(アウトプット)を達成できている。戦術と目標との関係性も、連携が図られている。リピーター割合の獲得は導いているが、基本展示の更新やリニューアルや他館との連携したものを合わせ、展示の更新やリニューアルなど、過大な業務量となつたほか基本展示の更新やリニューアルなど課題がある。 ・平成30年度については、トピックなどに取り組む。業務の適正化に取り組む。		基本展示を何度も利用していただくために、展示の更新や解説などを実施します 2 基本展示の観覧者数 目標値:87,000人 実績値:76,515人	3	基本展示の観覧者数 目標値:87,000人 実績値:80,620人	基本展示のリピーター割合 目標値:50% 実績値:56%	・アウトプットの目標値を達成している。 ・展示更新ができてきた。 ・展示更新の回数も他館と比べて少ない。 ・機器のメンテナンスも行き、展示を際立たせ、観覧者の観覧意欲を削がない対応を求める。	達成度4
		・68%のリピーター割合を達成した。 各戦術についても、目標(アウトプット)を達成できている。戦術と目標との関係性も、連携が図られている。リピーター割合の獲得は導いているが、基本展示の更新やリニューアルや他館との連携したものを合わせ、展示の更新やリニューアルなど、過大な業務量となつたほか基本展示の更新やリニューアルなど課題がある。 ・平成30年度については、トピックなどに取り組む。業務の適正化に取り組む。		親子連れで博物館を楽しんでもらえるように、子ども体験展示室の利用を促進します 3 子ども体験展示室の利用を促進します	4	利用者数 目標値:80,000人 実績値:80,620人	入館者における子ども体験展示室利用 目標値:30% 実績値:33%	・入館者の33%の方にご利用いただけた。 ・利用者に合わせたコンテンツの充実、利用方法の検討が課題である。	達成度4
博物館の存在を広く知っていただくために、積極的な広報を展開します(施策) 1 一般のMieMuの知名度(県政モニターまたは県政モニターアンケートで実施) 目標値:75% 実績値:77%		・モニターの結果から、当館の知名度は目標値以上となっており、前年度と比較しても大きな減少はなかった。 ・入館者90万人、100万人達成など、多くのメディアから注目を集めることができた。 ・文化交流ソーンの各施設でも、相互に情報発信できた。知名度が低い傾向にあるので、今後も移動展示等の機会に広報する必要がある。		メディアに報道してもらったため、メディア向け説明会や内覧会を行います 4 メディアに報道してもらったため、メディア向け説明会や内覧会を行います	4	説明会(内覧会に参加したメディア数:通年累計) 目標値:20社 実績値:23社	参加したメディアの報道回数 目標値:20回 実績値:23回	・全画面で内覧会を実施し、各メディアへの情報提供を行った。 ・県政記者クラブだけでなく、地元の情報誌等にも情報提供し、取材に繋がることできた。	達成度4
		・モニターの結果から、当館の知名度は目標値以上となっており、前年度と比較しても大きな減少はなかった。 ・入館者90万人、100万人達成など、多くのメディアから注目を集めることができた。 ・文化交流ソーンの各施設でも、相互に情報発信できた。知名度が低い傾向にあるので、今後も移動展示等の機会に広報する必要がある。		博物館の活動を知っていたために、ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどを充実させます 5 博物館の活動を知っていたために、ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどを充実させます	4	閲覧数(トップページ累計) 目標値:310,000回 実績値:354,638回	シェアの件数、リツイート数 目標値:250シェア、2,000RT 実績値:286シェア、2,713RT	・各媒体ともに主に更新し、旬の情報発信することができた。 ・広報業務を後援館路広福員に一本化することで、随機応変に対応することができた。	達成度4
		・モニターの結果から、当館の知名度は目標値以上となっており、前年度と比較しても大きな減少はなかった。 ・入館者90万人、100万人達成など、多くのメディアから注目を集めることができた。 ・文化交流ソーンの各施設でも、相互に情報発信できた。知名度が低い傾向にあるので、今後も移動展示等の機会に広報する必要がある。		県内の子どもたちに知ってもらうために、教育委員会と連携した広報を行います(チャラン配布の他、連携事業を含む) 6 県内の子どもたちに知ってもらうために、教育委員会と連携した広報を行います	4	連携事業への参加者数 目標値:100人 実績値:281人	高校生以下の観覧者数 目標値:70,000人 実績値:74,261人	・各児童への企画展チラシ配布のほか、様々な連携事業や研修等でも連携できた。 ・学校訪問においては、利用商品や展示品について、移動展示は特に高く評価したい。 ・数回実施したほか、企画展の普及を図ることも必要である。 ・各児童への企画展チラシ配布のほか、様々な連携事業や研修等でも連携できた。	達成度4
「ともに考え、活動し、成長する博物館」にす るために、博物館の活 動を企画・実施し、こ の自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都心近く、信仰と商業の発展を有していることから、人・モノ・情報の集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。三重県総合博物館は、このような三重の多様な豊かさを自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特色と素晴らしに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。		・多くの方や企業等に、当館の活動に関わっていただくことができた。 ・企業との取組は、当館との信頼感が醸成され、長崎委員が増加している。ミュージアムパートナーやボランティアについては、新規会員の獲得や活動内容の充実等が課題になっている。		博物館を活用した学びを深めるために、ミュージアムパートナーと協働します 7 博物館を活用した学びを深めるために、ミュージアムパートナーと協働します	4	登録者数 目標値:280人(H29) 実績値:272人	MP登録者のうち学びが深まったと感じた方の割合 目標値:60% 実績値:70%	・博物館を活用した事業を活性化し、一般入館者への事業でもないないため、達成度3とした。 ・成果発表会を来館者の多い8月に実施するなど、委員獲得に向けた努力は評価できる。	達成度4
		・多くの方や企業等に、当館の活動に関わっていただくことができた。 ・企業との取組は、当館との信頼感が醸成され、長崎委員が増加している。ミュージアムパートナーやボランティアについては、新規会員の獲得や活動内容の充実等が課題になっている。		活動への企業の参加促進のために、企業との協働による事業を実施します 8 活動への企業の参加促進のために、企業との協働による事業を実施します	4	協働した企業数 目標値:20社 実績値:28社	協働した企業による協働に関する満足度 目標値:80% 実績値:100%	・コーポレーションをはじめ、各企業での事業への講師派遣など様々な取組を行った。 ・当館を活用するメリットを感じていただけたよう努めつつ、業務量のバランスも考慮する必要がある。	達成度4
		・多くの方や企業等に、当館の活動に関わっていただくことができた。 ・企業との取組は、当館との信頼感が醸成され、長崎委員が増加している。ミュージアムパートナーやボランティアについては、新規会員の獲得や活動内容の充実等が課題になっている。		市民の参加を促進するためのボランティア活動の活性化を図ります 9 市民の参加を促進するためのボランティア活動の活性化を図ります	4	登録者数 目標値:30人 実績値:39人	延べ活動回数 目標値:120回 実績値:178回	・今後も活動内容の充実に向けて、メンバーと意見交換する仕組みや、学芸員とのコミュニケーションがとり易いような工夫が必要である。	達成度4

戦略目標	達成度	戦略を評価するための指標 アウトカム（成果）	各職員の内部評価概要		評価結果	
			外部評価		外部評価	

○マネジメントの仕組み



○戦略外の評価項目

・評価士による評価制度に対するレポート

○用語

- ・戦略目標：計画期間中、重点的に目的を持って取り組むこと
- ・戦略：戦略目標達成のために、具体的に取り組むこと

○評価体制

内部評価：内部評価委員会（小川・山口・中村・豊野・間瀬）
外部評価：博物館協議会評価部会（外部委員を含む5名）
評価結果を報告・委員選取
――博物館協議会へ報告

○評価のプロセス

評価者の役割	①自己点検評価	②内部評価	③外部評価
評価者	館員・職員・客	館内外部評価委員会	博物館協議会評価部会
評価作業内容	・指図・アンケート整理 ・評価結果（年度別別）	・評価結果（年度別別） ・改善項目	・評価結果（年度別別） ・改善項目

戦術評価		外部評価
達成度		内部評価

三重県総合博物館 年報 通巻4号（平成29年度）

Mie Prefectural Museum Annual Report No.4

令和元年12月 発行

編集・発行 三重県総合博物館（MieMu）

〒514-0061三重県津市一身田上津部田3060

電話 059-228-2283

FAX 059-229-8310

印刷 共立印刷株式会社